Esuperanto dokushū: kōgi = Fundamento de Esperanto

Iji Shinbunsha

Tokyo; XB-JP 1926

エスペラント獨修

村田正太著

Verf.:

✓ Murata, Masataka: Esuperanto dokusyû. (Memlernado de Esperanto.)
Tôkyô: Izi Sinbun sya 1926.

✓[mit Auszügen aus:] Zamenhof: Fundamento de Esperanto

△ [Selbstlehrbuch f. Esperanto]

エスペラント獨修

Zamenhof 氏 著

Fundamento de Esperanto

講　　義

序　文

この書物は Esperanto の創造者 Zamenhof 氏が自から書かれた Fundamento de Esperanto (エスペラントの基礎)を講義したもので Zamenhof 氏はこの著書の序文で『エスペラントの統一を保つために良いエスペランティストは何れも先づこの Fundamento de Esperanto を充分に習得することを要する』と書かれ，そして『何人も，また如何なる團體も Fundamento de Esperanto に對し，それが如何に鎖細な點であっても恣に或る變更を加へる權利を有してはならない』と宣言して居られる。で Fundamento de Esperanto は一方，エス語の憲法とも見られてゐると同時にエス語の門に入らんとするものゝ必ず先づ第一に讀まなければならない書物になってゐる。私は誰れにでも獨修の出來るやう，なるべく解りやすいやうに詳しく講義したつもりだ。で中等教育を終へてゐる人ならこの講義さへ讀んでしまへばエス語の發音，文法を全部完全に修得しうるは勿論，時々辭書を使ひさへすればどんなエス語の文章でも自由に讀破し得る痛快味を味ふことが出來る。

この書物はさきに出版した『エスペラント講話』の後半を拔刷にし，出來るだけの廉價を目的として出版したもので，この普及版によって若い學生諸君の中から近き將來に於て世界のエス語界をひきゐて行くやうな有力な Esperantistoj の輩出せんことを心から希望してやまない。

大正十五年六月十五日

村田正太

Ni semas kaj samas, neniam laciĝas,
Pri l' tempoj estontaj pensante.
Cent semoj perdiĝas, mil semoj perdiĝas,—
Ni semas kaj semas konstante.
« Ho, ĉesu! » — mokante la homoj admonas,—
« Ne, ĉesu, ne ĉesu! » — en kor' al ni sonas:
« Obstine antaŭen! La nepoj vin benos,
Se vi pacience eltenos! »

きたるべき時を思ひながら倦むことなく
どこまでも私どもは種を蒔いて行く。
百の種も生えず千の種も芽を出さない
それでも私どもはいつまでも蒔くのをよさない。
「よせばよいのに」と嘲りながら忠告する人もある
併し「よすな。よすな。めげず奮闘せよ。
根氣よくやりおほせた時には
お前達の孫はお前達を祝福するのだ」
こう心の中で私どもに囁く聲がする。

(Zamenhof 氏 La vojo (途)の一節)

Fundamento de Esperanto
講　義

§1.

Patro kaj frato.

〔註〕(1) pāt-ro パーゥロ父 (英 paternal 父の)。kāj カーイ「と」。frā-to ゥラート兄弟 (英 fraternal 兄弟の)。(2) 父と兄弟。(3) エス語の母音はアクセントのある音節では長音、それ以外ではいつも長音と短音との中間に位する所謂中長音に發音せられ又アクセントは單音節の語ではその母音、複音節の語では終から二番目の音節に必ずある。で pāt-ro kāj frā-to. (4) j と ŭ は半母音で純粹の母音でないから獨立して一音節を作ることは出來ない。で kaj は ka-j でなく kaj の一音節からなる。(5) j の次に母音のない時は英語の boy の y と同様に輕く i の短音に發音せられる。(6) 母音の i は中長音か長音に發音せられ短音のことはない。(7) 日本人はよく父音 (Konsonant) をそのあとに母音を加へ例へば patro, frato を paturo, furato のやうに發音する惡い癖がある。本書ではゥラのやうに假名の頭に・をつけ父音を表はすことにした。(8) 文章の冒頭と固有名詞だけ花文字、その他はどの品詞でも總て小文字ではじまる。(9) エス語の名詞は必ず o に終り又 o の語尾をもつてゐるものは總て名詞である。(10) エス語には不定冠詞がない。patro kaj frato は英語の a father and a brother 獨逸語の ein Vater und ein Bruder に當る。

Leono estas besto.

〔註〕(1) le-ō-no れオーノ獅子 (英 leonine 獅子のやうな)。ēs-tas エースタス「ある」(獨 ist 佛 est 英 is)。bēs-to ベースト動物 (英 bestial 獸のやうな)。(2) 獅子は動物である。(3) as は動詞の現在を表はす語尾。エス語で as の語尾をもつてゐるものはいつも動詞の現在形。(4) 獨逸語なれば Der Löwe ist ein Tier. と獅子の前に定冠詞をとるがエス語では之

をとらないで Leono estas besto. と云ふ。

Rozo estas floro kaj kolombo estas birdo.

〔註〕(1) rō-zo ローゾ薔薇 (英 rose)。flō-ro ゥろーロ花 (英 floral 花の)。ko-lōm-bo コろーム゙ボ鳩 (英 colombe)。bīr-do ビール゙ド鳥 (英 bird)。(2) ばらは花で鳩は鳥である。(3) r と l とを混同しないやうに。birdo ビール゙ド鳥 bildo ビーるド繪。本書では假に r からなる音を片假名、l からなる音を平假名で表はして置く。(4) z は英語の razor の z の音, 獨の濁音の s (例へば Rose の s) に當る。(4) この文章でも rozo と kolombo の前には定冠詞がついてゐない。

La rozo apartenas al Teodoro.

〔註〕(1) la らー定冠詞 (佛 la。英語の the に當る)。a-par-tē-nas アパルテーナス所屬する (佛 appartenir)。al アーる「に」(英の to にあたる)。Te-o-dō-ro テオドーロ(人名)。(2) このばらは Teodoro にぞくして居る＝このばらは Teodoro のものだ。(3) エス語の冠詞は定冠詞 la があるだけで、この la は英語の the と同じに名詞の性によつて形をかへない。例へば la patro (男性), la fratino (姉妹。女性), la rozo (中性)。(4) エス語では人間の男性女性の他は總て中性として取扱ふ。で rozo, leono, besto, floro, kolombo, birdo のやうな名詞はいづれも中性。(5) エス語の名詞は第四格 (目的格 Objektiv) で n の語尾をとる外、第二格 (持物格 Genitiv), 第三格 (與格 Dativ) では變化しないで第二格は英語の of に相當する de, 第三格は to に相當する al の前置詞を名詞の前に置く。でエス語の de は日本語の「の」、al は「に」のてにをはに當る。

La suno brilas.

〔註〕(1) sū-no スーノ太陽 (英 sun)。brī-las ブ゙リーらス輝く (英 brilliant 輝いてゐる)。(2) 太陽が輝いてゐる。(3) エス語の s は獨逸語の ß 又は濟音の s に當る。でザ行でなくサ行に發音する。

La patro estas sana.

〔註〕(1) sā-na サーナ(ザーナではない)すこやか (英 sanitary 衛生的)。(2) 父は健康です。(3) エス語の形容詞は必ず a に終り又 a の語尾を有する語は總て形容詞である。

La patro estas tajloro.

〔註〕 (1) taj-lō-ro タイろーロ仕立屋 (英 tailor)。 (2) 父は仕立屋です。

§2.

Infano ne estas matura homo.

〔註〕 (1) in-fā-no インフ̇ァーノ小供 (英 infant)。 nē ネー「ない」(英の not 獨の nicht, nein に當る)。ma-tū-ra マつーラ成熟した (英 mature)。 hō-mo ホーモ人間 (佛 homme。英 human 人間の)。 (2) こどもは成熟した人間ではない。 (3) エス語では人間にだけ男女性を認めるが人間でも nfano のやうに性的に發育を遂げてゐないものは中性と見る。 (4) 形容詞は名詞の性によつて語尾を變じない。例へば sana patro (男性), sana fratino (女性), sana infano (中性)。 (5) ne は動詞のすぐ前に置かれる。英獨のやうに動詞の次へは決して置かない。 (6) エス語の f は英獨の f と同じて fa, fi, fu, fe, fo はフ̇ァフ̇ィフ̇フ̇ェフ̇ォと齒を下脣に輕くつけて發音する。日本人には fu を「フ」, fe を「ヘ」と發音する人が多い。又 tu も英獨の tu と同じで日本語の「ツ」ではない。それで infano をインハーノ、matura をマツーラなどゝ發音しないやう御注意。 (7) 本書では假に fa, fi, fu, fe, fo をフ̇ァフ̇ィフ̇フ̇ェフ̇ォ、tu を「つ」の假名で表はして置く。

La infano jam ne ploras.

〔註〕 (1) jām ィヤーム「もう」。 plō-ras プ̇ろーラス泣く (佛 pleurer)。 (2) この子はもう泣いてゐません。 (3) jam は獨逸の schon (既に)の意味もあるが jam ne の jam は nicht mehr の mehr に當る。獨逸語では否定詞の nicht が mehr の前に來るがエス語では否定詞 ne は jam の次に來る。 (4) j の次に母音の來る時にはその j は獨逸語の j, 英語の母音の前にある y と同樣に發音する。で jam の ja は獨逸語の ja, nein の ja, 英語の yard の ya と同じに發音する。

La ĉielo estas blua.

〔註〕 (1) ĉi-ē-lo チ̇エーろ空 (佛 ciel)。 blū-a ブ̇ろーア蒼い (英 blue)。 (2) 空は蒼い。 (3) ĉ は英語の church の ch と同じに發音する。で ĉi は日本語の「チ」ではない。假に「チ̇」で表はして置く。

Kie estas la libro kaj la krajono?

〔註〕(1) **kī-e** キーエ「どこ」(英の where 獨の wo に當る)。**līb-ro** リーブロ本 (英 library 圖書館)。kra-**jō**-no クラヨーノ鉛筆 (佛 crayon)。(2) 本と鉛筆はどこにありますか。 (2) krajono の j は母音の前にあるので獨逸語の Bajonett の jo, 英の yoke の yo と同じに發音する。 (3) 疑問文章はいつでも ? で結ぶ。

La libro estas sur la tablo, kaj la krajono kuŝas sur la fenestro.

〔註〕(1) **sūr** スール上に (佛 sur 獨逸語の auf に當る)。**tāb**-lo ターブろテーブル (英 table)。**kū**-ŝas 横はつてゐる (佛 coucher 横へる。獨逸語の liegen に當る)。fe-**nēst**-ro フェネーストロ窓(獨 Fenster)。 (2) 本は机の上にあつて鉛筆は窓に横つてゐます。 (3) ŝ は英語の sh, 獨逸語の sch と同じに發音せられる。ŝi は英の shi, 獨の schi。本書では假に si を「し」ŝi を「シ」として區別し置く。ŝi は日本語の「シ」に酷似しては居るが全く同じ音ではない。 (4) エス語の前置詞は第一格 (Nominativ) を支配する。 (5) 鉛筆のやうに細長いものや紙のやうに薄つぺらなものが横はつて居るときには獨逸語でも sein の代りに liegen を使ふやうにエス語でも estas の代りに kuŝas を使ふ。

Sur la fenestro kuŝas krajono kaj plumo.

〔註〕(1) **plū**-mo プるーモ「ペン」(佛 plume)。 (2) 窓に鉛筆とペンがある。 (3) 獨逸語でも Feder にペンと羽毛の二つの意味があるやうにエス語でも plumo はペンと羽毛の二つを意味するが普通、ペンの意味に使はれる。 (4) エス語の動詞は單數複數によつて形を變じない。この文章の主格は krajono と plumo で英獨の語では單數の場合と異なつた複數形をとるべき所であるがエス語では單數の場合と同じ as の語尾をとり kuŝas となつてゐる。

Jen estas pomo.

〔註〕(1) jēn ィエーン「こゝに」(英語の here, 獨逸語の da 或は siehe, 佛語の voici 又は voilà に當る)。**pō**-mo ポーモ林檎 (佛 pomme)。 (2) ここに林檎がある。 (3) jen の je は英語の yes の ye, 獨逸語の jeder の je と同樣に發音する。

Sur la tero kuŝas ŝtono.

〔註〕(1) tē-ro テーロ地 (佛 terre)。ŝtō-no シュトーノ石 (英 stone 獨 Stein)。(2) 地上に石がある。

§3.

Leono estas forta.

〔註〕(1) fōr-ta フォールタ强い (佛 fort)。(2) 獅子は强い。(3) forta を horta と發音しないやう御注意。

La dentoj de leono estas akraj.

〔註〕(1) dēn-to デーント歯 (英 dentist 歯醫者)。āk-ra アークラ銳い。j は複數を表はす語尾。(2) 獅子の歯は銳い。(3) j は複數を表はす語尾。それで名詞 dento の複數形は dentoj, 形容詞 akra の複數形は akraj 又逆に j の語尾をもつてゐるものは總て複數。で La fratoj estas sanaj (兄弟は健康です)の fratoj は j と o の語尾をもつてゐるので名詞の複數、sanaj は j と a の語尾に終つてゐるので形容詞の複數形と云ふことが直ぐわかる。(4) 獨逸語では der scharfe Zahn, die scharfen Zähne のやうに附加語的 (attributiv) に用ゐられる場合には形容詞は變化するが Der Zahn des Löwen ist scharf. Die Zähne des Löwen sind scharf. のやうに形容詞が述語的 (prädikativ) に用ゐられる場合にはこの scharf のやうに語尾を變じない。しかしエス語では附加語的の場合は勿論、述語的の場合でもその形容する名詞又は代名詞の數に適應する形をとる。で akra dento, akraj dentoj. La dento (單數) de leono estas akra (單數形). La dentoj (複數) de leono estas akraj (複數形). またこの例でも解るやうに動詞は主格の單數複數によつてその形をかへない。で estas は英語の is, are 獨逸語の ist, sind に當る。(5) j は母音でないので獨立して一音節を作らない。で dentoj は dēn-toj, akraj は āk-raj と發音し j のついた爲めアクセントの場所も變せず從つて母音の長さに少しも變化を與へない。

Al leono ne donu la manon.

〔註〕(1) dō-nu ドーヌ與へよ (donu は doni 與へる(不定法) (佛 donner) の命令法)。mā-no マーノ手 (英 manuscript 手 (manu) 記 (script))。n は

第四格 (Akkusativ 目的格)を表はす語尾。 (2) 獅子に手を與へな＝獅子の方へ手を出すな。 (3) u は動詞の命令法を表はす語尾。エス語で u の語尾をもつてゐる動詞をみればいつでも命令法と思へばよい。 (4) エス語では第二格(持物格)は de, 第三格(與格)は al の前置詞を使ひ名詞は變化せずたゞ第四格(目的格)で n の語尾をとる。例へば mano (手は。第一格), de mano (手の。第二格), al mano (手に。第三格), manon (手を。第四格)。 (5) エス語で n の話尾を有するものは名詞、代名詞、副詞、形容詞の別なくいつでも第四格形と見ることが出來る。 (6) 語根に i をつければいつでも不定法を作ることが出來る。例へば donu の語根 don に i をつけ doni とすれば不定法になる。 (7) エス話で i の語尾をもつてゐるものは常に動詞の不定法である。 (8) エス話では通常、命令の文章には！をつけないことが多い。

Mi vidas leonon.

〔註〕(1) mī ミー 私。vī-di ヴィーディ見る (有名な veni, vidi, vici. き(來)み(見)勝つの vidi に當る)。 (2) 私は獅子を見てゐます。 (3) エス語の動詞は單數複數によつて形をかへないと同樣に人稱によつても語尾を變化しない。で一人稱でも三人稱の場合と同樣、現在を表はすには as の語尾を使ふ。でエス語では am, bin, suis など云ふ人稱による動詞の變化形を特に覺える必要がない。卽ちエス語の動詞は數と人稱によつて形を變じない。で現在を表はすにはいつでも語根に as の語尾をつけさへすれば宜しい。 (4) v は英語の v 獨逸語の w と同じに發音する。vi (ヴィ)をビ (bi) と發音しないやう御注意。

Resti kun leono estas danĝere.

〔註〕(1) rēs-ti レースティ「とゞまる」(佛 rester). kūn クーン「と共に」(英の with 獨の mit に相當する前置詞)。dan-ĝē-ra ダンヂェーラ 危險な (英 danger)。e は副詞を表はす語尾。 (2) 獅子とゝまつて居るのは危險だ。 (3) この文章では resti と云ふ不定法が主格でそして動詞の意義を限定するものは文法上副詞であつて形容詞ではない。それで Resti kun leono estas danĝera (形容詞)．は誤りで Resti kun leono estas danĝere. と danĝer は副詞形をとらなければならない。 (4) 他の品詞から副詞を作るにはその語根に e の語尾をつければいゝ。danĝera (形容詞)。danĝere (副

詞)。frato 兄弟(名詞)。frate 兄弟のやうに(副詞)。kun「と」(前置詞)。kune 一所に(副詞)。 (5) ti は英語獨逸語の ti (ティ)で日本語のチではない。ti (ティ)と ĉi (チ。ĉi は英語の chi と同じに發音すればいゝ)を混同すると tiu (その)と ĉiu (各々の)の區別が出來なくなる。 (6) ĝa, ĝi, ĝu, ĝe, ĝo はヂャヂヂュヂェヂョと發音する。

Kiu kuraĝas rajdi sur leono?

〔註〕(1) **kī-u** キーウ「だれ」(英の who 獨の wer に當る)。ku-**rā**-ĝi クラーヂ敢てする (英 courageous 勇敢な。英語の dare 獨逸語の wagen に當る)。**rāj**-di ラーイディ乘る (英 ride 獨 reiten)。 (2) 誰れが獅子に乘つて行くことを敢てするのか。 (3)『乘ることを敢てする』を英語では I dare to ride. 獨逸語では Ich wage zu reiten.『乘ることが出來る』を英語では I can ride. 獨逸語では Ich kann reiten. のやうに說話法の助動詞又は助動詞様に用ゐる動詞のある時にはその本動詞又は本動詞様の動詞は不定法又は不定法に to 或は zu を加へて表はすがエス語でもこの種の動詞の後にはいつも不定法だけを用ゐる。Kiu kuraĝas (說話法の助動詞のやうに使はれてゐる動詞) rajdi (不定法) sur leono? Mi ne povas (出來る。說話法の助動詞) rajdi (不定法). の rajdi はこの規則からいづれも不定法になつてゐる。 (4) 疑問代名詞、關係代名詞等で u の語尾は人, i は「或る」を表はす。それで iu は「ある人」。また k は佛語の qu に當り疑問を表はす。それで kiu は「誰れ」の意味になる。 (5) di は英獨語の di (ディ)と同じで日本語のヂではない。

Mi parolas pri leono.

〔註〕(1) pa-**rō**-li パローリ話す (佛 parler。英 parl (談ずる) iament (所)=議會)。prī プリー「ついて」(英語の about 獨逸語の von 或は über に當る前置詞)。 (2) 私は獅子のことを話してゐます。

§4.

La patro estas bona.

〔註〕(1) **bō**-na ボーナ「よい」(佛 bon 英の good に當る)。 (2) 父はよい人です。

Jen kuŝas la ĉapelo de la patro.

〔註〕(1) ĉa-pē-lo チャペーろ帽子（佛の chapeau）。de デー「の」（第二格を表はす前置詞）。(2) こゝに父の帽子があります。(3) ĉapelo は「つば」のある帽、獨逸語の Hut,「つば」のないのは ĉapo と云ひ獨逸語の Mütze に當る。

Diru al la patro, ke mi estas diligenta.

〔註〕(1) dī-ri ディーり云ふ（佛 dire）。kē ケー「こと」（佛 que。英の that 獨の daß に當る接續詞）。di-li-gēn-ta ディりゲーンタ勤勉な。āl アーる「に」（第三格を表はす前置詞）。(2) 私が勤勉であることを父に云つてください。(3) diru は diri の命令法。(4) diru, diligenta の di（ディ）をヂと發音しないやう御注意。(5) 獨逸語では daß に始まる文章では動詞は文章の最後に置かれる（例へば Sagen sie meinem Vater, daß ich fleißig bin. の bin のやうに）がエス語では ke の爲めに動詞の普通の位置を變じない。

Mi amas la patron.

〔註〕(1) ā-mi アーミ愛する（英 amiable 愛する (ami) 價値のある (able) ＝愛すべき）。n は第四格を表はす語尾。(2) 私は父を愛します。

Venu kune kun la patro.

〔註〕(1) vē-ni ヴェーニ來る（有名な veni, vidi, vici の veni）。kun「と」。kune は kun に副詞の語尾 e をつけたもので「一所に」。(2) 父と一所にお出でなさい。(3) ve（ヴェ）をべ (be) と發音しないやう御注意。

La filo staras apud la patro.

〔註〕(1) fī-lo フィーろ息子（佛 fils。英 filial 子の）。stā-ri スターり立つてゐる（獨 stehen）。ā-pud アーブッ「そば」（英の near by 佛の auprès de 獨の neben 又は an に相當する前置詞）。(2) 息子は父のそばに立つてゐます。(3) filo（フィーろ）を hilo（ヒーろ）と發音しないやう御注意。

La mano de Johano estas pura.

〔註〕(1) Jo-hā-no ヨハーノ人名。pū-ra プーラ淸らか（英 pure）。(2) Johano の手は淸潔だ。(3) 文章の冒頭以外で花文字で書いてあるのは必ず固有名詞。(4) この文章の la mano を複數になほしてください。— La manoj de Johano estas puraj.

Mi konas Johanon.

〔註〕(1) **kō-ni** コーニ知つて居る（佛 connaître）。 (2) 私は Johano を知つてゐます。 (3) koni は獨の kennen に當り人又は所などを知つてゐる場合に用ゐ。あるもの、事柄、理由等を知つてゐると云ふやうな場合には scii (獨の wissen に當る)を使ふ。 (4) 目的格を表はすには普通名詞と固有名詞との區別なく n の語尾をつける。

Ludoviko, donu al mi panon.

〔註〕(1) Lu-do-**vī**-ko ろドヴィーコ人名。 (2) Ludoviko 私にパンをください。 (3) vi (ヴィー) を ビー (bi) と發音しないやう御注意。 (4) 人稱代名詞でも第二格は de，第三格は al の前置詞をつけ第四格は n の語尾をとることは名詞の場合と同じだ。

Mi manĝas per la buŝo kaj flaras per la nazo.

〔註〕(1) **mān**-ĝi マーンヂ食べる（佛 manger）。pēr ペール「よつて」(佛 par 英の through, by means of 獨の mit, mittelst, vermittelst, durch 等に相當する前置詞)。**bū**-ŝo ブーシュ口（佛 bouche）。**flā**-ri フラーリ嗅ぐ（佛 flairer）。**nā**-zo ナーゾ鼻（獨 Nase）。 (2) 私は口でたべ鼻でかぎます。

Antaŭ la domo staras arbo.

〔註〕(1) **ān**-taŭ アーンタウ前（英 antemeridian 午前の (ante (前) meridian (眞中))。英の before 獨の vor に當る前置詞)。**dō**-mo ドーモ家(英 dome)。**ār**-bo アールボ樹（佛 arbre）。 (2) 家の前に樹が立つてゐます。 (3) ŭ は英語の how の w, 獨逸語の Haut の u と同じ音で u の輕い短音と思へばよい。併し ŭ は本來母音でないので j と同じやうに獨立して音節を作ることが出來ない。この點では全く純粹の父音と同樣に取扱はれる。それで antaŭ は an-**tā**-ŭ (アンターウ) ではなく **ān**-taŭ (アーンタウ)。 (4) 母音の u は中長音か長音で決して ŭ のやうに短く發音せられることはない。

La patro estas en la ĉambro.

〔註〕(1) ēn エーン「の中」(佛 en。英獨の in に相當する前置詞)。**ĉām**b-ro チャームブロ部屋（佛 chambre 英 chamber）。 (2) 父は部屋の中にゐます。

§5.

La birdoj flugas.

〔註〕(1) **flu**-gi フるーギ飛ぶ (獨 fliegen 英 fly)。 (2) 鳥が飛んでゐます。 (3) la は名詞の性と格で形を變へないばかりでなく複數になつてもその形を變じない。で la birdo の複數は la birdoj。 (4) 動詞は單數と複數とでその形を變じない。で La birdo (單數) flugas. La birdoj (複數) flugas.

La kanto de la birdoj estas agrabla.

〔註〕(1) **kān**-to カーント歌 (佛 chant)。ag-**rāb**-la アグラーブら「氣もちのいゝ」(英 agreable)。 (2) この鳥の歌は氣持がいゝ。

Donu al la birdoj akvon, ĉar ili volas trinki.

〔註〕(1) **āk**-vo アークヴォ水 (羅 aqua destillata 蒸餾水。英 aquarium 水族館。あか(閼伽))。ĉar チャール「なぜなれば」(佛 car 英の for 獨の weil, da, denn 等に相當する接續詞) **ī**-li イーり彼等 (英語の they 獨逸語の三人稱複數の sie に當る)。**vō**-li ヴォーり欲する (佛 vouloir 獨 wollen, 英 will)。**trīn**-ki ㇳりーンキ飲む (獨 trinken 英 drink)。 (2) 小鳥が飲みたがつてゐますから水をくれてやりなさい。 (3) 三人稱代名詞の單數は il (彼男), ŝi (彼女), ĝi (彼。中性) で複數は男女中性を通じて ili。

La knabo forpelis la birdojn.

〔註〕(1) **knā**-bo クナーボ男の子 (獨 Knabe)。**fōr** フォール「あちらに」(英 forth 獨の fort 又は weg に當る)。**pē**-li ペーり追ふ。is は過去を表はす語尾。 (2) 男の子が鳥を追拂ひました。 (3) forpeli は for (副詞) と peli (動詞) の集つたもの。組立品詞を作る各々の品詞は本來のアクセントと音長を保つ。それで forpeli は for-**pē**-li でなく **fōr-pē**-li。そしてエス語では最後の品詞が第一次、その前の品詞が第二次のアクセントをとるので fōr-pē-li は ◡́ ◡̋ ◡ と發音する。 (4) birdojn を見れば n は目的格, j は複數, o は名詞を表はす語尾なので假令意味は知らないでもこの字は birdo と云ふ名詞の複數で目的格と云ふことは形を見ただけで直ぐわかる。

Ni vidas per la okuloj kaj aŭdas per la oreloj.

〔註〕(1) **nī** ニー吾々。o-**kū**-lo オクーろ眼 (英 oculist 眼科醫)。**aŭ**-di アーウディ聽く (英 audible 聽き得べき)。o-**rē**-lo オレーろ耳 (佛 oreille 獨

Ohr)。(2) 吾々は眼で見、耳できく。(3) ni (吾々)は mi (私)の複數形。

Bonaj infanoj lernas diligente.

〔註〕(1) lēr-ni れールニ學ぶ (獨 lernen)。(2) よい子たちは精出して勉强してゐます。(3) bonaj infanoj は bona infano の複數。(4) diligente は lerni と云ふ動詞の意味を限定してゐるので副詞。それで副詞の語尾 e をとつてゐる。

Aleksandro ne volas lerni, kaj tial mi batas Aleksandron.

〔註〕(1) A-lek-sānd-ro アれクサーンヅロ人名。tī-al ティーアる「それゆゑに」。bā-ti バーティ打つ (佛battre)。(2) Aleksandro は勉强しやうとしない。それで私は Aleksandro を打ちます。(3) k が疑問を意味するやうに t は指示を意味する。iu 或る人。tiu その人。また al は理由を意味する。で ial ある理由のため。tial そのため。kial なぜ。Kial vi ne volas lerni? なぜあなたは學ばうとしませんか。(4) tial, bati 等の ti (ティ)をチと發音しないやう御注意。

De la patro mi ricevis libron, kaj de la frato mi ricevis plumon.

〔註〕(1) dē デー「から」(獨逸語の von に當る)。ri-cē-vi リツェーヴィ受取る (英 receive)。(2) 父からは本を貰ひ兄弟からはペンを貰ひました。(3) c は獨逸語の z と同じに發音する。

Mi venas de la avo kaj mi iras nun al la onklo.

〔註〕(1) vē-ni ヴェーニ來る (佛 venir。英 convene 一所に (con) 來る (vene) =集まる)。ā-vo アーヴォ祖父。ī-ri イーリ行く。nūn ヌーン今 (獨 nun)。ōnk-lo オーンクろ「をぢ」(獨 Onkel)。(2) 私は祖父のところから來まして今、をぢの所へ參るところです。(3) 獨逸語でも Ich komme vom Großvater und gehe nun zum Onkel. と komme を kam (過去形)としないやうに日本語では當然過去形を用ゐる場合にエス語でも現在形を用ゐて居る。例へば『御挨拶を申上に參りました』は獨逸語でも Ich komme, Sie zu begrüßen. と云つて Ich kam, Sie zu begrüßen. としないやうにエス語でも Mi venis saluti vin. とはせず Mi venas saluti vin. と動詞は現在形を

とる。これは日本語の方が論理上正しい。どこまでも論理で押通して行かうと云ふエス語でも時々こうした idiom 的の用法があるので注意を要する。

Mi legas libron.

〔註〕(1) lē-gi れーギ讀む (英 legible 讀み得べき)。(2) 私は本を讀んでゐます。

La patro ne legas libron; sed li skribas leteron.

〔註〕(1) sēd セーヅ併し (英の but 獨の aber 又は sondern)。le-tē-ro 手紙 (英 letter)。(2) 父は本を讀んではゐないで手紙を書いてゐます。

§6.

Papero estas blanka.

〔註〕(1) pa-pē-ro パペーロ紙 (英 paper)。blān-ka ブらーンカ白い (佛 blanc)。(2) 紙は白い。(3) こゝでも papero の前に冠詞がついてゐない。

Blanka papero kuŝas sur la tablo.

〔註〕(1) tāb-lo ターブろ机 (英 table)。sur スール上に。(2) 白い紙が机の上にあります。

La blanka papero jam ne kuŝas sur la tablo.

〔註〕(1) (今の)白い紙はもう机の上にはありません。(2) 前の文章にある blanka papero は漠然と白い紙を意味しこゝの la blanka papero は定冠詞があるので「今の」とか「その」とか特定の白い紙を意味する。

Jen estas la kajero de la juna fraŭlino.

〔註〕(1) ka-jē-ro カイエーロ雜記帳 (佛 cahier)。jū-na ユーナ若い (獨 jung 英 young)。fraŭ-lī-no フラウりーノ女の未婚者 (獨 Fräulein)。(2) こゝに(あの)若いお孃さんの雜記帳があります。(3) ある名詞に in の語尾を加へるとこれに對應する女性名詞を作ることが出來る。例へば frato 兄弟, fratino 姉妹。patro 父, patrino 母。onklo をぢ, onklino をば。(4) in の語尾を有するものは總て女性名詞。これから in の語尾を去ればこの名詞に對應する男性名詞を知ることが出來る。例へば fraŭlino (女の未婚者)から in を去り fraŭlo にすれば男の未婚者。

La patro donis al mi dolĉan pomon.

〔註〕(1) **dōl-ĉa** ドーるチ「おいしい」(佛の doux)。(2) 父は私においしい林檎をくれました。(3) dolĉan pomon は dolĉa pomo の第四格(目的格)。

Rakontu al mia juna amiko belan historion.

〔註〕(1) **ra-kōn-**ti ラコーンティ物語る (佛 raconter)。**mī-**a ミーア私の。a-**mī-**ko アミーコ友人(佛 ami)。**bē-**la べーら美しい (佛 bel。獨の schön)。his-to-**rī-**o ヒストリーオ話、物語、歴史 (英 history 又は story)。(2) 私の若い友人に面白い話を物語つてください。(3) エス語の物主代名詞は人稱代名詞に a の語尾をつけて作る。mi 私, mia 私の。vi あなた, via あなたの。li 彼男, lia 彼男の。ŝi 彼女, ŝia 彼女の。ĝi 彼, ĝia 彼の。ni 吾々, nia 吾々の。vi あなた方, via あなた方の。ili 彼等, ilia 彼等の。(3) bela historio は獨逸語の schöne Geschichte (美しい物語＝面白いお話)。

Mi ne amas obstinajn homojn.

〔註〕(1) obs-**tī-**na オブスティーナ頑固な (英 obstinate)。(2) 私は頑固な人々をすかない。(3) obstinajn homojn は obstina homo の複數 obstinaj homoj の目的格。

Mi deziras al vi bonan tagon, sinjoro!

〔註〕(1) de-**zī-**ri デじーリ希望する (英 desire)。**vī** ヴィー「あなた」(佛 vous) **tā-**go ターゴ日又は晝(獨 Tag)。sin-**jō-**ro しニョーロ君、さん (英語の sir, Mr. 獨逸語の Herr に當る)。(2) 私はあなたに好い日を希望します＝今日は。(3) 獨逸語でも Ich wünsche Ihnen guten Tag! とは普通云はないで單に Guten Tag! と挨拶するやうにエス語でも普通の挨拶にはこんな長たらしいことは云はないで簡單に Bonan tagon, sinjoro! 或は單に Bonan tagon! と短かく云ふ。(4) sinjoro は sin-jo-ro の方が正しいかも知れないが普通 si-njo-ro と njo (羅馬つゞりの nyo (尿と同音)) と發音せられてゐるやうである。(5) sinjoro に對し lady, Frau にあたる字は之に in を加へ si-njo-**rī-**no とする。お孃さんは fraŭlino. (6) 希望又は驚嘆を表はす文章は ! で結ぶ。(7) si はシでなくこの濁音に當る zi もジではない。(8) si は英の sister の si, zi は si の濁音で獨の sitzen の si と同じに發音する。本書では假に si を「し」zi を「じ」で表はして置く。

Bonan matenon! Bonan vesperon! Bonan nokton!

〔註〕(1) ma-**tē**-no マテーノ朝（佛 matin）。ves-**pē**-ro ヴェスペーロ夕、晩（英の evening 獨の Abend に當る）。**nōk**-to ノークト夜（獨 Nacht 英 night）。(2) お早う。今晩は。お休みなさい。(3) 是等の前にはいづれも Mi deziras al vi が略してあるものと思へばよい。

Ĝojan feston! (mi deziras al vi).

〔註〕(1) **ĝō**-ja ヂョーヤ愉快な。**fēs**-to フェースト祝日（獨 Festtag）。(2) 愉快な祝日を希望いたします。(3) festo も hesto と發音しないやう御注意。(4) festo 祝日、祝典。festeno 宴會。

Kia ĝoja festo! (estas hodiaŭ).

〔註〕(1) **kī**-a キーア何んと云ふ（英語の what a 獨逸語の was für ein 又は welch に相當する）。ho-**dī**-aŭ ホディーアウ今日（獨 heute）。(2) 何んと云ふ愉快な祝日でせう（今日は）。

Sur la ĉielo staras la bela suno.

〔註〕(1) 天に美しい太陽が昇つてゐます。(2) 獨逸語では am Himmel と云ふがエス語では sur la ĉielo と云ふ。

En la tago ni vidas la helan sunon, kaj en la nokto ni vidas la palan lunon kaj la belajn stelojn.

〔註〕(1) **hē**-la ヘーラ明るい、鮮かな、うらゝかな（獨 hell）。**pā**-la パーラ蒼白い（英 pale）。**lū**-no るーノ月（佛 lune。Luna-park ルナパーク）。**stē**-lo ステーろ星（獨 Stern）。(2) 晝間吾々はうらゝかな太陽を見、夜間には蒼白い月と美しい星を見る。(3) en は獨逸語の in に當り en la nokto は in der Nacht に相當する。獨逸語では Nacht の時は in を使ひ乍らこれと同じ性質を有する日には im Tage と云はないで am Tage とする。理屈でなく單なる慣習だ。エス語にはこんな不條理はない。nokto の代りに tago が來ても前置詞は同じ en で en la tago とする。

La papero estas tre blanka, sed la neĝo estas pli blanka.

〔註〕(1) trē トレー非常に（佛 très）。**nē**-ĝo ネーヂョ雪（佛 neige）。plī プリー「より多く」（佛 plus。英の more 獨の mehr に當る）。(2) この紙は非

常に白い。併し雪はそれよりもなほ白い。(3) 形容詞の比較級は形容詞はそのまゝでその前に pli (より多く)或は malpli (より少なく)の副詞を置いて表はす。

Lakto estas pli nutra, ol vino.

〔註〕(1) **lāk**-to らークト牛乳 (獨 Laktose 乳糖)。**nūt**-ra ヌーうラ滋養になる (英 nutrimental)。**ōl** オーる「より」(英の than 獨の als に當る)。**vī**-no ヴィーノ葡萄酒。(佛 vin 英 wine)。(2) 牛乳は葡萄酒よりもより滋養になる。(3) 比較級の時「何々よりも」と云ふ時は何々の前に ol を置く。ol の前の , はこゝでは置いてあるが時としてはない場合もある。

Mi havas pli freŝan panon, ol vi.

〔註〕(1) **hā**-vi ハーヴィ持つ (英 have)。**frē**-ŝa ふレーシャ新しい (新鮮な) (英 fresh)。(2) 私はあなたが持つてゐるよりも、より新しいパンを持つてゐます。(3) ol vi の次に havas の略してあるものと見ればよい。(4) 若し「あなたのパンよりも」と云ふ時は ol via とする。その時には via の次に pano が略されることになる。

Ne, vi eraras, sinjoro: via pano estas malpli freŝa, ol mia.

〔註〕(1) nē ネー「いゝえ」(獨 nein 英 no)。e-**rā**-ri エラーリ間違ふ (英 err。獨 irren)。māl マーるは反對を表はす接頭語。pli プリー「より多く」(獨の mehr に當る)。māl-plī マーるプリー「より少なく」(獨の weniger に當る)。(2) いゝえ、あなたは間違つてゐます。あなたのパンは私の(パン)ほど新らしくありません。(3) エス語では獨逸語の Herr よりか頻々に sinjoro を用ゐるやうだ。(4) malpli freŝa ol よりもより少なく新しい=ほど新しくない。(5) この文章の ol mia の mia は獨逸語の das meinige に當る。エス語には meinig, Ihrig, seinig 等に相當する特別の形を認めず mein, Ihr, sein 等に當る mia, via, lia 等の物主代名詞をそのまゝ使ふ。又、人によつては獨逸式に定冠詞を加へ la mia, la via, la lia の形を用ゐてゐる。今、講義してゐる Fundamento de Esperanto (エスペラントの基礎)の中には定冠詞を用ゐてないが Fundamenta krestomatio de la lingvo Esperanto (エスペラント基礎文選)の中には所々 la mia 形を用ゐ Zamenhof 氏はこの使用をも認めて居る。

El ĉiuj miaj infanoj Ernesto estas la plej juna.

〔註〕(1) ēl エーる中で。ĉī-u チィーウ各々の。ĉī-uj チィーウイ總の。Er-nēs-to エルネースト人名。plēj プれーイ最も(多く)(形容詞の最上級を表はす副詞)。(2) 私の總ての子供の中で Ernesto が一番若い。(3) 最上級を表はすには形容詞はその形を變じないでその前に la plej (最も多く)或は la malplej (最も少なく)を置けばいゝ。「何々の中で」は el を何々の前に置く。(3) ĉiuj miaj infanoj は ĉī-uj mī-aj in-fā-noj と發音しないといけない。(4) iu は「ある人」と代名詞的に用ゐる場合と iu homo「或る」人間のやうに形容詞的に用ゐられる場合とある。tiu, kiu のやうに iu の前に t, k 等の加はつて出來た字も同樣に tiu「その人」tiu libro「その」本。kiu 誰 kiu frato「どの」兄弟のやうに二通りに使はれる。(5) t が指示、k が疑問を表はすやうに ĉ は總體を表はす。で ĉiuj は「總ての人」或は「總ての」。ĉiuj の單數形 ĉiu は「各々の人」或は「各々の」(獨の jeder に當る)を意味する。(6) ti と ci と ĉi を混同しないやう御注意。ti は英獨の ti (ティ), ci は獨の zi (ツィ), ĉi は英の chi (チィ) と同じに發音する。

Mi estas tiel forta, kiel vi.

〔註〕(1) tī-el ティーエる「そのやうに」。kī-el キーエる「どのやうに」「如く」(英の how 又は as, 獨の wie に當る)。(2) 私はあなたぐらひ力が强い。(3) 同じ程度を示すには tiel, kiel を用ゐる。獨逸語の so, wie に當る。(4) wie に「どのやうに」と「如く」の二つの意味があるやうにエス語の kiel にもこの二つの意味がある。(5) al は tial「それ故に」, kial「なぜ」のやうに理由を意味するが el は方法を意味する。iel「ある方法で」, tiel「その方法で」或は「そのやうに」, kiel「どのやうに」。Kiel vi fartas? どのやうに暮すか＝御機嫌は如何ですか。Kiel vi fartas? の代りに Kiel vi sanas? とも云ふ。

El ĉiuj siaj fratoj Antono estas la malplej saĝa.

〔註〕(1) sī-a しーア彼の。Antō-no アントーノ人名。sā-ĝa サーヂャ賢い(佛 sage)。(2) Antono の總ての兄弟の中で Antono は一番賢さが劣つてゐる。(3) 三人稱の名詞又は代名詞が主格である文章の中で主格以外でその主格の代名詞を使ふ場合には普通の三人稱代名詞又は物主代名詞を用ゐないで再歸人稱代名詞 si, 再歸物主代名詞 sia を用ゐる。そしてこの

si, sia は代表する主格の男女中性何れであらうが又單數複數であらうがいつも si, sia で形を異にしない。(4) この文章では Antono が主格で ĉiuj fratoj は Antono の總ての兄弟と云ふ意味であるから上の規則によつて ĉiuj liaj fratoj でなく ciuj siaj fratoj でなければならない。(5) 再歸代名詞は單に主格以外で使はれる。この規則により『Antono と Antono の總ての兄弟が彼等の祖父のところへ行つた』は Antono (主格) kaj ĉiuj liaj fratoj (主格) iris al sia avo. で Antono (主格) kaj ĉiuj siaj fratoj (主格) iris al sia avo. とは云はない。(6) la malplej saĝa 一番少けなく賢い＝賢さでは一番劣る。

§7.

Du homoj povas pli multe fari ol unu.

〔註〕(1) dū づー「二」(英 two)。pō-vi ポーヴ出來る (佛 pouvoir。獨の können 英の can に當る)。mūl-te ムーるテ多く (英 much)。fā-ri ふァーリ「する」(佛 faire)。ū-nu ウーヌ「一」(佛 une)。(2) 二人は一人よりもより多く(仕事)をすることが出來る。(3) この文例では ol の前に , が打つてない。(4) di (ディ)がヂでないやうに du もヅでなく英獨の du と同じに發音する。本書では假に「づ」で表はす。

Mi havas nur unu buŝon, sed mi havas du orelojn.

〔註〕(1) nūr ヌーる「だけ」(獨 nur)。(2) 私は一つの口しかもつてゐないが併し二つの耳をもつてゐる。(3) 基數の數詞は格によつて形を變じない。で. Mi havas nur unun buŝon. などゝは決して云はない。

Li promenas kun tri hundoj.

〔註〕(1) pro-mē-ni プロメーニ散歩する (獨 Promenade 散歩)。trī つリー「三」(梵語 tri。英 triangle 三角形)。hūn-do ふーンド犬 (獨 Hund)。(2) 彼の男は三匹の犬をつれて散歩してゐます。(3) 父音だけの時はその次に u のある氣持でしかも母音の加はらない父音として發音する。promenas は p(u)romenas(u), tri は t(u)ri, sed は sed (u). 併し puromenasu, turi, sedu などと發音してはならない。n だけはンと發音すればよい。(4) hundo の hu は英獨の hu と同樣に發音し日本語のフと發音してはいけない。本書では假に「ふ」で表はして置く。

Li faris ĉion per la dek fingroj de siaj manoj.

〔註〕(1) ĉī-o チィーオ「すべて」。dēk デーク十(英 decade 十年。佛 dix)。fīng-ro フィーングロ指(英獨 Finger)。(2) 彼は自分の手の十本の指で總てのことをしました。(3) u が人, al が理由, el が方法を表はすやうに o は物を意味する。io あるもの。(4) t が指示, k が疑問を表はすやうに ĉ は總體を表はす。ĉio 總て。ĉiuj 總ての人又は總ての。ĉiu 各々の人又は各々の。(4) u に終つてゐるものは名詞的と形容詞的の二樣に使はれるが o に終るものは必ず名詞的にのみ使はれる。(5) この文章の manoj は主格 li の手を意味するので liaj manoj は間違ひで再歸代名詞 sia を使ひ siaj manoj となる。(6) 若しこの文章の li (彼)が ŝi (彼女)であれば Ŝi faris ĉion per la dek fingroj de siaj manoj. になる。この文章で若し si と ŝi との發音を混同して de siaj manoj の siaj を ŝiaj と發音すればこの manoj は主格以外の女の人の手を意味することになる。又 ti と ĉi を區別して發音しないと ĉion (總てのものを) と tion (それを) とを區別することが出來なくなる。

El ŝiaj multaj infanoj unuj estas bonaj kaj aliaj estas malbonaj.

〔註〕(1) ū-nuj ウーヌイ「あるもの」(獨の die einen に當る)。a-lī-a アリーア他の(獨 ander)。(2) 彼女の澤山の小供の中で或るものは善い(子だ)があとのものは惡い。(3) 獨逸語では die anderen とするがエス語では冠詞を加へないで aliaj とする。この aliaj には獨逸語と同じに la の冠詞を加へた方が論理上は正しくはないかと思はれる。

Kvin kaj sep faras dek du.

〔註〕(1) kvīn クヴィーン五(佛 cinq)。sēp セープ七(佛 sept 梵語 saptan 英 september 九月)。(2) 五と七は十二を作る＝五と七は十二になる。(3) 一位の數は ūnu ウーヌ。dū ヅー二。trī ツリー三。kvār クヴール四。kvīn クヴィーン五。sēs セース六。sēp セープ七。ōk オーク八。naŭ ナーウ九。十一から十九までは十(dēk デーク)の次に一位の數を置く。dek unu 十一。dek du 十二。dek tri 十三。dek kvar 十四。dek kvin 十五。dek ses 十六、dek sep 十七。dek ok 十八。dek naŭ 十九。

Dek kaj dek faras dudek. Kvar kaj dek ok faras dudek du. Tridek kaj kvardek kvin faras sepdek kvin.

〔註〕(1) 十と十は二十。四と十八は二十二。三十と四十五は七十五。(2) 十位の數は dek の頭に二、三、四等を加へ二十は dudek, 三十は tridek, 四十は kvardek, 七十は sepdek のやうに作る。何十いくつと云ふ時にはその次へ一位の數を置けばいゝ。例へば二十二は dudek du, 四十五は kvardek kvin, 七十五は sepdek kvin. (3) 百は cēnt ツェーンう。千は mīl ミーる。百位、千位の數も十位の數と同じやうにその頭に二、三、四等の數字を加へ例へば二千八百は dumil okcent。(4) 獨逸語でも普通 hundert, tausend と云つて einhundert, eintausend とは云はないやうにエス語でも unucent, unumil とは云はない。それで千百は unumil unucent でなく mil cent と云ふ。(5) エス語の數字は一位、十位、百位のやうに各位にまとめて書く。例へば千八百九十三は mil okcent naŭdek tri。

Li havas dek unu infanojn.

〔註〕(1) 彼は十一人の小供をもつてゐます。(2) infano は小供 (英の infant, child 獨の Kind)。男の子は knabo (獨 Knabe)。女の子は knabino (獨 Mädchen)。

Sesdek minutoj faras unu horon, kaj unu minuto konsistas el sesdek sekundoj.

〔註〕(1) mi-**nū**-to ミヌート分 (英 minute)。**hō**-ro ホーロ時間 (英 hour)。kon-**sīs**-ti コンしーステ「なりたつ」(英 consist)。ēl エーる「から」。se-**kūn**-do セクーンド (獨 Sekunde)。(2) 六十分は一時間を作り一分は六十秒からなつてゐる。(3) 基數は格によつて變化しない。それで unu horo の第四格は unu horon で unun horon とは決して云はない。

Januaro estas la unua monato de la jaro, Aprilo estas la kvara, Novembro estas la dek-unua, Decembro estas la dek-dua.

〔註〕(1) Ja-nu-**ā**-ro ヤヌアーロ一月 (獨 Januar 英 January)。(數詞)+a は順序數。例へば unu 一。unua 第一の。kvar 四。kvara 第四の。dek

unu 十一。dek-unua 第十一の。dek du 十二。dek-dua 第十二の。mo-nā-to モナート月（獨 Monat）。jā-ro ヤーロ年（獨 Jahr 英 year）。Ap-rī-lo アプリーろ四月（英獨 April）。No-vēmb-ro ノヴェームブロ十一月（英獨 November）。De-cēmb-ro デツェームブロ十二月（英 December 獨 Dezember）。(2) 一月は一年の第一番目の月で四月は四番目、十一月は十一番目、十二月は十二番目の月である。(3) 基數を書く時は各位で離して書くが順序數の時はその各々の位を一で結びつける。例へば「第十一の」は dek-unua,「第十二の」は dek-dua,「第百二十三の」は cent-dudek-tria のやうにする。併し基數の通りに書いて一を附けない例もある。(4) 月の名をこゝでは固有名詞として花文字ではじめてあるがこの頃の文章では小文字にしてあるのが多いやうだ。

La dudeka (tago) de Februaro estas la kvindek-unua tago de la jaro.

〔註〕(1) Feb-ru-ā-ro フェブルアーロ二月（獨 Februar 英 February）。(2) 二月の二十日はその年の五十一番目の日です。(3) 二月の二十日と云ふ場合には普通 tago を省いて la dudeka de Februaro と云ふ。

La sepan tagon de la semajno Dio elektis, ke ĝi estu pli sankta, ol la ses unuaj tagoj.

〔註〕(1) se-māj-no セマーイノ週（佛 semaine）。Dī-o ディーオ神（佛 Dieu）。e-lēk-ti エれークティ擇ぶ（英 elect）。ke＋(命令法)は命令または希望を表はす。sānk-ta サーンクタ神聖な（英 sanctuary 神聖な (sanct) ところ (uary)＝神殿）。(2) 神は一週の第七日目の日をこの日が他の六日よりもより神聖であれと擇んだ。(3) 順序數は形容詞と同樣に取扱はれる。それで la sepa tago の複數は la sepaj tagoj でこれ等の第四格は la sepan tagon, la sepajn tagojn。(4) ke ĝi estu.... この日があれよ (estu) と (ke)。「私の所へ來るやうに私の姪に云つてください」。Diru al mia nevino, ke ŝi venu al mi. (5) la ses unuaj tagoj の unuaj としたのは la unua tago, la dua tago, la tria tago, la kvara tago, la kvina tago, la sesa tago 卽ちいづれも順序數をもつてゐる爲め unuaj とし unuj とはしない。(6) 神は英獨佛どこでも大文字で書くやうにエス語でも Dio と大文字ではじめる。

Kion Dio kreis en la sesa tago?

〔註〕(1) kī-o キーオ何 (英の what 獨の was に當る)。krē-i クレーイ 創る (英 create)。(2) 六日目に神は何を創られたのか。(3) i は「或る」を o は「もの」を表はし k は疑問を意味する。io あるもの。kio 何。

Kiun daton ni havas hodiaŭ? Hodiaŭ estas la dudek sepa (tago) de Marto.

〔註〕(1) dā-to ダート日(附)(英 date 獨 Datum)。ho-dī-aŭ ホディーアウ今日(獨 heute)。Mār-to マールト三月(英 March 獨 März)。(2) どの日を吾吾は今日もつてゐるのか＝今日は何日ですか。今日は三月の二十七日です。(3) iu ある。tiu その。kiu どの。ĉiu 各々の。(4) Hodiaŭ estas la dudek sepa de Marto は Hodiaŭ ni havas la dudek sepan de Marto. としても同じ意味である。(5)「今日は何曜日ですか」は dato の代りに tago 又は semajna tago を使ひ Kiun (semajnan) tagon ni havas hodiaŭ? 又は Kiu tago estas hodiaŭ?「今日は月曜です」は Hodiaŭ ni havas lundon.「昨日は日曜でした」は Hieraŭ ni havis dimanĉon.「明日は火曜です」は Morgaŭ ni havos mardon. (6) dimānĉo ディマーンチョ日曜。lūndo るーンド月曜。mārdo マールド火曜。merkrēdo メルクレード水曜。ĵaŭdo ジャーウド木曜。vendrēdo ヴェンヅレード金曜。sabāto サバート土曜。(7) Januāro ィヤヌアーロ一月。Februāro フェブルアーロ二月。Mārto マールト三月。Aprīlo アプリーろ四月。Mājo マーヨ五月。Junīo ユニーオ六月。Julīo ユリーオ七月。Augūsto アウグーストハ月。Septēmbro セプテームブロ九月。Oktōbro オクトーブロ十月。Novēmbro ノヴェームブロ十一月。Decēmbro デツェームブロ十二月。

§8.

Mi havas cent pomojn. Mi havas centon da pomoj.

〔註〕(1) cent ツェーンう百 (數詞)。(英 centigram, percent の cent)。cēn-to ツェーント百(名詞)。da「の」(數量を表はす前置詞)。(2) 私は百、林檎をもつてゐます。私は林檎を百もつてゐます。(3) cent は數詞、これを名詞化すれば cento。dek du は數詞、之を名詞化すれば dekduo (ダース)。(數

詞の名詞化したもの)＋da＋(名詞)は(數詞)＋(名詞)と同じ意味で Mi havas cent (數詞) pomojn (名詞). は Mi havas centon (數詞の名詞化したもの) da pomoj (名詞). と同じ意味をもつてゐる。

Tiu ĉi urbo havas milionon da loĝantoj.

〔註〕(1) tī-u ティーウ その。ĉī チー は接近を表はす副詞。tiu ĉi この。ūr-bo ウールボ都會。mi-li-ō-no ミリオーノ 百萬(英獨 Million)。lō-ĝi ろージ 住む(佛 loger)。lo-ĝān-to ろヂーント 住民。(2) この都會は住民を百萬人もつてゐる。(3) 獨逸語でも Million は花文字で書いて名詞とするやうにエス語でも miliono と o に終り二百萬は du milionoj とする。(4) Tiu ĉi urbo havas milionon da loĝantoj. 或は Tiu ĉi urbo havas milionon loĝantojn. いづれでもよろしい。(5) エス語の現在分詞は語根に ant を加へて作る。例へば loĝi 住ふ, loĝant 住ひつゝある。loĝanto はこの loĝant に o の語尾を加へ「住つてゐる人」卽ち住民。(6)英語でも inhabit (住む) に ant をつけ inhabitant とすれば住民。serve (勤める)に ant をつければ servant (召使)。loĝi と loĝanto との關係と全然同じだ。(7) Esperanto は esperi (希望する)の現在分詞 esperant に o を加へた「希望する人」から出來た言葉で Zamenhof 氏が 1887 年はじめてこの世界補助語を公にした時 doktoro Esperanto の匿名を用ゐこの匿名が何時とはなしにこの言葉の名稱として使はれるやうになつた。

Mi aĉetis dekduon (aŭ dek-duon) da kuleroj kaj du dekduojn da forkoj.

〔註〕(1) a-ĉē-ti アチェーティ 買ふ(佛 acheter)。aŭ アーウ 或は。dekduo 十二。一ダース。ku-lē-ro クれーロ 匙(佛 cuillère)。fōr-ko フォールコ「ホーク」(英 fork)。(2)私は匙を一ダースとホークを二ダース買ひました。(3) この文章は Mi aĉetis dekdu kulerojn kaj dudek kvar forkojn. としても意味は變らない。(4) fo を日本人は ho の音にして fork をホーク (hork) と云つてゐるが forko を horko などゝ發音してはいけない。上顎の齒を輕く下脣へつけて ファ フィ フゥ フェ フォ と發音すれば fa, fi, fu, fe, fo の完全な音が出る。

Mil jaroj (aŭ milo da jaroj) faras jarmilon.

〔註〕(1) jarmilo 十世紀。(2) 千年は jarmilo (十世紀)になる。(3) jarmilo

と同様に jarcento (世紀)を作ることが出來る。jarcento (獨逸語の Jahr-hundert) の代りに centjaro と云ふ形もよく用ゐられてゐるがエス語では主要の品詞が後に置かれ從つて第一次の アクセント も後の品詞にあるのでこの場合には miljaro, centjaro よりもこゝに使つてある jarmilo, jarcento の方が純エス語式のやうに思はれる。

Por ĉiu tago mi ricevas kvin frankojn, sed por la hodiaŭa tago mi ricevis duoblan pagon, t.e. (=tio estas) dek frankojn.

〔註〕(1) pōr 對して(佛 pour。英の for, 獨の für に當る前置詞)。frān-ko ラランシコ「フラン」。obl は倍數を表はす。duobla ヅオーブら 二倍の (英 double)。pā-go パーゴ支拂(英 pay 支拂ふ)。tio estas 卽ち。英語の that is に當る。(2) 私は每日五フランを貰つてゐますが今日の一日に對しては二倍の支拂卽ち十フランを受取りました。(3) tio そのもの。ĉio 各々のもの。この o に終つて居るものは「物」だけを意味し「人」は意味しない。そして又、決して形容詞的に使はれることはない。ところが tiu, ĉiu, kiu のやうに u に終つてゐるものは人又は物いづれにも使はれ又、名詞的にも形容詞的(例へば ĉiu tago (每日)のやうに)にも使はれる。(4) hodiaŭ は副詞。これに a をつければ形容詞になる。la hodiaŭa tago, la hodiaŭa ĵurnalo (今日の新聞)。(5) obl は獨逸語の fach に當る。二倍は duobla, 三倍は triobla, 五倍は kvinobla, 百倍は centobla。

Kvinoble sep estas tridek kvin.

〔註〕(1) 七の五倍は三十五である。(2) oblo と o をつければ名詞, a をつけて obla にすれば形容詞, e をつけて oble にすれば副詞になる。

Tri estas duono de ses.

〔註〕(1) on は分數を表はす。(2) 三は六の半分である。(3) duono 二分の一。triono 三分の一。kvinono 五分の一。分子が一以上の時は onoj にしその前に分子を置く。例へば五分の四は kvar kvinonoj。この j をとるのは kvinono (五分の一)が四つ卽ち複數になる爲めである。Ok estas kvar kvinonoj de dek。八は十の五分の四である。

Kvar metroj da tiu ĉi ŝtofo kostas naŭ frankojn;

tial du metroj kostas kvar kaj duonon frankojn (aŭ da frankoj).

〔註〕(1) mē̆t-ro メートロ「メートル」(英 metre)。ŝtō-fo シュトーフォ 切れ地(獨 Stoff 英 stuff)。kōs-ti コースティ値する(英 cost 獨 kosten)。(2) この(種類の)片れ地の四メートルは九フランします。それで二メートルは四フラン半します。(3) エス語では値段とか長さ重さなどを表はすに目的格の形を使ふ。それで naŭ frankojn, duonon frankojn と n の語尾をとつてゐる。『私の家は目黒から半哩です』は Mia domo estas duonon mejlon de Meguro. 『このパンは二ポンドあります』は Tiu ĉi pano pezas (重さを有する) du funtojn. (4) da は物量を表はす前置詞であるのでその前には必ずしも數詞の來るのを要しない。或る數量を表はす名詞が來ても差閊ない。で glaso da vino 葡萄酒のコップ一杯＝一杯の葡萄酒。multo da sukero 砂糖の澤山。amaso da birdoj 鳥の群。また數量を表はすものなれば必ずしも名詞であることを要しない。例へば multe (副詞) da sukero 砂糖の澤山。kelke (副詞) da tagoj 二三日 (kelke は獨逸語の einige に當る) (5) da は數量を表はすに使はれるが或る特定のものゝ場合には da を使はないで de を使ふ。例へばこの片れ地の四メートルと云ふ場合には kvar metroj da la ŝtofo と云はないで kvar metroj de l'ŝtofo とする。卽ち定冠詞 la の前には決して da は置かれない。(6) 一見特定のやうに思はれても kvar metroj da tiu ĉi ŝtofo の場合のやうに ŝtofo そのものを特定したのでなく「この種類のきれぢ」と單に種類の特定せられてゐるに過ぎないやうな場合には de を使はないでこの文例で見るやうに da の前置詞を使ふ。(7) 母音に終る前置詞の次に la の來る時は la の a を省略し de l'ŝtofo のやうにすることが出來る。この時は del ŝtofo と發音する。

Unu tago estas tricent-sesdek-kvinono aŭ tricent-sesdek-sesono de jaro.

〔註〕(1) 一日は一年の三百六十五分の一か或は三百六十六分の一である。(2) 數字の間の - はあつても無くともよろしい。

Tiuj ĉi du amikoj promenas ĉiam duope.

〔註〕(1) ĉī-am チーアム「いつも」。op「づゝ」を表はす。(2) この二人の友人はいつも二人で散歩します。(3) tiu ĉi の形容詞的に用ゐられる時は tiu

は形容詞と同じ語尾の變化をする。併し ĉi は不變詞(この場合には副詞)でこの際少しも形を變へない。tiu ĉi amiko, tiuj ĉi amikoj; tiun ĉi amikon, tiujn ĉi amikojn. (4) op は獨逸語の zu zweien, zu vieren 等の zu に相當する。duope ヅオーペ二づゝ。triope 三づゝ。kvarope 四づゝ。a を加へれば duopa 二づゝの。triopa 三づゝの。kvaropa 四づゝの形容詞になる。上文では promeni の意義を限定するので duope と副詞になつてゐる。(5) kio (何)の o は「もの」。kiu (誰)の u は人。kia (どんな)の a が性質。kiel (どのやうに)の el が方法。kial (なぜ)の al が理由を意味するやうに am は時を意味する。それで iam「ある時」。ĉiam「總ての時」卽ち「いつも」。

Kvinope ili sin ĵetis sur min, sed mi venkis ĉiujn kvin atakantojn.

〔註〕(1) ĵē-ti ジェーテ「なげる」(佛 jeter 英 interjection 間投詞)。ĵeti sin とびかゝる。vēn-ki ヹーンキ 打勝つ (佛 vaincre)。a-tā-ki アターキ 攻擊する (英 attack). (2) 彼等は五人一所になつて私にとびかゝつて來たが併し私はこの五人の總ての攻擊者を負かした。(3) sur は獨逸語の auf に相當し「上で」と「上へ」の二つの意味をもつて居るので「上へ」を表はす爲め上の文章では sur min と mi を第四格にしてある。sur iun ĵeti sin 或人にとびかゝる。(4) 前置詞の次に第四格の來る場合は働が他の範圍に及ぶことを表はす。(5) ant は現在分詞の語尾。atakant は ataki の現在分詞。之に o の語尾をつけ atakanto 攻擊する人。

Por miaj kvar infanoj mi aĉetis dek du pomojn, kaj al ĉiu el la infanoj mi donis po tri pomoj.

〔註〕(1) pō ポー「づゝ」(前置詞)。(2) 私は四人の私の小供の爲めに林檎を十二買ひました。そしてこの小供の一人々々に林檎を三つ宛やりました。(3) al ĉiu el la infanoj その小供の中の (el) 各々に。この el は Li estas la p saĝa el la infanoj (彼は小供の中で一番かしこい)の el と同じ意味である。(4) 一寸考へると Mi donis al ĉiu el la infanoj po tri pomoj. は「三つの林檎を」と云ふ意味だので po tri pomojn とありさうに思はれるが前置詞は第一格を支配すると云ふ規則から po tri pomoj となつてゐる。若しこの po の前置詞がなく單に「私は小供に林檎を三つやり

ました」なら Mi donis al la infanoj tri pomojn. と pomoj は pomojn にすべきは勿論である。

Tiu ĉi libro havas sesdek paĝojn; tial, se mi legos en ĉiu tago po dek kvin paĝoj, mi finos la tutan libron en kvar tagoj.

〔註〕(1) pā-ĝo パーヂ頁(ページ) (英 page)。lē-gi レーギ讀む (英 legible 讀み得る)。fī-ni フィーニ終へる (英 finish)。sē セー「もしも」(佛 si)。os は未來を表はす動詞の語尾。tū-ta ツータ全い (英 total)。 (2) この本は六十ページあります。それで私が毎日十四ページづゝ讀みますと四日すれば全卷を讀み終ります。 (3)「私は十五頁よみました」は Mi legis dek kvin paĝojn. であるが「私は十五頁づゝよみました」は Mi legis po dek kvin paĝoj. 上文でも po がある爲めに paĝojn でなく paĝoj となつてゐる。 (4) 現在が as, 過去が is の語尾をとるやうに未來はいつも os の語尾をとり人稱と數によつて形をかへない。 (5) en kvar tagoj の en は獨逸語の in vier Tagen の in に相當し「四日の後には」の意味。

§9.

Mi legas. Ci skribas (anstataŭ "ci" oni uzas ordinare "vi").

〔註〕(1) cī ツィー お前 (獨逸語の du に當る)。ans-tā-taŭ アンスタータウ代りに (獨 anstatt に相當する前置詞)。ō-ni オーニ 人々 (佛 on。英の one 獨の man に當る)。ū-zi ウーじ 使ふ (英 use)。or-di-nā-re オルディナーレ 普通 (英 ordinary)。 (2) 私は讀んでゐます。お前は書いてゐる。(ci の代りに普通 vi を用ゐる)。 (3) こゝにも注意してあるやうに二人稱には通常 ci は使はないで vi を使ふ。この vi は二人稱なれば單數にも複數にも用ゐられる。英獨佛でも you, Sie, vous のやうに二人稱の單數と複數は同形である。日本語では單數は「あなた」複數は「あなた方」支那語でも單數が您(ニー)で複數が您們(ニーメン)。この點では日本語支那語の方が優れてゐる。

Li estas knabo, kaj ŝi estas knabino.

〔註〕(1) li リー彼(男性)。ŝi シィー彼女(女性)。 (2) 彼は男の子で彼女は

女の子だ。(3) in が女性名詞を表はすことは既に度々説明した。knabo 男の子。knabino 女の子。

La tranĉilo tranĉas bone, ĉar ĝi estas akra.

〔註〕(1) ĝi ヂー 彼、それ(中性)。 (2) trān-ĉi トラーンチ 切る (佛 trancher)。ilo は道具を表はす接尾語。 (3) この刃物は鋭いのでよく切れる。 (4) tranĉi 切る。tranĉilo 切るもの＝ナイフ。tondi トーンヂ「はさむ」。tondilo トンヂーろ 鋏。kudri クーヅリ 縫ふ。kudrilo クヅリーろ 縫ふもの＝針。manĝi マーンヂ 食べる。manĝilo マンヂーろ「たべるに使ふもの」＝食器。

Ni estas homoj. Vi estas infanoj. Ili estas rusoj.

〔註〕(1) ni ニー吾々。vi あなた方。ili 彼等(男女中性に共通)。rū-so ルーソ ロシヤ人 (英 russ)。 (2) 吾々は人間である。あなた方は小供である。彼等はロシヤ人である。 (3) 以上の例は動詞の語尾は人稱と數によつて形をかへないことを示して居る。

Kie estas la knaboj? Ili estas en la ĝardeno. Kie estas la knabinoj? Ili ankaŭ estas en la ĝardeno. Kie estas la tranĉiloj? Ili kuŝas sur la tablo.

〔註〕(1) ĝar-dē-no ヂァルデーノ 庭 (英 garden)。ān-kaŭ アーンカウ 亦。 (2) 男の子は何處にゐますか。彼等は庭に居ます。女の子はどこに居ますか。彼等も庭にゐます。ナイフはどこにありますか。ナイフは机の上にあります。( ) 男性女性中性を通じ三人稱の複數は ili の代名詞を使ふ。それで上例では皆 ili と出て居る。(4) e は場所を表はす。ie ある所。tie そこ。tie ĉi こゝ。ĉie 到處。kie どこ。

Mi vokas la knabon, kaj li venas. Mi vokas la knabinon, kaj ŝi venas. La infano ploras, ĉar ĝi volas manĝi. La infanoj ploras, ĉar ili volas manĝi.

〔註〕(1) vō-ki ヴォーキ 呼ぶ (英 convoke 一所に (con) 呼ぶ (voke)＝呼び集める)。plō-ri プろーリ 泣く (佛 pleurer 英 deplore 歎く)。 (2) 私は男の子を呼び彼は來ます。私は女の子を呼び彼女は來ます。小供は食べたいので泣いてゐます。この小供達は食べたいので泣いてゐます。 (3) 男

の子は li で女の子は ŝi で受け、未だ性の上から見れば中性とみてもいゝ infano は ĝi で受けこの ĝi の複數は ili であることが上の例でわかる。又、mi でも li でも ŝi でも ĝi でも ili でも卽ち人稱と數とによつて動詞の語尾は少しも變化しないことがこの例でもわかる。

Knabo, vi estas neĝentila. Sinjoro, vi estas neĝentila. Sinjoroj, vi estas neĝentilaj.

〔註〕(1) ne は打消を意味する。ĝen-tī-la ヂェンティーら 叮嚀な(英 gentle)。neĝentila 叮嚀でない。無作法。(2) 小供よ、お前さんは無作法だ。あなたは無作法です。あなた方は無作法です。(3) エス語の vi は單數と複數と同形で例へば Vi mensogas. (mensogi 嘘をつく)だけでは vi が單數か複數がどうしても分らない。併しもし Sinjoro, vi mensogas. Sinjoroj, vi mensogas. 等と前に呼格の sinjoro 又は sinjoroj があればこの形で前の vi は單數、後の vi は複數であることがわかる。又、vi を說明する名詞か形容詞のある時もその名詞又は形容詞の形から逆に vi の單複を決することが出來る。例へば Vi estas knabo. Vi estas knaboj. では前の vi は單數で後の vi は複數。また Vi estas diligenta. Vi estas diligentaj. この文章でも形容詞の語尾から前の vi は單數で後の vi は複數であることが解る。Sinjoro, vi estas neĝentila. Sinjoroj, vi estas neĝentilaj. この文章では sinjoro と neĝentila の形によつて前の vi は「あなた」後の vi は「あなた方」の意味であることが解る。

Mia hundo, vi estas tre fidela.

〔註〕(1) hundo ふンド犬(獨 Hund)。fi-dē-la フィデーら 忠實である(佛 fidèle 英 fidelity 忠實)。(2) 私の犬よ、お前は非常に忠實だ。(3) hu は英獨語の hu で日本語の フ と發音してはいけない。

Oni diras, ke la vero ĉiam venkas.

〔註〕(1) vē-ro ヴェーロ 眞理(英 verity)。(2) 眞理はいつも勝つと世人は申します。(3) oni diras は佛の on dit 英の they say 獨の man sagt に相當する。

En la vintro oni hejtas la fornojn.

〔註〕(1) vīnt-ro ヴィーンうロ 冬(英 winter)。hēj-ti へーイティ 焚く(獨 heizen)。fōr-no フォールノ「ストーブ」(佛 fourneau)。(2) 冬はストーブをた

く。(3) forno は普通のストーブで壁に嵌込んであるストーブは kameno カメーノ (獨 Kamin) と云ふ。

Kiam oni estas riĉa (aŭ ricaj), oni havas multajn amikojn.

〔註〕(1) **kī-am** キーアム「ときには」「いつ」(英の when に當る)。**rī-ĉa** リーチャ (富む 英 rich)。(2) 富んでゐる時には友達が多い。(3) oni は獨逸語の man に當る。man は單數である。oni は又、英語の they に當る。they は複數である。で oni と云ふ字は單數と見ても複數とみても差支のない字だ。で形容詞は riĉa と單數にしても riĉaj と複數にしても差閊ない。(4) Oni havas multajn amikojn. は Oni havas multon da amikoj. としても又 Oni havas multe da amikoj. としても意味は同じだ。(4) iam ある時。tiam その時。ĉiam いつも。kiam いつ。(5) nen は打消を意味する。neniam 決して(英の never 獨の niemals に當る)。

§10.

Li amas min, sed mi lin ne amas.

〔註〕(1) n は目的格を表はす語尾。mi 私。min 私を。li 彼。lin 彼を。(2) 彼は私を愛しますが私は彼を愛しません。(3) 人稱代名詞も第二格は de, 第三格は al の前置詞を使ひ第四格は n の語尾をとる。例へば mi, de mi, al mi, min; li, de li, al li, lin. そうして de mi, de li 等が「私の」「彼の」等を意味する時はこの代りに mia, lia 等の物主代名詞を用ゐることは既に説明して置いた。(4) 併し de が「に」とか「から」のやうに「の」以外の意味をもつてゐる時は mia, lia 等にすることの出來ないのは無論である。

Mi volis lin bati, sed li forkuris de mi.

〔註〕(1) **kū-ri** クーリ 馳る(佛 courir)。dē デー「から」。(2) 私は彼を打たうと思つたが彼は私のところから馳つて行つてしまつた。

Diru al mi vian nomon.

〔註〕(1) **nō-mo** ノーモ名 (N. N. 某 nomen nescio「名を知らない」の意)。(2) 私にお名前を云つてください。

Ne skribu al mi tiajn longajn leterojn.

〔註〕(1) tī-a ティーア こんな。(2) 私にこんな長い手紙を書かないでください。(3) a は性質を表はす。ia ある種の。tia こんな。kia どんな。ĉia あらゆる種類の。nenia どんな‥‥もせぬ(英の no kind of 獨の nirgend に當る)。

Venu al mi hodiaŭ vespere.

〔註〕(1) 私の所へ今晩いらつしやい。(2) vespere は vespero の語根に e をつけて作つた副詞。(3)「彼は夜晝歩いた」は Li marŝis tage kaj nokte. この tage と nokte も名詞 tago, nokto から作つた副詞。

Mi rakontos al vi historion.

〔註〕(1) ra-kōn-ti ラコーンティ 物語る(佛 raconter)。(2) 私はあなたにお話をしてあげませう。

Ĉu vi diris al mi la veron?

〔註〕(1) ĉū チュー は日本語の「か」に當る疑問詞。(2) あなたは私に本統のことを云はれましたか。(3) あなたは私に本統のことを云はれました (Vi diris al mi la veron.) を疑問文章にするには日本文では文章の最後に「か」と加へエス語では文章の冒頭へ ĉu を加へ文章を ? で結ぶ。卽ち「あなたは私に本統のことを云はれましたか」は Ĉu vi diris al mi la veron? になる。

La domo apartenas al li.

〔註〕(1) この家は彼に所屬する＝この家はあの人のです。(2) これを疑問文章にするには ĉu を加へ Ĉu la domo apartenas al li? とすればよろしい。(3) 疑問文章は ĉu ではじめるが併し Kie estas lia domo? (あの男の家はどこにありますか)とか Kial vi ne venis al mi? (なぜ私のところへお出になりませんでした)のやうに kie, kial のやうな疑問詞ではじまる時には決して ĉu を加へない。

Li estas mia onklo, ĉar mia patro estas lia frato.

〔註〕(1) mi 私。mia 私の。li 彼。lia 彼の。(2) 私の父は彼の兄弟ですから彼は私の叔父です。(3) この文例は物主代名詞は人稱代名詞に a の語尾を加へて作ることを示してゐる。

Sinjoro Petro kaj lia edzino tre amas miajn infanojn; mi ankaŭ tre amas iliajn (infanojn).

〔註〕(1) ēd-zo 夫。ed-zī-no 妻。Petro ペーうロ 人名。(2) Petro さんと Petro さんの奥さんは私の小供を非常に可愛がられ私もまた、この二人の方の小供さんを非常に可愛がります。(3) この文章では Petro とその edzino が主格だので edzino の前の物主代名詞は sia でなく lia である。(4) edzo, edzino は ed-zo, ed-zi-no と發音すべきであるが父音の發音のまずい日本人はとかく eduzo, eduzino に傾き易い。それで寧ろ e-dzo, e-dzino と エーヅォ、エヅィーノ と發音した方がいゝ。(5) この場合の dz は c の濁音に發音する。(6) tu は英獨語の tu と同じに發音すべきもので日本語の ツ と混同しないやうに御注意。

Montru al ili vian novan veston.

〔註〕(1) mōn-tri モーンうリ 示す (佛 montrer 英 demonstration 供覧)。nō-va ノーヴ新しい (佛 nouveau 英 new)。vēs-to ヴェースト 着物。(2) 彼等にあなたの新しい着物を見せなさい。(3) vesto 着物。besto 動物。

Mi amas min mem, vi amas vin mem, li amas sin mem, kaj ĉiu homo amas sin mem.

〔註〕(1) mēm メーム 自身 (佛 même 英の self 獨の selbst に當る)。(2) 私は自分自身を愛し、あなたはあなた自身を愛し彼は彼自らを愛しそして各々の人は自分自身を愛します。(3) sin は獨の sich に相當する。この文例は再歸代名詞の用法を示して居る。(4) 再歸代名詞の si と再歸物主代名詞 sia は三人稱だけに用ゐられ一人稱二人稱では決して使はれない。で Mi amas sin mem. だとか Vi amas sin mem. Vi amas sian fraton. など云ふことは決してない。

Mia frato diris al Stefano, ke li amas lin pli, ol sin mem.

〔註〕(1) Stefāno ステフーノ 人名。(2) 私の兄弟は自分自身を愛するよりもより多く彼を (Stefano を) 愛してゐると云ふことを Stefano に話しました。(3) この文章は Mia frato diris al Stefano, と云ふ主文章と ke li amas lin pli, ol sin men. の副文章の二つの文章から出來てゐて副文章の li は mia frato の代名詞である。それで ol sin mem の sin は當然こ

の li 即ち mia frato を表はし lin は Stefano を表はすことになる。若し「私の兄弟が Stefano を愛するよりも更により多く自分自身を愛する」と云つたと假定すると ke 以下の文章は ke li amas sin mem pli, ol lin. となる。

Mi zorgas pri ŝi tiel, kiel mi zorgas pri mi mem; sed ŝi mem tute ne zorgas pri si kaj tute sin ne gardas.

〔註〕(1) zōr-gi ゾールギ 心配する (獨 sorgen)。gār-di ガールディ 注意する、守る (英 guard)。(2) 私は自分自身のことに付て心配すると同じ程度に彼女のことを心配してやりますが彼女自身は自分のことは全然心配しないで又、自分自身のことを全然注意もしない。(3) sed 以下の文章では ŝi が主格であるので pri si, sin は再歸代名詞にする必要がある。もし pri si が pri ŝi で sin が ŝin になれば彼女以外の或る女を意味することになる。

Miaj fratoj havis hodiaŭ gastojn; post la vespermanĝo miaj fratoj eliris kun la gastoj el sia domo kaj akompanis ilin ĝis ilia domo.

〔註〕(1) ha-vi ハーヴィ 持つ (英 have)。gās-to ガースト 客 (獨 Gast 英 guest)。pōst ポースト 後 (羅 posterior, 英の after, behind 獨の nach, hinter に相當する前置詞。英 P. S. (Post scriptum) 追記)。ēl エーる「から」(獨の aus に當る)。a-kom-pā-ni アコムパーニ 同伴する (英 accompany)。ĝīs ヂース「まで」(獨 bis)。(2) 私の兄弟は今日お客様がありました。夕食後、吾々の兄弟はお客様と自分どもの (=吾々の兄弟の) 家から出てお客様の家までお客様と一所に行きました。(3) el sia domo=el la domo de miaj fratoj。(4) Miaj fratoj akompanis ilin (=la gastojn) ĝis ilia domo (=ĝis la domo de la gastoj)。(5) e-li-ri=hinausgehen (獨) 出かける。(6) Ĉu mi povas akompani vin al Ginza? 銀座へお伴が出來ませうか。

Mi jam havas mian ĉapelon; nun serĉu vi vian.

〔註〕(1) sēr-ĉi セールチ 探す (英 search)。nun ヌーン 今。サア。(2) 私はもう私の帽子を持つてゐます。サアあなたはあなたのをお探しなさい。(3) Nun serĉu vi vian. は Nun serĉu vi la vian. いづれでもよろし

い。(4) あなたはあなたの帽子をさがしなさいと特に「あなた」に意味を持たす爲め nun serĉu vian. とせず nun serĉu vi vian. と vi が這入つてゐる。

Mi lavis min en mia ĉambro, kaj ŝi lavis sin en sia ĉambro.

〔註〕(1) lā-vi らーヴィ洗ふ (英 lavatory 洗ふ (lava) 所 (tory)＝洗面所)。ĉamb-ro ちゃームブロ 部屋 (英 chamber)。(2) 私は私の部屋で身體を洗ひ彼女は彼女の部屋で自分の身體を洗ひました。(3) Ŝi lavis sin en sia ĉambro. この ŝi を甲なる女とすれば甲なる女は自分の (sia) 部屋で自分の身體を (sin) 洗つたことになり若し Ŝi lavis ŝin en ŝia ĉambro. とあれば甲なる女は乙なる女の (ŝia) 部屋で乙の身體を (ŝin) 洗つてやつたことになる。(4) si と ŝi の發音を區別しないとこの文章のやうな場合に全く意味がわからなくなる。

La infano serĉis sian pupon; mi montris al la infano, kie kuŝas ĝia pupo.

〔註〕(1) pū-po プーポ 人形 (獨 Puppe 英 puppet)。(2) 小供は自分の人形を探してゐました。私は小供に小供の人形のある所を教へてやりました。(3) Mi montris al la infano, kie kuŝas ĝia pupo. これは Mi montris al la infano と云ふ主文章と kie kuŝas ĝia pupo. と云ふ副文章からなり副文章の主格は pupo である。主格には決して sia を使はない規則から ĝia pupo が sia pupo になるやうなことは決してない。

Oni ne forgesas facile sian unuan amon.

〔註〕(1) for-gē-si フォルゲーし 忘れる (英 forget)。fa-cī-le ファツィーれ 容易に (英 facility)。ā-mo アーモ愛 (英 amatory 戀愛の)。(2) 初戀と云ふものは中々忘れないものだ。(3) forpeli のやうに for と peli の結合してゐるものは fōr-pē-li と for の o を長く發音するが二字からなつてゐない forgesi は fōrgēsi でなく for-gē-si と發音する。(4) 再歸代名詞は主格が三人稱でさへあればそれが固有名詞、普通名詞、代名詞の何であつてもいゝ。また代名詞は普通の代名詞でも亦 oni のやうな不定代名詞でも何でもよい。で Oni ne forgesas facile sian unuan amon. と oni に對し sia を使つてある。

§11.

Nun mi legas, vi legas kaj li legas; ni ĉiuj legas.

〔註〕(1) 今、私は讀んでゐます。あなたは讀んでゐます。そして彼はよんでゐます。卽ち私ども總てのものは讀んでゐます。(2) 動詞の語尾は人稱と數によつて形を變へない。上文はこの好例と見ることが出來る。一人稱 (mi) 二人稱 (vi) 三人稱 (li) いづれも legas。また複數 (ni) でも矢張 legas。(3) ĉiu 各の人，各の。ĉiuj 總ての人，總ての。

Vi skribas kaj la infanoj skribas; ili ĉiuj sidas silente kaj skribas.

〔註〕(1) skribi 書く (英 subscribe 下に (sub) 書く (scribe) = 署名する)。sidi すわつてゐる (英 sit 獨 sitzen)。silente だまつて (英 silent)。(2) あなたは書いてゐます。そして小供等は書いてゐます。彼等はみんな默つて坐つゐて書きものをしてゐます。(3) infano (こども) は中性。この代名詞は ĝi。ĝi の複數は li (彼男), ŝi (彼女) の複數と同形で ili。(4) sidi は獨の sitzen (すわつてゐる) に當り獨の sich setzen (すわる) は sidigi sin 或は sidiĝi。で「おすわりください」は Sidiĝu, mi petas. (peti は願ふ。獨の bitten に當る) 或は Sidigu vin, mi petas. 或は Bonvolu sidiĝi. (bonvoli は好意を持つ。Bonvolu sidiĝi. はすわるべく好意をもて)。

Hieraŭ mi renkontis vian filon, kaj li ĝentile salutis min.

〔註〕(1) hieraŭ 昨日 (佛 hier)。renkonti 出逢ふ (佛 rencontrer)。ĝentile 叮嚀に (英 gentle)。saluti 挨拶する (英 salute)。(2) 昨日あなたの息子さんに出逢ひましたら息子さんは叮嚀に私にお辭儀をしました。(3) hieraŭ 昨日。hodiaŭ 今日。morgaŭ 明日。(4) 誰々に出逢ふは al iu renkonti でも iun renkonti でもよろしい。で Hieraŭ mi renkontis vian filon. は Hieraŭ mi renkontis al via filo. としてもいゝ。(5) ĝentile は saluti の意味を限定する副詞なので e の語尾をとつてゐる。(6) 誰々に挨拶するは iun saluti でも al iu saluti いづれでもよろしい。で Li ĝentile salutis min. は Li ĝentile salutis al mi. と云つてもいゝ。

Hodiaŭ estas sabato, kaj morgaŭ estos dimanĉo.

〔註〕(1) 今日は土曜で明日は日曜です。(2) as は現在, os は未來を表はす語尾。(2) sabato 土曜日。dimanĉo 日曜日。lundo 月曜日。

Hieraŭ estis vendredo, kaj post-morgaŭ estos lundo.

〔註〕(1) 昨日は金曜で明後日は月曜です。(2) is は過去を表はし os は未來を表はす語尾。(3) post 後。antaŭ 前。morgaŭ 明日。post-morgaŭ 明後日。hieraŭ 昨日。antaŭ-hieraŭ 一昨日。(4) mardo 火曜。merkredo 水曜。ĵaŭdo 木曜。vendredo 金曜。

Antaŭ tri tagoj mi vizitis vian kuzon kaj mia vizito faris al li plezuron.

〔註〕(1) antaŭ 前 (英 antemeridian 午前の)。viziti 訪問する (英 visit)。kuzo いとこ (英 cousin)。plezuro よろこび (英 pleasure)。(2) 三日前に私はあなたのいとこさんを訪問しました。そして私の訪問は彼に悦をなした (＝私の訪問をよろこんでくれました)。(3) viziti 訪問する(動詞)の語根に o をつけて vizito とすれば訪問(名詞)になる。(4) 男のいとこが kuzo で女のいとこは kuzino。

Ĉu vi jam trovis vian horloĝon? Mi ĝin ankoraŭ ne serĉis; kiam mi finos mian laboron, mi serĉos mian horloĝon, sed mi timas, ke mi ĝin jam ne trovos.

〔註〕(1) trovi 見出す (佛 trouver)。horloĝo 時計 (佛 horloge)。ankoraŭ 未だ (佛 encore)。serĉi さがす (英 search)。kiam 時に (英 when 獨 wenn)。fini 終へる (佛 finir)。laboro 仕事 (英 labor)。timi 恐れる (英 timid 臆病な。英の fear 獨の fürchten に當る)。(2) あなたはもう貴君の時計を見つけましたか。私は未だ探しませんでした。私の仕事を終へましたら私は私の時計を探します。併しもう時計は見つからない事はないかと心配してゐます。(3) 上文は as, is, os の用例と見ることが出來る。

Kiam mi venis al li, li dormis; sed mi lin vekis.

〔註〕(1) dormi 眠つてゐる (佛 dormir)。veki めざます (英 wake)。(2) 私が彼の所へ行た時に彼は眠つてゐた。併し私は彼をおこした。(3) kiam は英の when に相當する。when が「いつ」と「時に」の二つの意味のあるや

うにエス語の kiam も二様に用ゐられる。Kiam mi venis al li (副文章), li dormis (主文章). のやうに副文章のはじめでは「時に」を意味し Kiam mi venis al li? (いつ私は彼の所へ行きましたか) のやうに疑問を表はす時は「いつ」の意味をもつてゐる。(4) dormi 眠つてゐる (獨 schlafen)。寢入る (獨 einschlafen) は endormi 又は ekdormi。

Se mi estus sana, mi estus feliĉa.

〔註〕(1) se もしも‥‥ならば (佛 si 英の if 獨の wenn に當る)。us は條件法の語尾。sana 健全な。(英 sanitary 衞生的の)。feliĉa 幸福な。(2) もし私が健康でしたら私は幸福でせうに (併し實際は健康でないので不仕合だ)。

Se li scius, ke mi estas tie ĉi, li tuj venus al mi.

〔註〕(1) scii 知る (英 science (知る (sci) こと (ence)=科學))。tuj すぐ。(2) 私がこゝに居ることを若し彼が知れば彼は直ぐ私の所へ來ませうに (併し彼は知らないから來まい)。(3) ke は佛の que, 英の that, 獨の daß にあたる。

Se la lernanto scius bone sian lecionon, la instruanto lin ne punus.

〔註〕(1) lerni 學ぶ (獨 lernen)。ant は現在分詞を表はす語尾。佛の現在分詞を作る ant に相當する。lernanto 學んでゐる人=生徒。leciono 課題 (英 lesson)。instrui 敎へる (英 instruct)。instruanto 敎へてゐる人=敎師。puni 罰する (英 punish)。(2) 生徒が課題をよく知つて居れば敎師は生徒を罰しないのに (よく知らないから罰する)。

Kial vi ne respondas al mi?

〔註〕(1) あなたは何故私に答へませんか。(2) k は疑問を意味する。kio 何。kiu 誰。kie どこ。kiel どのやうに。kiam いつ。kial なぜ。(3) al は理由を表はす。tial それ故。kial なぜ。(4) この文章は疑問詞 kial で始まつてゐるので疑問文章であつても ĉu は加へない。

Ĉu vi estas surda aŭ muta?

〔註〕(1) surda 聾 (英 sourd)。muta 啞 (佛 muet)。(2) 君は聾かそれとも啞なのか。

Iru for!

〔註〕(1) iri 行く。(2) あつちへ行け。(3) u は命令の語尾。(4) この命令文章は ! で結んである。

Infano, ne tuŝu la spegulon!

〔註〕(1) tuŝi 觸る (英 touch)。spegulo 鏡 (獨 Spiegel)。(2) こどもよ。鏡にさわつてはいけない。(3) 何々に觸ると云ふ時は ion tuŝi (何々を觸れる) と云ふ。併し tuŝi al io としても差閊ない。

Karaj infanoj, estu ĉiam honestaj!

〔註〕(1) kara 親愛なる (英の dear に當る)。honesta 正直な (英 honest)。(2) 親愛なる小供達よ。いつも正直であれ。(3) 名詞に添はない形容詞も主格の數に從つて語尾をとるのは英獨語から見ると變なやうであるが上文でも Karaj infanoj, estu ĉiam honestaj (infanoj)! の infanoj を略したものと見れば形容詞がこの場合複數の語尾をとるのは當然であることがわかる。(4) ĉ は總體又は個々を表はす。ĉio 各々のもの。ĉiuj「總ての人」又は「總てのもの」。ĉiu「各々の人」又は「各々のもの」。ĉie 到るところ。ĉiam いつも。

Li venu, kaj mi pardonos al li.

〔註〕(1) pardoni 恕す (英 pardon)。(2) 彼は來ればいゝ。そうすれば私は彼をゆるしてやる。(3) Mi pardonos al li=Mi pardonos lin. (4) 命令は二人稱のものに對すると限らない。上例は三人稱 li に對して居る。この他 Ni iru hodiaŭ al Ujeno! (吾々は今日、上野へ行こうじやないか)のやうに一人稱の場合でも命令法を使ふことがある。Ni iru. は英語の Let us go. に當る。次の Ordonu al li, ke.... の文章も三人稱に對する命令を表はしてゐる。

Ordonu al li, ke li ne babilu.

〔註〕(1) ordoni 命ずる (英 order)。babili しやべる (佛 babiller)。(2) しやべらないやうに彼に云つてください (彼はしやべつてはならないと云ふことを彼に命じてください)。(3)『直ぐ私の所へ來るやうに召使に云つてください』は Ordonu (或は Diru) al mia servanto, ke li tuj venu (命令法) al mi!

Petu ŝin, ke ŝi sendu al mi kandelon.

〔註〕(1) sendi 送る (英 send)。kandelo 蠟燭 (英 candle)。 (2) 私に蠟燭を送つてくださるやうに彼女にお願ひしてください。 (3) この文章は命令と云ふよりも寧ろ希望歎願を表はしてゐる。

Ni estu gajaj, ni uzu bone la vivon, ĉar la vivo ne estas longa.

〔註〕(1) gaja 愉快 (英 gay)。uzi 使用する (英 use)。vivo 生命 (英 revive 再び (re) 生きる (vive)=復活する)。longa 長い (英 long)。 (2) 吾々は愉快にしやう。そしてこの生命をよく利用して行かう。なぜなら生命は長くないから。 (3) この文章では一人稱に對して命令法を使つてある。 (4) Ni uzu (動詞) bone (副詞) la vivon. のやうに副詞は動詞の後に置くこともあるが多くは動詞の前にある。ne は ĉar la vivo ne (副詞) estas (動詞) longa. のやうに必ずその意味を限定する動詞の前にあつて後に來ることはない。 (5) 獨逸語では daß とか weil のやうな從屬的接續詞ではじまる文章では動詞は必ずその文章の終に置かれるがエス語では獨逸式に ĉar la vivo ne longa estas. とせず普通 ĉar la vivo ne estas longa. のやうな語の配列をとる。

Ŝi volas danci.

〔註〕(1) voli 欲する (佛 vouloir 英 will 獨 wollen)。danci ダンスをやる (英 dance)。 (2) 彼女はダンスをやりたがつてゐます。

Morti pro la patrujo estas agrable.

〔註〕(1) morti 死ぬ (英 mortality 死亡率)。pro 爲め (英の for the sake of 獨の wegen 佛の à cause de に當る前置詞)。ujo は容器を表はす接尾語。 (2) 祖國のために死ぬのは愉快なことだ。 (3) この文章の主格は morti と云ふ動詞の不定法で agrabl はこの動詞の意味を限定するので文法上は副詞。それで副詞の語尾 e をとつてゐる。 (4) ujo は容器を意味する。例へば葉卷 (cigaro) 入は cigarujo。錢 (mono) 入は monujo。容器と云ふ意味から轉化して林檎 (pomo) の樹は pomujo。梨 (piro) の樹は pirujo のやうに果樹をさすことがあり又ドイツ人 (germano) の居る國を Germanujo (ドイツ國)、日本人 (japano) の住つてゐる國を Japanujo (日本)、支那人

(Ĉino) のゐる國を Ĉinujo と云ふ。これと同じ意味で父 (patro) の居る國卽ち祖國を patrujo と云ふ。(5) ujo は容器と云ふ意味でどんな名詞へくっつけてもよい。それでコーヒ (kafo) 入は kafujo。お茶 (teo) いれは teujo。砂糖 (sukero) いれは sukerujo.

La infano ne ĉesas petoli.

〔註〕(1) ĉesi よす (英 cease)。petoli ふざける。(2) 小供はふざけるのをよさない。(3)「何々すること」を何々する(例へば欲する)と云ふ場合に「何々すること」は不定法の形をとる。それで Ŝi volas danci (不定法). Du homoj povas pli multe fari (不定法) ol unu. Mi deziras viziti (不定法) vin. La infano ne ĉesas petoli (不定法). で danci, fari, viziti, petoli はいづれも不定法になつてゐる。

§12.

Kiam Nikodemo batas Jozefon, tiam Nikodemo estas la batanto kaj Jozefo estas la batato.

〔註〕(1) kiam ときには。tiam その時には。ant は能働、at は受働の現在分詞を表はす語尾。(2) Nikodemo が Jozefo を打つときにはその時には Nikodemo は打つてゐる人で Jozefo は打たれてゐる人である。(3) ant は能働の現在分詞。それで bati 打つ。batant は打ちつゝある。これに o の語尾を加へて batanto とすれば「打つて居る人」になる。(4) 同様に at は被働の現在分詞で bati 打つ。batat 打たれてゐる。これに o を加へ batato とすれば「打たれてゐる人」の意味になる。(5) ant は英語の servant (仕へて (serv) ゐる人 (ant)=召使), merchant (商ひ (merch) してゐる人 (ant)=商人) の ant に相當する。(6) at は英語の delegate (委任 (deleg) せられた人 (ate)=代理者) 等の at に當る。

Fluanta akvo estas pli pura, ol akvo staranta senmove.

〔註〕(1) flui 流れる (英 fluent 流れる (flu) やうな (ent)=流暢な)。stari 立つてゐる (獨 stehen)。movi 動く (英 move)。sen は佛の sans 獨の ohne 英の without に該當する前置詞であるが他の品詞と結合する場合には英語の -less 獨逸語の -los に相當し「ない」を意味する。で senmove

は「動かないで」。(2) 流れてゐる水は動かないで停滯してゐる水よりもより淸らかである。(3) こゝの fluanta, staranta は現在分詞を形容詞として使つてある。

Promenante sur la strato, mi falis.

〔註〕(1) strato 街 (英 street)。fali 倒れる (英 fall)。(2) 街上を散歩しつゝ(街を散歩してゐるときに)私は倒れた。(3) この文章では現在分詞を副詞として使つてある。倒れた時には現に散歩と云ふ動作を續けてゐるので分詞は現在分詞になつてゐる。(4) sur la strato は獨逸語の auf der Straße に相當する。

Al homo, pekinta senintence, Dio facile pardonas.

〔註〕(1) peki 罪をおかす (佛 pécher)。int は能働の過去分詞を表はす語尾。intenci 目論みる (英 intend)。(2) 思はず罪を犯した人を神は容易に恕す。(3) pardoni は目的格をとつても al の前置詞をとつてもどちらでも宜しい。(4) ant は現在分詞, int は過去分詞。pekinta 罪を(過去に)犯した所の。pekanta なれば罪を(現在)犯してゐる所の。(5) intenci 目論む。この語根に e をつけ副詞にすれば「故意に」。之に sen を加へ senintence とすれば故意がなく卽ち「思はず」の意味になる。(6) この文章では形容詞 pekinta と名詞 homo の間に , があるがこのコンマは打たないでも差閊ない。(7) エス語の形容詞は多くの場合に名詞の前に置かれるが又、この文章の pekinta 前々文章の akvo staranta のやうに後に置かれる場合もある。口調によつてどちらへ置いても差閊ない。佛語にみるやうに形容詞が名詞の前にあると後にあるとによつて意味が變る樣なことはエス語には決してない。

Trovinte pomon, mi ĝin manĝis.

〔註〕(1) 林檎を見つけて私はそれを食べました。(2) 前の Promenante sur la strato, mi falis. は fali した時に散歩すると云ふ動作は繼續してゐたので現在分詞を使つてあるがこの文章では manĝi した時には見つけると云ふ動作は既に終つて過去にぞくして居るので過去分詞を使つてある。

La falinta homo ne povis sin levi.

〔註〕(1) levi あげる (佛 lever)。(2) 倒れた人は起上がる(自分を起きあげる)ことが出來なかつた。(3) fali と云ふ動詞は起上ることが出來なか

つたと云ふ事實よりも前に起つたので falinta と過去分詞になつてゐる。

Ne riproĉu vian amikon, ĉar vi mem plimulte meritas riproĉon; li estas nur unufoja mensoginto, dum vi estas ankoraŭ nun ĉiam mensoganto.

〔註〕(1) riproĉi 非難する (英 reproach)。meriti 値する (英 merit)。fojo 回(第一回第二回等の) (佛 fois)。mensogi 嘘をつく (佛 mentir)。dum「のに」(英の while 獨の während に相當する接續詞)。multe 多く (英 multiform 多(multi)形(form))。unu—(英 uniform—(uni)様(form))。(2) あなたの友人を非難するのはおよしなさい。なぜならあなた自身はより多く非難せられる價値があるから。(と云ふのは)あなたは今でもなほ何時も嘘をついてゐるのに彼の男はたゞ一度嘘をついたゞけである。(3) nur unufoja mensoginto 一回だけ嘘をついた人。ankoraŭ nun ĉiam mensoganto 今でもいつも嘘をついて居る人。(4) 獨逸語の während に「のに」(接續詞)と「間」(前置詞)の二つの用法があるやうにエス語の dum も dum tri horoj「三時間の間」のやうに前置詞として使はれる場合と上文のやうに「のに」の意味で接續詞として使はれる場合とある。

La tempo pasinta jam neniam revenos; la tempon venontan neniu ankoraŭ konas.

〔註〕(1) tempo 時 (英 contemporary 同時代の)。pasi すぎる (英 pass)。nen 打消を表はす接頭語。ont は能動の未來分詞を表はす語尾。(2) 過ぎ去つた時は最早や決して歸つて來ない。來らんとする時を何人も未だ知らない。(3) re は獨逸語の wieder 又は zurück を表はす接頭語。(4) エス語には現在, 過去, 未來の分詞がある。動詞の語尾 as は現在, is が過去, os が未來を表はすやうに現在分詞は ant, 過去分詞は int, 未來分詞は ont の語尾で表はす。(5) venonta は未來分詞を形容詞にしたもの。(6) nen は否定を表はす。nenio (英 nothing); nenia (獨 nirgend); neniam (英 never)。

Venu, ni atendas vin, Savonto de la mondo.

〔註〕(1) atendi 待つ (佛 attendre)。savi 救ふ (英 save)。mondo 世界 (佛 monde)。(2) お出でなさい。私どもはあなたをお待ちしてゐます。この世を救はうとせられてゐる方よ。(3) savinto なれば「救つた人」。savanto なれば「救つて居る人」。savonto なれば「救はんとしてゐる人」。Savonto

de la mondo 救世主は神のことであるので Dio と同じに Savonto は花文字ではじまつて居る。この文章はキリストを迎へるヨハネの言として見るとよくわかる。

En la lingvo «Esperanto» ni vidas la estontan lingvon de la tuta mondo.

〔註〕(1) lingvo 語 (英 linguist 語學者)。 (2) 吾々はエスペラント語に全世界の未來の語を見る＝エスペラントは將來全世界で使用せられる語になると私どもは思ふ。 (3) esti (ある)に分詞の語尾 inta をつけて estinta とすれば「あつた所の」卽ち「過去の」、anta をつけて estanta とすれば「ある所の」卽ち「現在の」、onta をつけて estonta とすれば「あらんとする所の」卽ち「未來の」意味になる。 (4) 獨逸語で In Goethe sieht (或は findet) man einen großen Dichter. と云ふやうにエス語でも En Goethe ni vidas (aŭ trovas) grandan poeton. と同じに云ふことが出來る。上例は之と同じ用例である。

Aŭgusto estas mia plej amata filo.

〔註〕(1) ami 愛する (英 amiable 愛すべき (ami (愛する) able (價値のある))。filo 息子 (英 filial 子の)。 (2) Aŭgusto は一番可愛がられてゐる私の息子です。 (3) 日本語なら『Augusto は私の一番可愛がつて居る息子ですと』云ふがエス語では英獨佛語の場合と同じやうに息子の形容詞は息子を土臺にして考へるのでこの場合の可愛がつてゐるのは amanta とは云はず「愛せられてゐる」卽ち amata と受働の分詞を使ふ。

Mono havata estas pli grava ol havita.

〔註〕(1) mono 錢 (英 money)。grava 大切な (英 grave)。 (2) 持つてゐる錢は持つてゐたものよりもより大切だ。 (3) 日本語では持つてゐる錢、もつてゐた錢と云ふがこゝでも錢を土臺にして考へれば「持たれてゐる錢」(mono havata)「持たれてゐた錢」(havita mono) と云はなければならない。(4) 受働の現在分詞は at, 過去分詞は it, 未來分詞は ot の語尾を語根につけて作る。能働の分詞から n をとつたものと見れば何でもない。

Pasero kaptita estas pli bona, ol aglo kaptota.

〔註〕(1) pasero 雀 (佛 passereau)。kapti 捕へる (英 captive 捕虜)。aglo 鷲 (英 eagle)。 (2) 捕へた雀は捕へやうとして居る鷲よりもよい(れうち

がある)。 (3) こゝでも pasero kaptinta, aglo kaptonta ではなく pasero kaptita, aglo kaptota。 もし pasero kaptinta なれば蟲か何かを捕へた所の雀、即ち雀が他の何かを捕へたことになり aglo kaptonta は他の小鳥か何かを捕へようとしてゐる鷲、即ち鷲が他の何かを捕へやうとしてゐることになる。

La soldatoj kondukis la arestitojn tra la stratoj.

〔註〕 (1) soldato 兵士 (獨 Soldat 英 soldier)。 konduki 導く (英 conduct)。 aresti 逮捕する (英 arrest)。 tra 通して (佛 à travers。 英の through 獨の durch にあたる前置詞)。 (2) 兵士は逮捕したものを街をつれて行た。 (3) aresti 逮捕する。 arestito 逮捕せられた人。 arestinto なれば他のものを逮捕した人。自分は逮捕せられてはゐない。

Li venis al mi tute ne atendite.

〔註〕 (1) 彼は全然待たれないで私の所へ來た (=彼は全く思ひがけなく私の所へ來ました)。 (2) atendi 待つ(不定法)。 atendita 待たれた(形容詞)。 atendite 待たれて(副詞)。 atendinta 待つてゐた。 atendinte 待つてゐて。

Sinjoro, kiu hodiaŭ vizitis min, estas mia amiko.

〔註〕 (1) kiu 所の (英の who に當る關係代名詞)。 (2) 今日私を訪れて來た(所の)方は私の友人です。 (3) kiu は複數で j, 目的格で n をとることは名詞の場合と同じだ。例へば Sinjoroj, kiuj hodiaŭ vizitis min, estas miaj amikoj. (今日訪れて來られた人々は私の友人です) Jen estas la pomo, kiun mi trovis. (こゝに私が見つけた林檎があります)。

Unue mi redonas al vi la monon, kiun vi pruntis al mi; due mi dankas vin por la prunto; trie mi petas vin ankaŭ poste prunti al mi, kiam mi bezonos monon.

〔註〕 (1) doni 與へる (佛 donner)。 redoni 返す。 prunti 貸す。 danki お禮を云ふ (獨 danken 英 thank)。 bezoni 要する (佛 besoin 必要)。 (2) 先づ私はあなたが貸してくださつた(所の)お金をお返し、次にその貸してくださつたことに對しお禮を申上げ、それから私のお金のいる時には又、今後とも貸してくださるやうにお願ひいたします。 (3) unue 第一に (獨 erstens)。 due 第二に (獨 zweitens)。 trie 第三に (獨 drittens)。 (4) post

(後)は時と場所いづれにも使はれる。例へば post du semajnoj 二週間後。post la forno ストーブの後。poste はこの前置詞に e をつけて作つた副詞。(5) 關係代名詞に kio と kiu の二つある。kio は英語の which, kiu は who に當る。併し kiu は who 以外、時として which の所にも使はれることがある。上文で la mono を kiu で受けてあるが如きはこの一例。

Homo, kiun oni devas juĝi, estas juĝoto.

〔註〕(1) devi ればならない(佛の devoir 英の must 獨の sollen, müssen に當る)。juĝi 裁判する(英 judge)。(2)(吾々が)裁判しなければならない(所の)人は被告(裁かれるべき人)である。(3) 同じ被告でもエス語では三通りの言葉がある。例へば明日裁判の開かれる被告は juĝoto (裁判に附せらるべき人)。この被告は明日法廷では juĝato (裁判に附せられてゐる人)になりそれが判決を下された時には juĝito (裁判せられた人)になる。こう云ふ簡單でしかも精密な言現はし方は英獨佛いづれの國語にも見當らない。

§13.

Nun li diras al mi la veron.

〔註〕(1) 今、彼は私に本統のことを云ひます(又は云つてゐます)(現在)。(2) as は現在を表はす語尾。

Hieraŭ li diris al mi la veron.

〔註〕(1) 昨日、彼は私に本統のことを云ひました(過去)。(2) is は過去を表はす語尾。

Li diros al mi la veron.

〔註〕(1) 彼は私に本統のことを云ひます(未來)。(2) os は未來を表はす語尾。

Li ĉiam diradis al mi la veron.

〔註〕(1) ad は反復又は繼續を意味する語尾。(2) 彼はいつも私に本統のことを云つてゐました。(3) 英語の cannonade (砲擊)、獨逸語の Promenade (散步)の ad が或る動作の繼續を表はすやうにエス語でも ad をつけて繼續を表はす。promeni 散步する promenadi 散步をつゞける。diri 云ふ、diradi 云ひつゞける(或はよく(度々)云ふ)。

Kiam vi vidis nin en la salono, li jam antaŭe diris al mi la veron (aŭ li estis dirinta al mi la veron).

〔註〕(1) salono 廣間 (英 saloon 獨 Salon)。(2) あなたが廣間で私どもに逢はれた時には彼はもうそれより以前に私に本統のことを云つてゐました(或は彼は私に本統のことを云つて仕舞つてゐました)(過去に於ける過去＝大過去或は完了過去)。(3) as は現在 (Präsens), is は過去 (Imperfekt), os は未來(或は第一未來) (Futurum I) を表はすことは既に説明した。それでは現在の直前に終つたことを表はす完了現在 (Perfekt), 過去の或る時期に於いて既に終つてゐることを表はす大過去又は完了過去 (Plusquamperfekt), 未來の或る時期に於いて既に終つてゐることを表はす完了未來或は第二未來 (Futurum II) はどうして表はすのか。これは至つて簡單で esti と過去分詞を形容詞にしたもので表はし、esti はその動作が現在、過去、未來のいづれに屬するかに從つて現在形 (estas), 過去形 (estis), 未來形 (estos) のいづれかをとる。それで skribi の完了現在は estas skribinta, 大過去は estis skribinta, 完了未來は estos skribinta とする。例へば『手紙を書き終つた所です』は Mi estas skribinta la leteron. (Perfekt)『あなたが來られた時には手紙を書終つてゐました』は Kiam vi venis al mi, mi est**is** skrib**inta** la leteron. (Plusquamperfekt)『あなたが來られる時には手紙を書き終つてゐませう』は Kiam vi venos al mi, mi est**os** skrib**inta** la leteron. (Futurum II). 何の造作もない。上の文章は Vi vidis 以前に本統のことを云つて居たと云ふので Kiam vi vidis nin en la salono, li est**is** dir**inta** al mi la veron. となつてゐる。併し何事も簡單を尊ぶエス語では他の語で時の關係が明な時はこんな組立形を用ゐず as, is, os の語尾を有する簡單な動詞形を用ゐていゝ。例へば上例では jam antaŭe (もうそれより以前に)で時の關係もハッキリしてゐるので單純形 diris を用ゐ Li jam antaŭe **diris** al mi la veron. になつてゐる。(4) antaŭe「前に」は前置詞 antaŭ に e をつけて作つた副詞である。(5) Kiam vi venis al mi, mi estis skribinta la leteron. の skribinta は skribinta persono (書終つてゐる人)の persono を略したものと考へることが出來る。それで主格 mi (私)が複數 ni (吾々)になれば分詞からなる形容詞 skribanta は skribantaj と複數形をとり ni estis skribintaj la leteron. となる。

Kiam vi venos al mi, li jam antaŭe diros al mi la veron (aŭ li estos dirinta al mi la veron; aŭ antaŭ ol vi venos al mi, li diros al mi la veron).

〔註〕(1) あなたが私の所へ來られる時には彼はもうその前に私に本統のことを云つてゐませう。(或は彼は私に本統のことを云つて仕舞つてゐませう。或はあなたが來られる以前に本統のことを私に云ひませう)(完了未來)。(2) さきにあげた Kiam vi venos al mi, mi estos skribinta la leteron. の例さへ解つてゐれば Kiam vi venos al mi, li estos dirinta al mi la veron. の用法は直ぐわかる筈。又、jam antaŭe 或は antaŭ ol を使へば動詞の單純形 diros で差閊ないことも説明を繰返す必要はあるまい。

Se mi petus lin, li dirus al mi la veron.

〔註〕(1) もし私が彼に賴めば彼は私に本統の事を云ひませうが(賴まないと本統の事は云ひますまい)(條件法)。(2) 條件法は必ず us の語尾をとる。

Mi ne farus la eraron, se li antaŭe dirus al mi la veron (aŭ se li estus dirinta al mi la veron).

〔註〕(1) 若し彼が前以て私に本統のことを云へば(或は若し私に本統のことを云つて置いたなら)私は間違つたことをしないだらうに(本統のことを云はなかつたから間違をやつたの意)。

Kiam mi venos, diru al mi la veron.

〔註〕(1) 私が參ります時、私に本統のことを云つでください(命令法)。

Kiam mia patro venos, diru al mi antaŭe la veron (aŭ estu dirinta al mi la veron).

〔註〕(1) 私の父が來ます時にはその時より前に本統のことを私に云つてください(或は本統のことを私に云つて置いて (dirinta) ください)。

Mi volas diri al vi la veron.

〔註〕(1) 私はあなたに本統のことを云はうと(diri 不定法)思つてゐます。

Mi volas, ke tio, kion mi diris, estu vera (aŭ mi volas esti dirinta la veron).

〔註〕(1) 私が云つたことその事が眞實であらんことを私は欲します(或は私は本統のことを云つたことを欲する)(=私の云つた事はまことであれ

ばいゝのですが(或は私はまことを云つたらばよろしいのですが)。(2) 欲する (voli), 希望する (deziri), 願ふ (peti) 等の次に ke にはじまる文章が來ればその文章の動詞は命令形をとる。上の文章は Mi volas とありその次の文章は ke ではじまつて居るので esti は命令法の語尾 u をとり estu となつてゐる。日本語でも古い文體では希望を表はす時には命令法を使ひ「子のすこやかにあれと祈るは親心」などと云ふ。卽ち命令法は命令、希望、願ひ等を表はす。(3) voli の次には Mi volas legi. (不定法)(私は讀まうと思ふ)のやうに不定法を置くことは旣に述べた。組立形の不定法は esti＋(分詞を形容詞にしたもの)とする。で上文には Mi volas esti dirinta la veron. となつて居る。

Kiam mi vizitis ilin, ili estis elirontaj.

〔註〕(1) 私が彼等を訪問したときには彼等は出掛けやうとしてゐる所でした。(2) 過去の或時に旣に終つてゐるときは Li estis skribinta. のやうに過去分詞から來る形容詞に estis を加へ, 過去の或時將に起らんとする動作は未來分詞から來る形容詞に estis を加へ, 例へば Kiam la patro venis al li, li est**is** skribo**nt**a. とする。これと同じやうに上文でも Kiam mi vizitis ilin, ili est**is** eliro**nt**aj. となつてゐる。この文章では ili が複數だので elirontaj と形容詞は複數形。この形は英獨等の語にはない。强ひて之を獨譯すれば Als ich sie besuchte, waren sie im Begriffe, hinauszugehen. (3) 過去の或時期に旣に起つてゐた動作は Li est**is** skribi**nt**a. の如く過去分詞をとり將に起らんとしてゐる動作は Li est**is** skribo**nt**a. の如く未來分詞を取るやうに過去の或時期に行はれつゝある動作は Kiam li venis al mi, mi est**is** skriba**nt**a. (彼が私のところへ來た時には私は現に書きつゝ (skribanta) あつた)と現在分詞を形容詞にして表はす。

Kiam vi vizitos lin, li estos elironta.

〔註〕(1) あなたが彼男の所を訪ねられるときには彼男は出掛けやうとしてゐませう。(2) 未來の或時期に旣に終つてゐる動作は Kiam la patro venos al li, li est**os** skribi**nt**a. と esti の未來形に skribi の過去分詞を形容詞にしたものを加へて表はし未來の或時期將に起らんとしてゐる動作は Kiam vi vizitos lin, li est**os** eliro**nt**a のやうに estos と未來分詞で表はす。同様に若し未來の或時期に行はれつゝある動作を表はさうと思へ

ば Kiam vi vizitos lin, li **estos leganta** en ĵurnalo (あなたが彼を訪れられる時には彼は新聞を現に讀んでゐ (leganta) ませう)のやうに estos に現在分詞からなる形容詞を加へればよろしい。

Mi estas promenonta al la parko.

〔註〕(1) 私は公園へ散歩しやうとしてゐる所です。 (2) 現在のすぐ前に終つた動作を表はすには Mi **estas** skrib**inta** la leteron. (手紙を書き終つた所です)のやうに esti の現在形に過去分詞の形容詞形を用ゐたやうに現在將に起らんとする動作は esti の現在形に未來分詞の形容詞形を加へ Mi **estas** promen**onta** al la parko. のやうにする。これと同一筆法で現在現に行はれてゐる動作は Mi **estas** promen**anta** al la parko. (私は公園の方へ現に散歩しつゝ (promenant) あります)と云ふことが出來る。以上の例で解るやうに過去の或る時期に既に終つてゐる動作を表はすには過去分詞、その時期現に行はれてゐる動作は現在分詞、その時期將に起らんとしてゐる動作は未來分詞に形容詞の語尾をつけその前に esti の過去形 estis を置き又、未來の或時期既に終つてゐる動作、現に行はれてゐる動作、將に起らんとしてゐ動作を表はすには過去の場合と同樣に各々過去分詞、現在分詞、未來分詞の形容詞形の前に esti の未來形 estos を置けばよい。同樣に現在の直前、現在、それに現在將に起らんとする動作を表はすには各々過去分詞、現在分詞、未來分詞の形容詞形の前に esti の現在形 estas を加へさへすればよい。實に論理整然一絲亂れない巧妙な時の表はし方である。たゞなるべく簡潔を尊ぶと云ふ趣旨から現在に於ける現在形 (estas — anta)、過去に於ける現在形 (estis — anta)、未來に於ける現在形 (estos — anta) は動作の繼續してゐることを特に表はす必要のある場合の他は簡單な單純形を用ゐる。例へば Mi estas leganta. の代りに Mi legas. Ni estis skribantaj. の代りに Ni skribis. Ŝi estos kantanta. の代りに Ŝi kantos. を用ゐ又、現在に於ける未來形、例へば Ili estas irontaj. の代りに Ili iros を普通用ゐる。この他の場合でも誤解の虞さへなければ簡單な動詞の基本形を使つて差閊ない。例へば前に說明したやうに Kiam vi vidis nin en la salono, li **estis dirinta** al mi la veron. の代りに Kiam vi vidis nin en la salono, li jam antaŭe **diris** al mi la veron. 又 Kiam vi venos al mi, li **estos dirinta** al mi la veron. の代りに Kiam vi venos al mi,

li jam antaŭe **diros** al mi la veron. を用ゐることが出來る。

§14.

Mi estas amata. Mi estis amata. Mi estos amata.

〔註〕(1) 私は愛せられてゐる(現在)。私は愛せられてゐた(過去)。私は愛せられてゐませう(未來)。 (2) 受働にも現在、過去、未來の三通りの分詞があつて現在分詞は at, 過去分詞は it, 未來分詞は ot の語尾をとる。卽ち能働の分詞から n を取つた形である。 (3) 受働は esti と分詞の形容詞形で表はす。例へば Mi amas. (私は愛します(能働文章)) Mi estas amata. (私は愛せられてゐます(受働文章))。 (4) 時の關係は能働の場合と全然同じで都合九つあり。その作り方は能働の分詞を受働の分詞に代へさへすれば造作なく出來る，例へば Vi estas lavinta. (lavi 洗ふ。あなたは洗つた(完了現在))の受働形は Vi estas lavita. で Vi estis lavinta. (あなたは洗つてしまつてゐました(大過去))は Vi estis lavita. Vi estos lavinta. (あなたは洗つてしまつてゐませう(完了未來))の受働形は Vi estos lavita である。 (5) また假定法 Vi estus lavinta. (あなたは洗つたでせう)の受働は Vi estus lavita (あなたは洗はれましたでせう)。命令法 Estu lavinta (洗つてしまつて居れ)の受働形も inta を ita とし Estu lavita. (洗はれてしまつて居れ)又、能働形の不定法 esti lavinta (洗つてしまつてある)を受働にするには esti lavita (洗はれてある)とすればよい。lavi の代りに inviti 招待するを使つてみても同樣で、例へば Li estas invitonta. (彼は招待せんとしてゐる)の受働は Li estas invitota. (彼は招待せられんとしてゐる)。Li estis invitonta. (彼は招待せんとしてゐた)の受働は Li estis invitota. (彼は招待せられんとしてゐた)。Li estos invitonta. (彼は招待せんとしてゐませう(未來で))の受働は Li estos invitota. (彼は招待せられんとしてゐませう)。Li estus invitonta. (彼は招待するでせう)は Li estus invitota. (彼は招待せられるでせう)。Estu invitonta. (招待せんとしてゐよ)の受働形は Estu invitota. (招待せられんとしてゐよ)(未來で))。esti invitonta の形をもつ不定法は受働では esti invitota となる。

Tiu ĉi komercaĵo estas ĉiam volonte aĉetata de mi.

〔註〕(1) komerci 商賣する (英 commerce)。aĵo は「もの」を表はす。komercaĵo 商ふもの＝商品。volonte よろこんで (英 voluntary)。aĉeti 買ふ (佛 acheter)。de「に」(英の by 獨の von に當る)。(2) この商品はいつも悦んで私に買はれる＝この商品を私はいつも進んで買ひます。(3) estas aĉetata は aĉetas (又は estas aĉetanta) の受働形。(4) ĵ と ĝ を混同しないやう御注意。ĵa, ĵi, ĵu, ĵe, ĵo は ジャ ジィ ジュ ジェ ジョ で ĝa, ĝi, ĝu, ĝe, ĝo は ヂャ ヂィ ヂュ ヂェ ヂョ。これを混同すると aĝo (アーヂョ年齢) と aĵo (アージョ物) の區別が出來なくなる。

La surtuto estas aĉetita de mi, sekve ĝi apartenas al mi.

〔注〕(1) surtuto 上衣。sekvi 從ふ(動詞)。sekve 從つて(副詞)。(2) この上衣は私に買はれた。それでこれは私に屬する。(＝この上衣は私が買ひました。それでこれは私のものです)。(3) estas aĉetita は estas aĉetinta の受働形。

Kiam via domo estis konstruata, mia domo estis jam longe konstruita.

〔註〕(1) konstrui 造る (英 construct)。(2) あなたの家が建てられて居ました時に私の家はもう長く(＝長い間)建て上げられてゐました。(3) estis konstruata は estis が過去形だので過去にぞくし、konstruata は受働の現在分詞だので動作の現に行はれてゐることが解る。卽ち建てられつゝあつた。estis konstruita は estis が過去形で konstruita は過去分詞なので過去の或時既に終つてゐたことを意味する。で建て上げられて居た。こう云ふ風に解剖して行けばエス語の時は非常にハッキリ出て來る。(4) konstruata, konstruita いづれも形容詞なので若し主格 domo が複數になれば これ等も j の語尾をとる。この點は佛語と同樣である。例へば Kiam viaj domoj estis konstruataj, miaj domoj estis jam longe konstruitaj. (5) jam longe 既に長い間。

Mi sciigas, ke de nun la ŝuldoj de mia filo ne estos pagataj de mi.

〔註〕(1) igi は使役を意味する接尾語。scii 知る。sciigi 知らす。de「から」。ŝuldo 負債（獨 Schuld). pagi 拂ふ（英 pay)。(2) 今から私の息子の負債は私からは拂はれないと云ふことをお知らせします。(3) 獨逸語で rein 清潔な，reinigen 清潔にする。Ruhe 安靜，beruhigen 靜かにする、安心さすの ig が「何々さす」を意味するやうにエス語でも ig をつけて英語の let，獨逸語の lassen の意味を表はす。例へば pura 清潔な，purigi 清潔にする。trankvila 靜かな，trankviligi 靜かにさす、安心さす。scii 知る，sciigi 知らす。(4) 主格 la ŝuldoj が複數だので pagataj は複數形をとつて居る。

Estu trankvila, mia tuta ŝuldo estos pagita al vi baldaŭ.

〔註〕(1) 安心してゐなさい。私の全負債は間もなく貴君に支拂はれます。(2) estos pagita は estos が未來形で pagita が過去分詞形だので未來の或時期既に支拂はれてゐることを表はす。この文章では estos pagata でも意味はわかる。併し單に拂はれる (estos pagata) と云ふよりも拂はれてしまつてゐやう (estos pagita) とした方が力強い。

Mia ora ringo ne estus nun tiel longe serĉata, se ĝi ne estus tiel lerte kaŝita de vi.

〔註〕(1) oro 金（佛 or)。ringo 指輪（英 ring)。serĉi さがす（英 search)。lerta 上手な。kaŝi かくす（佛 cacher)。(2) 私の金の指輪が若しこのやうに上手にあなたに隱されなかつたら、今、こんなに長く探されるやうなことはなかつたでせうに。(貴君がうまく隱したので今、長くかゝつて探してゐる)。(3) se (セ) と ŝe (シェ), ci (ツィ) と ĉi (チ) を混同すると serĉi 搜す）と ŝerci (戲談を云ふ)を區別することが出來なくなる。

Laŭ la projekto de la inĝenieroj tiu ĉi fervojo estas konstruota en la daŭro de du jaroj; sed mi pensas, ke ĝi estos konstruata pli ol tri jarojn.

〔註〕(1) laŭ よれば（英語の according to 獨逸語の nach 又は gemäß に相當する前置詞)。projekto 設計（英 project)。inĝeniero 技師（英 engineer

獨 Ingenieur)。fero 鐵 (佛 fer)。vojo 道 (佛 voie)。fervojo 鐵道。daŭro 經過 (獨 dauern つゞく)。en la daŭro 間 (獨の im Verlauf に當る)。pensi 思ふ、考へる (佛 penser)。(3) 技師の設計によればこの鐵道は二年間の中に敷設せられることになつてゐるが併し私はこの鐵道は三年以上かかつて敷設せられることゝ思ふ。(4) estas konstruota の estas は現在形で konstruota は未來分詞だので現在で將に起らんとする受働動作を表はすことになる。即ち敷設せられんとしてゐる。estos konstruata は estos が未來形で konstruata は現在分詞だので未來に於て現に行はれてゐることを表はす。即ち未來に於て敷設せられる狀態の繼續してゐること。(5) エス語では時間の繼續を表はすに目的格の形をとることがある。例へば Ĝi estos kontruata pli ol tri jarojn. の tri jarojn は三年間の意味になる。tri jarojn の代りに en la daŭro de tri jaroj 又は dum tri jaroj とすることも出來る。三年以上の年月の間敷設と云ふ動作がつゞくので konstruata と現在分詞を用ゐ之が未來のことであるから estos と未來形になつてゐる。

Honesta homo agas honeste.

〔註〕(1) agi 行ふ (佛 agir)。(2) 正直な人は正直な行をする。

La pastro, kiu mortis antaŭ nelonge (aŭ antaŭ nelonga tempo), loĝis longe en nia urbo.

〔註〕(1) pastro 牧師 (英 pastor)。(2) 長くない以前(或は長くない時の前)(=ツイこの頃)亡くなつた牧師はこの町に長く住つてゐました。

Ĉu hodiaŭ estas varme aŭ malvarme?

〔註〕(1) varma 暖かい (英 warm). mal は反對を表はす接頭語。malvarma 寒い。(2) 今日は暖かいのか寒いのか。(3) この文章には主格が言現はされてゐない。主格のない文章の形容詞は a の語尾をとらないで e をとる。この規則から上文は Ĉu hodiaŭ estas varme aŭ malvarme となつて varma, malvarma とはなつてゐない。(4) mal は反對の性質を表はす。それで「大きい」の granda を覺えれば「小さい」は敎はらないでも malgranda と自由に作ることが出來る。(5) mal は反對で ne は打消を意味する。longa 長い。mallonga 短い (長いの反對)。nelonga 長くない (長

いの打消)。長くもない (nelonga) が短く (mallonga) もないと云ふことはよく日本語でも云はれる。これでみても mal と ne が必ずしも同じものでない事がわかる。

Sur la kameno inter du potoj staras fera kaldrono; el la kaldrono, en kiu sin trovas bolanta akvo, eliras vaporo; tra la fenestro, kiu sin trovas apud la pordo, la vaporo iras sur la korton.

〔註〕(1) kameno カミン(ぬり込みストーブ)(獨 Kamin)。inter「の間」(英の between 獨の zwischen に相當する前置詞)。poto 壺。kaldrono 釜(佛 chaudron)。trovi sin「ある」(獨 sich befinden に當る)。boli 沸騰する(英 boil)。vaporo 蒸氣(佛 vapeur)。apud そば(英の near, by 獨の neben 又は an に相當する前置詞)。pordo 戸(佛 porte)。korto 中庭(英 court)。(2) 二つの壺の間のストーブの上に鐵の釜がある。釜の中には沸き立つてゐる湯がありこの釜からは蒸氣が出て行つてゐる。ドアの傍にある窓を通つてこの蒸氣が中庭の上へ行つてゐます。(3) エス語の前置詞の次へは第一格の名詞又は代名詞が來る。たゞ sur の樣に「上に」と「上へ」のやうに二つの意味をもつてゐる場合には「上へ」のやうに方向を表はす時には n の語尾をつけてこの意味を明にする。同じ sur であり乍ら上文の中で sur la kameno と第一格を支配する場合と sur la korton と目的格の形をとつてゐるのがあるのはこの規則に基づく。(4) apud は āpud で apud と a を短く發音してはいけない。(5) eliri は el と iri の集まつたもの。el-i-ri よりも e-li-ri と發音した方がよい。

§15.

La birdo flugis en la ĝardeno. La birdo flugis en la ĝardenon.

〔註〕(1) 鳥が庭の中で飛んでゐた。鳥が庭の中へ飛んで行つた。(2) この區別は丁度獨逸語の im Garten と in den Garten との區別に相當する。

Morgaŭ mi veturos Parizon (aŭ en Parizon).

〔註〕(1) veturi 車や船等で行く(獨の fahren に當る)。Parizo パリ。(2) 明日私はパリへ行きます。(3) n は方向を示すので al Parizo の代りに前

置詞をとらず Parizon としてもいゝ。al は單に方向を示す。Mi veturos al Parizo (又は al を使はないで單に Parizon) は「パリの方へ行く」でパリへ行つても差閊ないが或はパリを志しては行くが必ずしもパリへ這入り込むかどうかは分らない。丁度獨逸語の Ich reise nach Paris. の nach に相當する。若しパリへ這入りこむことを特に表はさうと思ふ場合は獨逸語の in に相當する前置詞 en を使ひ Parizo に n をつけ en Parizon とする。この場合の en も「中で」と「中へ」の二つの意味があるので n をつけるが al のやうに一つの意味しかもたない前置詞では假令方向を表はす意味をもつてゐても Mi veturos al Parizon. のやうに n をつけることは決してない。

Mi restos hodiaŭ dome. Jam estas tempo iri domen.

〔註〕(1) 私は今日うちに(とゞまつて)ゐます。もううちへ行く(べき)時だ。 (2) domen のやうに副詞 (dome。この dome は domo 家の語根に副詞の語尾 e をつけたもの) に n をつけて方向を表はすことがある。

Ni disiĝis kaj iris en diversajn flankojn: mi iris dekstren, kaj li iris maldekstren.

〔註〕(1) dis は分散を意味する接頭語 (英 disperse 蒔き (perse) 散らす (dis))。iĝi は「なる」を意味する接尾語。disiĝi わかれ〻〻になる。分れる。diversa ちがつた (英 diverse)。flanko 側 (英 flank)。dekstra 右 (羅 dekster)。maldekstra 左。 (2) 私どもは分れて違つた側へ行きました。即ち私は右へ行き彼は左の方へ行きました。(3) igi は「さす」で iĝi は「なる」。例へば trankvila 靜かな。trankviligi 靜かにする(靜める)。trankviliĝi 靜かになる(靜づまる)。sidi すわつてゐる。sidigi すわらす sidiĝi すわる。disigi わかれさす。disiĝi 分れる。 (4) en は「中に」と「中へ」の二つの意味があるので方向を表はす爲めに en diversajn flankojn となつてゐる。 (5) dome が domen となつたやうにこの文章で方向を表はす爲め dekstre, maldekstre が dekstren, maldekstren と n の語尾をとつてゐる。 (6) mal は反對を表はして對應は表はさない。右と左は反對ではなく恰も西の東に對する同じやうな對應を表はしてゐる。東が oriento だからと云つて西 (okcidento) を malorientoとは云ふことの出來ないやうに右が dekstra だからと云つて左を maldekstra とするのは不都合な造語だ。之と同じに antaŭ (前)に

對し malantaŭ (後)を作るのも不合理だ。malantaŭ (場所の後)の代りに時の「後」を表はす post が多く用ゐられるやうになつたのは單に post に比して malantaŭ が綴の長い爲めばかりではあるまい。私は oriento に對應して okcidento と云ふ特別の字を選んだやうに dekstra に對應してなぜ sinistra (羅典語の sinister) を取らなかつたかをあやしむと共に maldekstra の代りに sinistra の字の採用せられんことを希望する。

Flanken, sinjoro!

〔註〕(1) 側の方へ! (2) こゝも方向を示す爲め flanko の副詞 flanke に n を加へてある。

Mi konas neniun en tiu ĉi urbo.

〔註〕(1) 私はこの町では誰れも知りませぬ。 (2) nen は打消を意味する。nenio 何ものも‥‥ない。(英 nothing)。neniu 誰れも‥‥ない。(nobody)。neniel どうしても‥‥ない (獨の keineswegs)。nenie どこにも‥‥ない (英の nowhere 獨の nirgend)。neniam 決して‥‥ない (英 never)。 (3) nen は既に打消を意味してゐるので普通の打消副詞の ne は省かれる。

Mi neniel povas kompreni, kion vi parolas.

〔註〕(1) neniel どうしても何々しない。povi 出來る (佛の pouvoir。英の can 獨の können に當る)。kompreni 理解する。(佛 comprendre)。parol 話す (佛 parler)。 (2) 私はどうしても貴君が話されてゐることを了解することが出來ませぬ。 (3) こゝでも neniel は打消の意味をもつてゐるので Mi neniel **ne** povas kompreni. とは云はない。

Mi renkontis nek lin, nek lian fraton aŭ mi ne renkontis lin, nek lian fraton.

〔註〕(1) nek‥‥nek (或は ne‥‥nek) も‥‥も何々しない (英語 neither nor 獨の weder noch に當る)。 (2) 私は彼にも亦、彼の兄弟にも逢ひませんでした。 (3) nek‥‥nek でも ne‥‥nek 何れでもいゝことになつてゐるが私は ne‥‥nek の形の方が好きだ。

§16.

Kie vi estas? Mi estas en la ĝardeno. Kien vi iras? Mi iras en la ĝardenon.

〔註〕(1) あなたはどこに居ますか。私は庭にゐます。あなたは何處へ行きますか。私は庭へ行きます。(2) kie どこ。kien どこへ。(3) en la ĝardeno 庭の中に。en la ĝardenon 庭の中へ。

La birdo flugas en la ĉambro (=ĝi estas en la ĉambro kaj flugas en la ĉambro). La birdo flugas en la ĉambron (=ĝi estas ekster la ĉambro kaj flugas nun en ĝin).

〔註〕(1) ekster 外 (英の outside 獨の außerhalb に相當する前置詞。英 external 外の)。(2) 鳥は部屋の中で飛んでゐます(この場合には鳥は部屋の中にゐて部屋の中を飛んでゐる)。鳥は部屋の中へ飛んで居る(この場合には鳥は部屋の外にゐて今や部屋の中目掛けて飛んでゐる)。

Mi vojaĝas en Hispanujo. Mi vojaĝas en Hispanujon.

〔註〕(1) vojaĝi 旅行する (英 voyage)。Hispano スペイン人。Hispanujo スペイン。(2) 私はスペインの國内を旅行してゐます。私はスペインへ旅行してゐます。

Mi sidas sur seĝo kaj tenas la piedojn sur benketo. Mi metis la manon sur la tablon.

〔註〕(1) sidi すわつてゐる。seĝo 椅子。teni 保つ (佛 tenir)。piedo 足 (佛 pied)。et は小さいもの又は程度の低いことを表はす接尾語。benko ベンチ。benketo 小さい臺。meti 置く (佛 mettre)。(2) 私は椅子に腰をかけて臺の上に兩足を保つてゐます。私は片手を机の上へ置きました。(3) 英語の pocket (ポッケット)は嚢 (pock) の小さいもの (et) に語原をもち獨逸語の Operette (オペレッテ)が Oper (オペラ)の小なるものを意味するやうにエス語でも小さいものを表はすに et の語尾を加へる。benko ベンチ。benketo 小さい臺。urbo 都會。urbeto 小都會。vojo 道。vojeto 小徑。ridi 笑ふ。rideti ほゝゑむ。varma 暖い。varmeta 生溫い。(3) teni 保つはその範圍内の狀態だから sur benketo となり「机の上へ置く」は一の範圍から他の範圍への働き卽ち方向を示してゐるので sur la tablon となつてゐる。

El sub la kanapo la muso kuris sub la liton, kaj nun ĝi kuras sub la lito.

〔註〕(1) sub 下 (英の under 獨の unter に當る前置詞。英 subscribe (下に(sub)書く(scribe)=署名)。kanapo 長椅子 (獨 Kanapee)。muso 二十日鼠 (英 mouse)。lito 寢臺 (佛 lit)。(2) 長椅子の下から二十日鼠が寢臺の下へ走つて行つて今その二十日鼠は寢臺の下を馳つてゐます。(3) sub la lito 寢臺の下で。sub la liton 寢臺の下へ。(4) so (ソー), ŝo (ショー), zo (ゾー)の發音を區別しないと muso (二十日鼠), muŝo (蠅), muzo (ミューズの神)の區別がなくなる。

Super la tero sin trovas aero.

〔註〕(1) super 上 (英の over 又は above 獨の über 又は oberhalb に相當する前置詞。英 supernatural 超(super)自然の(natural))。trovi sin 自分を見出す=ある (獨の sich befinden に當る)。aero 空氣 (英 air)。(2) 地上に空氣がある。

Anstataŭ kafo li donis al mi teon kun sukero, sed sen kremo.

〔註〕(1) anstataŭ 代りに (英の instead 獨の anstatt に相當する前置詞)。kafo コーヒ (英 coffee)。teo 茶 (英 tea)。sukero 砂糖。(英 sugar)。kremo クリーム (英 cream)。(2) 彼はコーヒの代りに砂糖入の併しクリームの這入つてゐない茶を私に呉れました。

Mi staras ekster la domo, kaj li estas interne.

〔註〕(1) interne 內に (副詞)。(2) 私は家の外に立つてゐて彼は內にゐる。

En la salono estis neniu krom li kaj lia fianĉino.

〔註〕(1) krom 以外 (英の except 獨の außer に相當する前置詞)。fianĉino 許嫁。花嫁。(2) 廣間の中には彼と彼の花嫁のほかには誰れも居なかつた。(3) fianĉino の in を取つて fianĉo にすれば新郎。(4) この文章の主格は neniu だので li kaj **lia** fianĉino で li kaj **sia** fianĉino ではない。

La hirundo flugis trans la riveron, ĉar trans la rivero sin trovis aliaj hirundoj.

〔註〕(1) hirundo つばめ。trans 彼方に、彼方へ (英の across 獨の jenseit

又は über に相當する前置詞)。rivero 川 (英 river)。 (2) 川の彼方に他の燕が居ましたので、あの燕は川の彼方へ飛んで行きました。 (3) なぜ一つは trans la riveron となり他は trans la rivero となつてゐるのか說明してください。

Mi restas tie ĉi laŭ la ordono de mia estro.

〔註〕 (1) laŭ 從つて。ordono 命令 (英 order)。 estro 長官。 (2) 私は長官の命令に從つてこゝに殘つてゐます。

Kiam li estis ĉe mi, li staris tutan horon apud la fenestro.

〔註〕 (1) ĉe「ところ」(佛の chez 英の at 獨の bei に相當する前置詞)。 (2) 彼が私のところに居ました時には彼は窓の傍に丸一時間立つてゐました。 (3) tuta horo 全き一時間。時の繼續を表はす時に目的格の形にすることは既に述べた。tutan horon はこの意味で n の語尾をとつてゐる。dum tuta horo でも意味は同じである。

Li diras, ke mi estas atenta. Li petas, ke mi estu atenta.

〔註〕 (1) atenta 注意する (英 attentive) (2) 私は注意してゐると彼の男が云ひます。氣を附けて居るやうにと彼の男は私に賴みました。 (3) voli 欲する，peti 願ふ，deziri 希望する等の次に ke に始まる文章の來る時はその文章の動詞は命令法になることは既に說明した。でこの文章でも Li petas, ke mi estu atenta. になつてゐる。

Kvankam vi estas riĉa, mi dubas, ĉu vi estas feliĉa.

〔註〕 (1) kvankam かゝわらず (英の although 獨の obwohl に當る)。riĉa 富む (英 rich)。dubi 疑ふ (英 doubt)。ĉu かどうか (英の whether 獨の ob に當る)。feliĉa 幸。 (2) あなたが金持であるに拘らず私はあなたが幸福であるかどうかを疑ひます。 (3) この文章の vi に「あなた方」の意味を持たすには Kvankam vi estas riĉaj, mi dubas, ĉu vi estas feliĉaj. と形容詞を複數形にすればいゝ。

Se vi scius, kiu li estas, vi lin pli estimus.

〔註〕(1) estimi 尊敬する (英 esteem)。(2) 彼が誰れだかを御存じでしたら、あなたは彼をより以上に尊敬なさるでせうに。

Se li jam venis, petu lin al mi.

〔註〕(1) 彼がもう來て居れば私のところへ來るやうに彼にお願ひしてください。

Ho, Dio! Kion vi faras.

〔註〕(1) ho 驚きの間投詞。(2) オヤとんでもない。あなたは何をなさるのです。(2) Dio! 神よ守れの意味。とんでもない位に譯せばいゝ。

Ha, kiel bele!

〔註〕(1) ha は賞嘆の間投詞。(2) ヤア。何んて美しいでせう。(3) kiel は「如何に」=何て。(4) kiel bele. は主格がないので bele は形容詞であるに拘らず e の語尾をとつてゐる。

For de tie ĉi!

〔註〕(1) de から。(2) こゝからどけ。

Fi, kiel abomene!

〔註〕(1) fi は英の fie 獨の pfui に相當する惡しみを表はす間投詞。abomeno 嫌惡。(2) ヤア、何ていやらしいだらう。(3) kiel abomene! も主格がないので abomena でなく abomene になつてゐる。

Nu, iru pli rapide!

〔註〕(1) nu サア。獨逸語の na に當る。rapide 早く (英 rapid)。(2) サア、も少し急いで行きなさい。

§17.

Mi ridas je lia naiveco (aŭ mi ridas pro lia naiveco, aŭ: mi ridas lian naivecon).

〔註〕(1) je 一定の意味を持たない前置詞。naiva 純直な (英 naive 純直)。eco は性質を表はす接尾語(獨逸語の語尾 heit 又は keit に當る)。naiveca 純直さ。(2) 私は彼の純直を笑ふ。(3) 前置詞を使ふ必要のあるときどの前置詞を使つていゝのか分らない場合には意味の一定してゐない je と云ふ前置詞を使つてもいゝ。併しこの je は出來ればなるべく使はないで

適當な前置詞を探すやうに努めなければならない。Mi ridas je lia naiveco. は使はないで Mi ridas pro lia naiveco. のやうに原因を示す pro と云ふ前置詞を使つても或は全然前置詞を使はないで目的格にし Mi ridas lian naivecon. としてもいゝ。

Je la lasta fojo mi vidis lin ĉe vi (aŭ: la lastan fojon).

〔註〕(1) lasta 最後の，最近の (英 last)。(2) 一番最後には私は彼をあなたの所でみました(＝あなたの所で彼に逢ひました)。(3) fojo に對する特別の前置詞はエス語にはない。こう云ふ場合は仕方がないので je を使ふ。この場合でも je la lasta fojo の代りに前置詞をつけず la lastan fojon のやうに目的格にして或時期を表はしてもいゝ。

Mi veturis du tagojn kaj unu nokton.

〔註〕(1) 私は二日と一晩(汽車などに)のりました。(2) dum du tagoj kaj unu nokto の代りに du tagojn kaj unu nokton と目的格にして時の繼續を表はしてもいゝ。

Mi sopiras je mia perdita feliĉo (aŭ: mian perditan feliĉon).

〔註〕(1) sopiri あこがれる (佛 soupirer)。perdi 失ふ (佛 perdre)。(2) 私は自分の失つた幸福にあこがれてゐます。(3) これも je をつけるか或は目的格いづれでもよろしい。(4) 日本語では「失つた幸福」と云ふがエス語では幸福を土臺として考へ「失はれた幸福」(perdita feliĉo) と云つて perdinta feliĉo とは決して云はない。

Obeu ĉiam al la patro (aŭ: obeu ĉiam la patron.)

〔註〕(1) obei 從ふ (英 obey)。(2) いつも父に從へ。(3) 日本語では『父に從へ』と云つて『父を從へ』とは云はないがエス語では前置詞を置かない場合には目的格を使ひ例へば Obeu ĉiam la patron. のやうな形をとることも許されてある。

Venu al mi, kiam ajn vi volas.

〔註〕(1) ajn でも。(2) いつでもあなたの來たい時に來なさい。

Estas tute egale al mi, kien ajn ni promenas.

〔註〕(1) egala ひとしい(英 equal 獨 egal)。(2) どちらへ散歩しても私は一向構ひません。(3) こゝも主格がないので egala でなく egale となつてゐる。(4) Estas tute egale al mi. は獨の Es ist mir ganz egal. に當る。(5) kie (どこ)は ie に疑問を表はす k の加はつたもので、ie (ある所)は場所を表はす e に不定を表はす i の加はつたものである。今 ie に指示を意味する t を加へて tie とすれば「そこ」、「總て」を表はす ĉ を加へて ĉie とすれば「總ての所」、否定を表はす nen を加へ nenie とすれば「何處にもない」と云ふ意味になる。今までの講義の中で幾度も繰返したやうに el は方法, al は理由, am は時, om は分量を表はすのでこれを次の表のやうに縱横に結ひつけると自づと次の二十五字が出來る。

	e (場所)	el (方法)	al (理由)	am (時)	om (分量)
i (不定)	ie 或所に	iel ある方法で	ial あるわけで	iam ある時	iom 若干
t (指定)	tie そこに	tiel そう云ふ風に	tial それ故に	tiam その時	tiom それだけ
k (疑問)	kie どこに	kiel どう云ふ風に	kial なぜ	kiam いつ	kiom どれだけ
ĉ (總括)	ĉie 到處	ĉiel あらゆる方法で	ĉial あらゆるわけで	ĉiam いつも	ĉiom すべて
nen (否定)	nenie どこにも‥‥ない	neniel どんな方法でも‥‥せない	nenial どんなわけでも‥‥せない	neniam 決して‥‥せない	neniom 少しも‥‥ない

で、iom (若干), tial (それ故), kiel (如何に), ĉiam (いつも), neniom (少しも‥‥ない) これだけよく理解して覺えてさへゐれば他の二十字は一々暗記しないでも分析して考へさへすれば何の造作もなく自然と意味がわかる。のみならず自由に組立てることが出來る。こゝまで造語法も徹底すれば一種の痛快さを覺える。確かに天才のひらめきがこの表の中に見られる。

§18.

Lia kolero longe daŭris.

〔註〕(1) kolero 怒。longa 長い(形容詞)(英 long)。longe 長く(副詞)。

daŭro 繼續。daŭri つゞく (獨 dauern)。 (2) 彼の怒は長くつゞいた。 (3) kolero は o に終り名詞。

Li estas hodiaŭ en kolera humoro.

〔註〕(1) humoro 機嫌 (英 humor)。 (2) 彼は今日は怒の機嫌にある(=彼は今日は怒つてゐる)。 (3) kolera は koler に a をつけて形容詞になつてゐる。

Li koleras kaj insultas.

〔註〕(1) insulti 罵る (英 insult)。 (2) 彼は怒つてどなつて居る。 (3) koleras は語根 koler に as の語尾をつけ動詞になつてゐる。

Li fermis kolere la pordon.

〔註〕(1) fermi しめる(佛 fermer)。pordo 戶(佛 porte)。 (2) 彼は怒つて戶をしめた。 (3) 以上の例でもわかるやうにエス語では語根(例へば koler) に o をつければ名詞(例へば kolero 怒)、a をつければ形容詞(例へば kolera 怒つた)、動詞の語尾をつければ動詞(例へば koleras 怒る)、e をつければ副詞(例へば kolere 怒つて)を自由に作ることが出來る。

Lia filo mortis kaj estas nun malviva.

〔註〕(1) viva 生きてゐる。malviva 死んでゐる。 (2) 彼の息子は死んだ。で今は死んでゐる。

La korpo estas morta, la animo estas senmorta.

〔註〕(1) korpo 身體(獨 Körper。英 corporal 身體の)。animo 靈魂(英 animal 魂のあるもの=動物)。morta 死ぬもの。senmorta 死なないもの。 (2) 肉體は死ぬが靈魂は死なない。

Li estas morte malsana, li ne vivas pli, ol unu tagon.

〔註〕(1) morti 死ぬ。mort (語根)+e (副詞の語尾)=死ぬ程(副詞)。sana 健康で。malsana 病氣で。 (2) 彼は死ぬ程わるい。彼は一日より長くは生きてゐまい。 (3) unu tagon は時の繼續を表はす爲めに第四格になつてゐる。

Li parolas, kaj lia parolo fluas dolĉe kaj agrable.

〔註〕(1) paroli 話す。parol (語根) as (動詞の現在語尾)=話してゐる(動詞)。parol (語根) o (名詞を表はす語尾)=話 (名詞)。dolĉ (語根) a (形容詞

を表はす語尾)＝甘い(形容詞)(英の sweet 獨の süß に當る)。dolĉ(語根)e(副詞を表はす語尾)＝甘く(副詞)。agrabl(語根)a(形容詞を表はす語尾)＝氣持のいゝ(形容詞)。agrabl(語根)e(副詞を表はす語尾)＝氣持よく(副詞)。(2) 彼は話してゐる。そして彼の話はうまく且つ氣持よく流れる(＝彼は人の心を吸ひこむやうに又、人にいゝ氣持をさせるやうに流暢に話します)。(3) dolĉe kaj agrable は fluas と云ふ動詞の意味を限定する副詞なのでいづれも副詞形をとつてゐる。

Ni faris kontrakton ne skribe, sed parole.

〔註〕(1) kontrakto 契約(英 contract)。(2) 吾々は書面ではなかつたが併し口頭で契約をした。(3) skribi 書く。skrib(語根)e(副詞の語尾)＝書いて(副詞)。paroli 話す。parol(語根)e(副詞の語尾)＝口頭で(副詞)。

Li estas bona parolanto.

〔註〕(1) 彼はよい話し手だ(＝彼は上手に話をする人だ)。(2) paroli 話す。parol(語根)ant(現在分詞の語尾)o(名詞の語尾)＝話をする人(名詞)。

Li loĝas ekster la urbo.

〔註〕(1) ekster 外に(羅 externa。英の outside 獨の außerhalb 又は außer に相當する前置詞)。(2) 彼は町の外に住つてゐる。

La ekstero de tiu ĉi homo estas pli bona, ol lia interno.

〔註〕(1) interno 内部。(2) この人の外部(＝容貌)は彼の内部(＝心)よりもより良い(＝彼は心よりも見掛けがより立派だ)。(3) ekster 外で(前置詞)。ekster(語根)o(名詞の語尾)＝外部(名詞)。interna 内の(形容詞)。intern(語根)o(名詞の語尾)＝内部(名詞)。(4) ti(ティ)と ĉi(チ)と ci(ツィ)を區別するやう御注意。

Starante ekstere, li povis vidi nur la eksteran flankon de nia domo.

〔註〕(1) stari 立つてゐる(動詞)。star(語根)ant(現在分詞の語尾)e(副詞の語尾)＝立つてゐて(副詞)。ekster 外で(前置詞)。ekster(語根)e(副詞の語尾)＝外に(副詞)。ekster(語根)a(形容詞の語尾)＝外の(形容詞)。(2) 外に立つてゐて彼は吾々の家の外側だけしか見ることが出來なかつた。

Li tuj faris, kion mi volis, kaj mi dankis lin por la tuja plenumo de mia deziro.

〔註〕(1) tuj すぐに(副詞)。tuj(語根)a(形容詞の語尾)＝早速の(形容詞)。plenumi 遂行する。plenumo 遂行(名詞)。deziri 願ふ。dezir(語根)o(名詞の語尾)＝願ひ(名詞)。 (2) 彼は私が願つたことを直ぐしてくれました。そして私は私の願ひを早速みたしてくれたことに對して彼にお禮を云ひました。 (3) Mi dankis lin.＝Mi dankis al li.

Ligno estas bona brula materialo.

〔註〕(1) ligno 木材。brula 燃える(形容詞)(佛 brûlant)。materialo 物質(英 material)。(2) 木はいゝ燃料だ。 (3) Ligno estas bone brula materialo. と bona が bone になればこの bone は e に終り副詞となる爲め brula の意味を限定し「よく燃える」となるも bona なれば a に終り materialo なる名詞の意味を限定する形容詞で「よい」(bona)(燃料)の意味になる。

Kia granda brulo! kio brulas?

〔註〕(1) k は疑問，a は性質を表はすので kia は「どんな」又は「何と云ふ」。英の of what kind 獨の was für ein に當る。k は疑問。o は名詞の語尾、それで kio は何。英の what 獨の was に當る。 (2) 何と云ふ大火でせう。何が燃えてゐますか。 (3) brula 燃える(形容詞)。brul(語根)o(名詞の語尾)＝燃燒(名詞)。brul(語根)as(動詞の語尾)＝燃える(動詞)。

La fera bastono, kiu kuŝis en la forno, estas nun brule varmega.

〔註〕(1) bastono 棒(佛 bâton)。eg は大きいこと又は程度の高いことを表はす。et と丁度反對。varma 暖い。varmeta 生温い。varmega 暑い。ridi 笑ふ。rideti ほゝゑむ。ridegi 哄笑する。 (2) ストーブの中に在る所の鐵の棒は今や燒けるやうにあつくなつてゐる。 (3) brulo 燃燒(名詞)。brulas 燃える(動詞)。brula 燃える(形容詞)。brule 燃えるやうに(副詞)。このやうに任意の語根に o をつければ名詞、a をつければ形容詞、e をつければ副詞、動詞の語尾をつければ動詞を作ることが出來る。 (4) eg は大きいこと又は程度の高いことを意味するので urbo 町。urbego 大都會。ami 愛する。amegi 熱愛する。bela 美しい。belega 素敵に美しい。

Ĉu li donis al vi jesan respondon aŭ nean?

〔註〕(1) jes ハイ(英 yes)。ne イヽエ(英 no 獨 nein)。(2) 彼はあなたに承諾の返答を與へましたか、それとも拒絕の返答を與へましたか。(3) Donu al mi hodiaŭan ĵurnalon.(私に今日の新聞をください)の hodiaŭa のやうに本來の副詞へ形容詞を表はす語尾を加へて形容詞を作り得るやうに jes, ne のやうな副詞へも a をつけ jesa, nea の如く形容詞にすることが出來る。(3) jes, ne の用法は英獨の場合と全く同じだ。卽ち問ひの中に打消の語があるかないか、そんなことには頓着なく返事の中に打消の言葉がなければ jes を使ひ打消の言葉がある時は ne を使へばそれでよろしい。例へば Ĉu vi estis hieraŭ ĉe via onklo? (あなたは昨日をぢさんのお宅にゐましたか)に對し「ゐた」と云ふ場合には Jes, mi estis hieraŭ ĉe li. 「居なかつた」と云ふ場合には Ne, mi ne estis hieraŭ ĉe li. また Ĉu vi ne estis hieraŭ ĉe via onklo? (あなたは昨日をぢさんのお宅にはゐませんでしたか)に對し「居なかつた」と答へやうとすれば日本語では「ハイ、昨日はをぢのところには居ませんでした」と云ふがエス語では返事の內容が否定だので jes とは云はず Ne, mi ne estis hieraŭ ĉe li. と云ひ又、「居ました」と答へやうとすれば日本語では「イヽエ、昨日はをぢのところに居ました」と云ふがエス語では返事の內容が肯定で否定ではないので ne とは云はず Jes, mi estis hieraŭ ĉe li. と jes で答へる。上例のはじめの二例は日本語と同じだが後の二例では正反對になつてゐる。こう云ふ場合 jes, ne をあべこべに使はないやう御用心。

Li eliris el la dormoĉambro kaj eniris en la manĝoĉambron.

〔註〕(1) el から。eliri 出る(獨の hinausgehen に當る)。en 中。eniri 這入る(獨の hineingehen に當る)。dormo 睡眠。ĉambro 部屋。dormoĉambro 寢室。manĝo 食。manĝoĉambro 食堂。(2) 彼は寢室から出て食堂へ這入りました。(3) en には或る範圍內のことを表はす「中に」又は「中で」と他の範圍內への働を表はす「中へ」の二つの場合があるので、こゝでは「中へ」を表はす爲め en la manĝoĉambron と n の語尾をとつてゐる。(4) 名詞と名詞と結びつける時にはこゝの dormoĉambro, manĝoĉambro の如くそのまゝを結合するときと taglibro (日誌)のやうに口調の關係から前の名

詞の語尾 o を省く場合とある。併し tagolibro と云つても間違ひではない。

La birdo ne forflugis: ĝi nur deflugis de la arbo, alflugis al la domo kaj surflugis sur la tegmenton.

〔註〕(1) for は英の forth 獨の fort に相當し「あちらへ」で、forflugi あちらへ飛んで行く。de は單に離れることを表はす。で deflugi 飛んで或ところから離れる。al は de に對應し「くつつく」「その方へ」の意味を有し alflugi は「その方へ飛んで行く」。sur は或る面の上を表はすので surflugi その上へ飛んで行く。(2) 鳥は飛んで行つてしまつたのではありません。樹から離れて家の方へ飛んで屋根の上に飛んで行きました。(3) for は副詞。de, al, sur はいづれも前置詞。forflugi, deflugi 等は副詞又は前置詞と動詞とが結合して一つの動詞を作る例と見ることが出來る。(4) al は一の範圍から他の範圍への動作を表はしてはゐるが元來この al は「へ」と云ふ一つの意味しかないのでこの前の en la manĝoĉambron 又はこの文章の sur la tegmenton のやうに特に n を加へて方向を示す必要がない。で al la domon は誤りで al la domo でなくてはならない。(5) sur はその面の上(直接その表面に觸れてゐる)。super はその面の上の方(その表面とは觸れてゐない)で La birdo surflugis sur la tegmenton. の鳥は屋根の上に飛んで行き屋根にとまつたことを意味するが La birdo superflugis super la tegmenton. の場合には屋根の上の方へ飛んで行つても鳥は屋根とは離れて飛んでゐる。(6) La birdo superflugis super la tegmenton. は tegmenton とあるので他の所から屋根の上の方へ飛んで行つたことになるが La birdo superflugis super la tegmento. なれば單に屋根の上の方を飛んでゐたことになる。

Por ĉiu aĉetita funto da teo tiu ĉi komercisto aldonis senpage funton da sukero.

〔註〕(1) funto ポンド (英 pound 獨 Pfund)。isto は職業としてゐる人を表はす接尾語。komerci 商ふ。komercisto 商人。al へ。doni 與へる。aldoni 添へて與へる。pagi 支拂ふ(動詞の不定法)。page 支拂つて(副詞)。senpage 支拂はないで＝無料で(副詞)。(2) 茶の買はれたる各のポンドに對してこの商人は無代で砂糖の一ポンドを附加へて與へた (＝この商人は茶

のーポンドに砂糖一ポンドづゝ無代でやつた)。(3) 英語で novelist (novel (小說) ist (を作ることを職業とする人)＝小說家) esperantist (Esperant) (エスペラント) ist (を使ふことを主義としてゐる人) と云ふやうにエス語でも職業者又は主義者を表はす爲めに ist の接尾語を使ふ。(4) i は不定, k は疑問, t は指示, ĉ は個々又は總括, nen は否定, u は人又は物を表はすことは既に諸君の熟知せられる所である。そしてこれ等の組み合せの場合には例へば kio (何) の o の如く「もの」を表はし又「或人の」を ies と云ふやうに es は所持を表はす。これだけのことが解つてゐれば次の十五字は造作なく理解せられる。

	u (人又は物)	o (もの)	es (所持)
i (不定)	iu 或る、或人	io 或物	ies ある人(又は物)の
k (疑問)	kiu どの、誰れ	kio 何	kies だれ(どれ)の
t (指示)	tiu その、それ	tio それ	ties それの
ĉ (總體)	ĉiu 各々の、各人	ĉio すべて	ĉies 各々の
nen (否定)	neniu どれも・・・・せない 誰も・・・・ない	nenio 何も・・・・ない	nenies たれ(どれ)の も・・・・ない

(4) 英の who, which 獨の wer, welch, was に相當する kiu, 英の which 獨の welch, was に當る kio, 英の whose 獨の wessen に當る kies は英獨のこれ等の語が疑問代名詞と關係代名詞の二樣に使はれると同じ樣に時としては疑問代名詞 (例へば Kiu vizitis vin? 誰れが (kiu) 君を訪問しましたか) 時としては關係代名詞 (例へば Sinjoro, kiu vizitis vin, estas mia amiko.「君を訪問した (所の (kiu)) 方は私の友人です」として使はれる。(5) 上表の中で u の語尾をもつてゐるものは Ĉiu povas eniri. (各々のもの (ĉiu) は這入ることが出來る＝だれでも這入つてよろしい) のやうに名詞的に用ゐられることもあり又、Kiu sinjoro estas via amiko? (どの方があなたのお友達ですか) のやうに形容詞的に他の名詞の前に置かれることもある。

Lernolibron oni devas ne tralegi, sed tralerni.

〔註〕(1) devi ればならない (佛 devoir。英の ought, must 獨の sollen, müssen に當る)。tra 通して。tralegi 通讀する。tralerni すつかり習得する。(2) 讀本は通讀でなくすつかり覺え込まないといけない。(3) lerno(名詞) libro(名詞)＝讀本 (名詞)。tra(前置詞)legi(動詞)＝通讀する(動詞)。

Li portas rozokoloran superveston kaj teleroforman ĉapelon.

〔註〕(1) porti 運ぶ、着てゐる (佛 porter。英の carry 獨の tragen に當る)。telero 皿 (獨 Teller)。formo 形 (英 form)。(2) 彼はばら色の上着を着て皿形の帽子を被つてゐます。(3) rozo (ばら。名詞) kolora (色の。形容詞)＝ばら色の(形容詞)。super(上。前置詞)vesto(着物)＝上着 (名詞)。telero (皿。名詞)forma(形。形容詞)＝皿形の (形容詞)。

En mia skribotablo sin trovas kvar tirkestoj.

〔註〕(1) tiri 曳く (佛 tirer)。kesto 箱 (英 chest 獨 Kiste)。(2) 私のテーブルには曳出が四つあります。(3) skribo (書く。名詞)tablo(名詞)＝寫字臺(名詞)。tir(tiri (曳く) の語根)kesto (名詞)＝ひき出し(名詞)。

Liaj lipharoj estas pli grizaj, ol liaj vangharoj.

〔註〕(1) lipo 脣 (英 lip)。haro 髮 (獨 Haar 英 hair)。griza 灰色 (佛 gris 英 grey 獨 grau)。vango 頰 (獨 Wange)。(2) 彼の口ひげは彼の頰ひげよりも一層灰色になつてゐる。(3) この例では lipo, vango が haro と結合する際、語尾の o がなくなつてゐる。

§19.

Teatramanto ofte vizitas la teatron kaj ricevas baldaŭ teatrajn manierojn.

〔註〕(1) teatro 芝居 (英 theatre)。ofte しばしば (獨 oft 英 often)。maniero 樣子 (獨 Manier 英 manner)。(2) 芝居の好きな人は度々芝居へ行きそして間もなく芝居じみた風をするやうになる。(3) amanto は am (ami 愛するの語根)ant(現在分詞の語尾)o(人)＝好く人。

Kiu okupas sin je meĥaniko estas meĥanikisto, kaj kiu okupas sin je ĥemio, estas ĥemiisto.

〔註〕(1) okupi 占める (英 occupy)。okupi sin 從事する。meĥaniko 機械學 (獨 Mechanik 英 mechanics)。ĥemio 化學 (獨 Chemie 英 chemistry)。何々に從事すると云ふ場合には何々の前に je の前置詞を置く。(2) 機械學を研究する人を機械學者と云ひ化學を研究する人を化學者と云ふ。(3) kiu は疑問代名詞 (例へば Kiu venos al vi hodiaŭ vespere? 今晩どなたがお宅へ上りますか) として使はれる場合と、「どの」と云ふ意味で用ゐられる場合 (例へば Kiun libron vi havas? どの本をお持ちですか) と、關係代名詞となる場合 (例へば Mi donis al li la libron, kiun mi aĉetis hieraŭ ĉe Maruzen. 私は昨日丸善で買つた本をあの方にあげました) の三つの場合がある。文章の終に ? のない場合は關係代名詞である。文章の終に ? があり kiu の次に名詞のある時は「どの」、名詞のない時は「だれ」を意味する。上の文章は ? に終つてゐないのでこの kiu は關係代名詞で「所のもの」の意味をもつてゐる。(4) ĥ は獨逸語の ch と同じで ĥa, ĥi, ĥu, ĥe, ĥo は cha, chi, chu, che, cho と發音する。

Diplomatiiston oni povas ankaŭ nomi diplomato, sed fizikiston oni ne povas nomi fiziko, ĉar fiziko estas la nomo de la scienco mem.

〔註〕(1) diplomatio 外交 (獨 Diplomatie 英 diplomacy)。ankaŭ 又。nomo 名 (英 name)。nomi 名づける。diplomato 外交家。fiziko 物理學 (獨 Physik 英 physics)。scienco 科學 (英 science)。mem そのもの (佛 même)。(2) diplomatiisto (外交家) を diplomato とも云ふことは出來るが fizikisto (物理學者) を fiziko と云ふことは出來ない。なぜなれば fiziko (物理學) は科學そのものゝ名稱であるからである。

La fotografisto fotografis min, kaj mi sendis mian fotografaĵon al mia patro.

〔註〕(1) fotografi 寫眞をとる (英 photograph)。sendi 送る (英 send)。aĵo は或性質を有するもの或はあるものから出來てゐることを表はす接尾語。fotografaĵo 寫眞。(2) 寫眞師は私を撮影しました。そして私は私の寫眞を父に送つてやりました。(3) エス語では f の音は f 丈けで表はし ph を用ゐない。又、t の音も t だけで th とはしない。それで theatre, Theater から來てゐる teatro も t だけで又、photograph, Photographie

からとつた fotografi も ph を音に從つて f としてある。(4) aĵo は或るものから出來てゐることを表はす。例へば ovo 玉子。ovaĵo オムレツ。glacio 氷。glaciaĵo アイスクリーム。又、或性質を有するものを表はす。例へば nova 新しい。novaĵo 新しいこと。mola 軟かい。molaĵo 軟かいもの。(5) aĵo をつければ或性質を有するもの。例へば bela 美しい。belaĵo 美しいもの。eco をつければその性質そのものを表はす。例へば beleco 美しさ。moleco 軟かさ。

Glaso de vino estas glaso, en kiu antaŭe sin trovis vino, aŭ kiun oni uzas por vino; glaso da vino estas glaso plena je vino.

〔註〕(1) plena 滿ちてゐる (佛 plein)。(2) glaso de vino (葡萄酒のコップ)とはその中に以前、葡萄酒の這入つてゐた glaso (コップ) 或は葡萄酒(を飮む)爲めに使ふ glaso (コップ)を云ひ glaso da vino (葡萄酒の一杯)とは葡萄酒の滿々と這入つたコップの一杯のことである。(3) この文章は de と da の用例を示したもの、da は分量を表はす前置詞。

Alportu al mi metron da nigra drapo (Metro de drapo signifus metron, kiu kuŝis sur drapo, aŭ kiu estas uzata por drapo).

〔註〕(1) al 「に」「方へ」。porti 運ぶ。alporti 持つて來る。metro メートル或はメートルざし (英 metre)。nigra 黑い (英 nigro 黑人)。drapo 毛織物 (佛 drap)。signifi 意味する (英 signify)。(2) 私に黑い毛織物の一メートルを持つて來てください。(Metro de drapo は毛織物の上にあつた尺度或は毛織物(を測る)ために使はれるメートルざしを意味することにならう)。(3) uzi 用ゐる(能働)。esti uzata 用ゐられる(受働)。(4) signifus の us は條件法の語尾でこの所では「だらう」位の意味になる。

Mi aĉetis dekon da ovoj.

〔註〕(1) deko は dek 十(數詞)の名詞形。(2) 私は玉子の十個を買ひました。(3) 數詞からなる名詞は數字に o を加へればよい。(4) dekon da ovoj＝dek ovojn.

Tiu ĉi rivero havas ducent kilometrojn da longo.

〔註〕(1) この川は長さの二百キロメートルを持つ(＝この川の長さは二百キロメートルある)。(2) tiu ĉi rivero この複數は tiuj ĉi riveroj。これ等の第四格は tiun ĉi riveron; tiujn ĉi riverojn. (3) この文章は Tiu ĉi rivero estas longa ducent kilometrojn. としてもいゝ。長さ、重さ、分量、價格等を表はすときは目的格の形をとる。この規則から上の文章でも kilometrojn と n の語尾をとつて居る。(4) du kilometroj が約 unu mejlo (マイル)で du mejloj が約一里になる。で一里は約 kvar kilometroj に當る。

Sur la bordo de la maro staris amaso da homoj.

〔註〕(1) bordo 岸(佛 bord 英 border へり)。maro 海(獨 Meer。英 marine cable 海底電線)。amaso 群れ (英 mass)。(2) 海岸に人の群れが立つてゐた。

Multaj birdoj flugas en la aŭtuno en pli varmajn landojn.

〔譯〕(1) aŭtuno 秋(英 autumn)。multa 多くの(英の much, many 獨の viel に當る)。(2) 多くの鳥は秋° より暖かい土地の方へ飛んで行く。(3) en la aŭtuno の代りに aŭtune としても同じだ。(4) 場所の移動を表はすので en pli varmajn landojn と第四格形になつてゐる。

Sur la arbo sin trovis multe (aŭ multo) da birdoj.

〔註〕(1) 樹の上に鳥が澤山ゐました。(2) multe da birdoj でも multaj birdoj いづれでも同じだ。又 multo da birdoj とも云ふこともある。はじめの二つが多く使はれる。(3) この例も da の用法を示してゐる。

Kelkaj homoj sentas sin la plej feliĉaj, kiam ili vidas la suferojn de siaj najbaroj.

〔註〕(1) kelk 二三の (英の some 獨の manch に當る)。senti sin 感じる(英 sentiment 感ずる (sent)こと(ment)＝感情)。feliĉa 幸福な。sufero くるしみ(英 suffer)。najbaro 隣人(英 neighbour 獨 Nachbar)。(2) 二三の人々は自分の隣人の苦しみを見る時に自分が最も幸福なものであると云ふことを感ずる。(3) kelkaj homoj は kelke da homoj と云つてもいゝ。併し kelko da homoj は普通使はないやうだ。(4) sia は三人稱男女中性に共通なばかりでなく單數でも複數でも矢張同形である。それで「彼の隣人」も「彼等の隣人」も sia najbaro。この所で siaj najbaroj とあるは名詞

najbaroj が複數である爲めである。(5) la plej feliĉaj の次に homoj が略されてあると考へればよく分る。

En la ĉambro sidis nur kelke da homoj.

〔註〕(1) 部屋の中にはたゞ二三の人々だけ腰かけてゐた。(2) kelke da homoj=kelkaj homoj.

"Da" post ia vorto montras, ke tiu ĉi vorto havas signifon de mezuro.

〔註〕(1) i は不定, a は性質を表はすので ia は「或種の」。vorto 言葉(獨 Wort)。montri 示す(佛 montrer)。mezuri はかる(英 measure)。(2) ある言葉の後にある da はこの言葉は計量の意味を有してゐることを示すものである。

§20.

Mia frato ne estas granda, sed li ne estas ankaŭ malgranda: li estas de meza kresko.

〔註〕(1) granda 大きい(佛 grand)。mezo 眞中。meza 中位の。kreski 生長する(英 increase ます)。(2) 私の兄弟は大きくはない併し小さくもない。中位の成長である(=人並である)。(3) 獨逸で Er ist von mäßigem Wuchs. と云ふやうにエス語でも之と同じに Li estas de meza kresko. と云ふ。(4) mal は反對を表はすので granda 大きい。malgranda 小さい。

Li estas tiel dika, ke li ne povas trairi tra nia mallarĝa pordo.

〔註〕(1) tiel, ke・・・・これ程も(英の so, that 獨の so, daß・・・・に當る)。larĝa 廣い。pordo 戸、戸口。(2) 彼は吾々の所の狹い戸口を通りぬけて行かれない程も肥つてゐます。

Haro estas tre maldika.

〔註〕(1) dika 濃い、太い(獨 dick 英 thick)。(2) 髮の毛は非常に細い。

La nokto estis tiel malluma, ke ni nenion povis vidi eĉ antaŭ nia nazo.

〔註〕(1) luma 明るい(英 illumination イルミテーション)。eĉ さへ(英の

even 獨の sogar に當る)。nazo 鼻(獨 Nase 英 nose)。(2) 吾々はツイ鼻のさきでさへ何物をも見ることが出來なかつた程、その夜は眞暗でした。

Tiu ĉi malfreŝa pano estas malmola, kiel ŝtono.

〔註〕(1) mola 軟い。(2) この古いパンは石のやうに硬い。

Malbonaj infanoj amas turmenti bestojn.

〔註〕(1) turmenti くるしめる(佛 tourmenter 英 torment)。(2)惡い小供は動物を苦しめることが好きだ。

Li sentis sin tiel malfeliĉa, ke li malbenis la tagon, en kiu li estis naskita.

〔註〕(1) beni 祝福する(佛 bénir)。malbeni 呪ふ。naski 分娩する。naskita 分娩せられた。(2) 彼は(その日に於て)分娩せられたその日を呪つた程も不幸のものであると感じた。(3) malfeliĉa は a の語尾に終り形容詞で副詞形 malfeliĉe となつてゐないことに御注意。

Georgo Vaŝington estis naskita la dudek duan de Februaro de la jaro mil sepcent tridek dua.

〔註〕(1) George Washington は一七三二年二月二十二日分娩せられた(=生れた)。(2) 順序數は dua のやうに基數 (du) に a の語尾をつける。(3) 日附を表はすに目的格を用ゐることがある。la dudek duan はこの意味で n の語尾をとつてゐる。

Ni forte malestimas tiun ĉi malnoblan homon.

〔註〕(1) forta 力強い。estimi 尊敬する(佛 estimer 英 esteem)。malestim 卑める。nobla 高倘な(英 noble)。malnobla 野卑な、下品な。(2) 吾々はこの下劣な人間をひどく輕侮する。

La fenestro longe estis nefermita; mi ĝin fermis, sed mia frato tuj ĝin denove malfermis.

〔註〕(1) denove 再び。ne は打消。(2) 私が窓を閉めましたが私の兄弟がそれを又直ぐあけましたので窓は長い間、閉められてなかつた。(3) ne は打消, mal は反對を表はす。例へば nobla 上品な。malnobla 下品な。nenobla 上品でない。上品 (nobla) ではないが下品 (malnobla) でもないと云ふことは考へられる。nenobla (上品でない) と malnobla (下品な)の

間に區別のあることはおわかりのことゝ思ふ。同樣に fermi「閉める」, malfermi「あける」, nefermi「閉めずに置く」。La fenestro longe estis nefermita. 窓は長い間閉められずにあつた。

Rekta vojo estas pli mallonga, ol kurba.

〔註〕(1) rekta 眞すぐな(英 direct)。kurba 曲つた(英 curve)。(2) 眞直ぐな道は曲つた道より短かい。(3) kurba の次に vojo を略してあると見ればいゝ。

La tablo staras malrekte kaj kredeble baldaŭ renversiĝos.

〔註〕(1) ebl は英の able に相當する接尾語で可能を意味する。kredi 信用する。kredeble 信じ得られる＝恐らく。renversi 覆す(佛 renverser)。iĝi 自分を‥‥する＝なる。renversiĝi 自分を覆す＝覆る。(2) テーブルはいがんで立つてゐる。恐らく今に引つくりかへるだらう。

Li staras supre sur la monto kaj rigardas malsupren sur la kampon.

〔註〕(1) supre 上の方に。monto 山(佛 montagne 英 mountain。mont-blanc モンブラン四時白雪を頂くアルプス山の一峯。「白山」の意味)。rigardi 觀る(英 regard)。kampo 野(佛 champ)。(2) 彼は上の方で山の上に立つて野の上を瞰下してゐる。(3) 副詞＋n は方向を表はす。supre 上の方で。malsupren 下の方へ。antaŭe 前の方に。antaŭen 前の方へ。

Malamiko venis en nian landon.

〔註〕(1) amiko 友人。malamiko 敵。(2) 敵が吾々の國へ來た。

Oni tiel malhelpis al mi, ke mi malbonigis mian tutan laboron.

〔註〕(1) helpi 助ける。malhelpi 邪魔する。bona よい。bonigi よくする。malbonigi わるくする。laboro 仕事(英 labor)。(2) 人々は私の邪魔をしてそのために私は私の總ての仕事をいけなくしました。

La edzino de mia patro estas mia patrino kaj la avino de miaj infanoj.

〔註〕(1) 私の父の妻は私の母でそして私の小供どもの祖母になります。

(2) edzino 妻。edzo 夫。patrino 母。patro 父。avino 祖母。avo 祖父。女性を表はす in の語尾を去れば之に對應する男性の名詞が出來る。

Sur la korto staras koko kun tri kokinoj.

〔註〕中庭に一羽の鷄が三羽の牝鷄とゐます。

Mia fratino estas tre bela knabino.

〔註〕(1) 私の姉妹は非常に美しい少女です。 (2) fratino 姉妹。frato 兄弟。knabino 女の子。knabo 男の子。

Mia onklino estas bona virino.

〔註〕(1) viro 男。 (2) 私のをばは性質のいゝ婦人です。 (3) onklino をば。onklo をぢ。virino 婦人。viro 男。

Mi vidis vian avinon kun ŝiaj kvar nepinoj kaj kun mia nevino.

〔註〕(1) 私はあなたのお祖母樣が四人のお孫さんと私の姪をつれてゐられるのをお見受しました。 (2) nepino 孫娘。nepo 男の孫。nevino 姪。nevo 甥。

Lia duonpatrino estas mia bofratino.

〔註〕(1) 繼父母を表はすには duon (半分)を patro 又は patrino の前に置く。bo は結婚の爲めに生ずる親族關係を表はす接頭語で英語の sister-in-law 等の in-law に當る。 (2) 彼の繼母は私の義理の姉妹です。

Mi havas bovon kaj bovinon.

〔註〕私は牡牛と牝牛を一匹づゝもつてゐます。

Lia juna vidvino fariĝis denove fianĉino.

〔註〕(1) vidvo やもめ(英 widower)。fari する。fariĝi なる。 (2) 彼の若い後家さんは又、花嫁さんになりました。 (3) fianĉino 花嫁。fianĉo 花婿。

§21.

La tranĉilo estas tiel malakra, ke mi ne povis tranĉi per ĝi la viandon kaj mi devis uzi mian poŝan tranĉilon.

〔註〕(1) viando 肉(佛 viande)。poŝo ポッケット (佛 poche)。per「で」。「何

何を使つて」。(2) このナイフはなまくらで私はこれで肉を切ることが出來ず自分のポッケットナイフを使はないといけませんでした。

Ĉu vi havas korktirilon, por malŝtopi la botelon.

〔註〕(1) korko (獨 Kork 英 cork)。tiri ひきぬく。ilo は器具を表はす接尾語。korktirilo コルクぬき。ŝtopi 口をつめる(英 stop 獨 stopfen)。malŝtopi 口をぬく。botelo 瓶(佛 bouteille 英 bottle)。(2) 瓶の口をあけるのにキルクぬきをお持ちですか。

Mi volis ŝlosi la pordon, sed mi perdis la ŝlosilon.

〔註〕(1) ŝlosi 鍵をかける(獨 schließen)。ŝlosilo 鍵。perdi 失ふ(佛 perdre)。(2) 私は戸に鍵をかけやうと思ひましたが併し鍵をなくしました。

Ŝi kombas al si la harojn per arĝenta kombilo.

〔註〕(1) kombi 梳る(英 comb)。arĝento 銀(佛 argent)。(2) 彼女は銀の櫛で自分の髮を梳つてゐます。(3) 獨逸語で『私は自分の髮を梳つてゐます』を Ich kämme mir die Haare.『彼女は自分の金髮を梳つてゐます』を Sie kämmt ihr goldenes Haar. とし第三格で所屬を表はすやうにエス語でも同樣の用法がある。al si は ŝi の第三格を表はす再歸代名詞の形。日本語では Ŝi kombas al si la harojn. を『彼女は自分の髮を梳つてゐる』と譯すればよい。

En somero ni veturas per diversaj veturiloj, kaj en vintro ni veturas per glitveturilo.

〔註〕(1) somero 夏(獨 Sommer 英 summer)。veturi 乘物にのつて行く。veturilo のりもの。vintro 冬(英 winter)。gliti すべる(獨 glitschen)。(2) 夏は色々の乘物で行つて冬はそりで行く。(3) veturi 乘物にのつて行く。獨逸語の fahren に相當する。(4) en somero は somere と云つてもいゝ。

Hodiaŭ estas bela frosta vetero, tial mi prenos miajn glitilojn kaj iros gliti.

〔註〕(1) frosto 氷結(英 frost)。vetero 天候(獨 Wetter 英 weather)。preni 取る。gliti すべる。glitilo すべるに使ふもの＝そり。(2) 今日は美しい冷めたい天氣です。ですから私は自分のそりを取り出し滑りに行きませう。

Per hakilo ni hakas, per segilo ni segas, per fosilo ni fosas, per kudrilo ni kudras, per tondilo ni tondas, per sonorilo ni sonoras, per fajfilo ni fajfas.

〔註〕(1) haki 斧できる (獨 hacken)。ilo 道具。hakilo = haki するに用ゐる道具=斧。segi 鋸できる (獨 sägen)。segilo 鋸。fosi ほる (英 fosse 壕)。fosilo 鍬。kudri 縫ふ (佛 coudre)。kudrilo 針。tondi 剪む (佛 tondre)。tondilo 鋏。sonori ベルを鳴らす (英 sonorous 鳴る)。sonorilo ベル。fajfi 吹きならす。fajfilo 笛。(2) 斧で切り鋸で引切り鍬で掘り針で縫ひ鋏で剪みベルで鳴らし笛で吹きならす。

Mia skribilaro konsistas el inkujo, sablujo, kelke da plumoj, krajono kaj inksorbilo.

〔註〕(1) aro は集合を表はす接尾語。skribi 書く。skribilo 書く道具=文房具。skribilaro 文房具一式。konsisti 「からなつて居る」(英 consist)。ujo は容器。inko インキ。inkujo インキ入れ。sablo 砂(佛 sable)。sablujo 砂入れ。sorbi 吸ふ(英 absorb)。sorbilo 吸とる道具。inksorbilo 吸取紙。(2) 私の文房具はインキ入, 砂入れ, 二三本のペンと一本の鉛筆, それに吸取紙から出來てゐます。(3) 砂はインキを吸はす爲めに使つたものです。

Oni metis antaŭ mi manĝilaron, kiu konsistis el telero, kulero, tranĉilo, forko, glaseto por brando, glaso por vino kaj telertuketo.

〔註〕(1) meti 置く (佛 mettre)。kulero 匙 (佛 cuillère)。forko ホーク (英 fork)。brando ブランデー (英 brandy)。tuko 布 (獨 Tuch)。aro は「群れ」,「集り」を表はす接尾語。manĝilo 食器。manĝilaro 食器一式。(2) 私の前に皿, 匙, ナイフ, ホーク, ブランデーを飲む小さいコップ, 葡萄酒のコップ, それに皿敷の小さい布からなる食器一式が置かれました。(3) antaŭ mi は「私の前で」卽ち私の前へ食器を持つて來て「そこで」食器を置いたことを意味し若し他の所から「私の前へ」置いたと云ふ場合には antaŭ min とすべきものと思ふ。antaŭ mi (獨の vor mir) と antaŭ min (獨の vor mich) との間にはこの微妙な差がある。

En varmega tago mi amas promeni en arbaro.

〔註〕(1) varma 暖かい。varmega 暑い。arbo 樹。arbaro 樹の群れ＝林。(2) 暑い日には私は森林の中で散歩するのが好きです。

Nia lando venkos, ĉar nia militistaro estas granda kaj brava.

〔註〕(1) militi 戰ふ。(英 military 軍隊)。militisto 戰ふことを職務とする人＝兵士。militistaro 兵士の集まり＝兵隊。brava 勇敢な (英 brave)。(2) 我々の軍隊は大勢でそれに勇敢だから吾が國は勝利を得ませう。

Sur kruta ŝtuparo li levis sin al la tegmento de la domo.

〔註〕(1) kruta けわしい。ŝtupo 段 (英 step, 獨 Stufe)。ŝtuparo 段の集まつたもの＝階段又は梯子。(2) 彼は險しい梯子段をのぼつて家の屋根へ上つて行きました。(3)「梯子で」と云ふ意味なら per ŝtuparo とする。sur ŝtuparo は梯子段(又は梯子)をのぼつての意味。

Mi ne scias la lingvon hispanan, sed per helpo de vortaro hispana-germana mi tamen komprenis iom vian leteron.

〔註〕(1) hispana スペインの (英 hispanic)。tamen それでも (英の however, nevertheless, 獨の doch, jedoch 等に當る)。kompreni 理解する (佛 comprendre)。vorto 言葉。vortaro 言葉の集まつたもの＝辭書。iom 若干。(2) 私はスペイン語は知りません。併しそれでもスペイン獨逸字典の助によつていくらかお手紙がわかりました。(3) om は物量を表はす。iom 若干。tiom それだけ。ĉiom すべて。kiom どれだけ。

Sur tiuj ĉi vastaj kaj herboriĉaj kampoj paŝtas sin grandaj brutaroj, precipe aroj da bellanaj ŝafoj.

〔註〕(1) vasta 廣漠な (英 vast)。herbo 草 (佛 herbe)。riĉa 富んだ。herboriĉa 草の澤山ある。kampo 野。paŝti 草を喰はす (英 pasture)。paŝti sin 自分に草を喰はす＝草を喰ふ。bruto 家畜 (英 brute)。brutaro 家畜の群れ。precipe ことに。aro 群れ。bela 美しい。lano 毛 (佛 laine)。ŝafo 羊 (獨 Schaf)。(2) この草の澤山ある廣い野原で大きな家畜の群れ，その中でも美しい毛を持つてゐる羊の群れが，草をくつてゐます。(3) lano は毛。felo は毛皮。

§22.

Vi parolas sensencaĵon, mia amiko.

〔註〕(1) senco 意味 (英 sense, 獨 Sinn)。sen ない (佛 sans。英の without, -less 獨の ohne, un, -los に當る)。aĵo は「もの」又は「こと」を表はす接尾語。で senco 意味。sencaĵo 意味のあること。sensencaĵo 意味のないこと。amiko 友人 (佛 ami。bel ami ベラミ (『美貌の友』モオパッサンの傑作の一つ)。(2) 私の友よ。君は意味のないことを話される(=君の云ふことは意味をなさない)。

Mi trinkis teon kun kuko kaj konfitaĵo.

〔註〕(1) trinki 飲む (獨 trinken, 英 drink)。teo 茶 (英 tea, 獨 Tee)。kun 「もつ」「と」(羅 cum。英の with, 獨の mit に相當する前置詞)。kuko 菓子 (焼いた)(獨 Kuchen, 英 cake)。konfiti 砂糖漬にする。konfitaĵo 砂糖漬にしたもの。(2) 私は菓子と砂糖漬とでお茶を飲みました。(3) Mi trinkis teon kun sukero. は私は砂糖の入つてゐる茶を飲みました。で，茶の中へ這入つてゐる時にも亦，茶と同時に食べる時にも同じく kun の前置詞を使ふ。(4) trinki 飲む(總て酒その他の液體を)。drinki 暴飲する(酒を)。

Akvo estas fluidaĵo.

〔註〕(1) fluida 液狀の (英 fluid)。fluidaĵo 液狀のもの=液體。(2) 水は液體である。(3) 英獨語では當然定冠詞をつけるがエス語ではこの場合にも akvo の前に冠詞がない。

Mi ne volis trinki la vinon, ĉar ĝi enhavis en si ian suspektan malklaraĵon.

〔註〕(1) voli 欲する (獨 wollen。佛の vouloir, 英の will 又は wish に當る)。vino 葡萄酒 (英 vine)。ĉar 「ので」(佛 car。英の for, 獨の weil, denn, da 等に相當する)。havi 持つ (英 have)。en 「うち」「中」(英獨の in に相當する前置詞)。enhavi 中に持つ=含有する。si 彼(再歸代名詞)。ia 或種の。suspekta 疑はしい，變な (英 suspect)。mal 反對の意味を表はす接頭語。klara 澄んだ(獨 klar, 英 clear)。malklara 濁つた。malklaraĵo 濁つたもの。(2) 葡萄酒はその中に或る變な濁つたものを持つてゐたので私はそれを飲まうとしませんでした。(3) ĉar ĝi enhavis en si ian suspektan

malklaraĵon. の en si の si は主格 ŝi の意味を表はすので再歸代名詞 si になつてゐる。(4) si と云ふ再歸代名詞は男女中の三性，しかもその單數複數にも共通である。

Sur la tablo staris diversaj sukeraĵoj.

〔註〕(1) stari 立つてゐる (英 stand, 獨の stehen に當る)。diversa 色々の (英 diverse)。sukero 砂糖 (獨 Zucker, 英 sugar)。sukeraĵo 砂糖で作つたもの。(2) テーブルの上に砂糖で出來た色々のものがあつた。(3) 日本語では只だ「ある」と云ふ場合に英獨で stand, lie; stehen, liegen と云ふやうにエス語でも左右前後よりも上下の高さが高い時は stari (立つてゐる)，上下よりも左右前後の長いものには kuŝi (横はつてゐる) と云ふ。例へば『花瓶が机の上にある』は Sur la tablo staras vazo. で『机の上に本がある』と云ふ場合には Sur la tablo kuŝas libro. とする。併し同じ本でも寢かさないで立てゝある時は kuŝi を使はず Sur la tablo staras libro. とする。この用法から考へると上文の砂糖から出來たものは幅よりも高さの方が高い形をしてゐることを想像することが出來る。

En tiuj ĉi boteletoj sin trovas diversaj acidoj: vinagro, sulfuracido, azotacido kaj aliaj.

〔註〕(1) tiu その。tiu ĉi この。botelo 瓶 (英 bottle)。boteleto 小さい瓶。trovi 見出す (佛 trouver。英の find, 獨の finden に當る)。trovi sin 自分を見出す＝ある (獨の sich finden に相當する)。acido 酸 (英 acid)。vinagro 醋酸，酢 (英 vinegar)。sulfuro 硫黄 (英 sulphur)。sulfuracido 硫酸。azoto 窒素 (英 azote)。azotacido 硝酸。alia 他の (英の other, 獨の ander に當る)。(2) これ等の小さい瓶の中には醋酸，硫酸，硝酸その他色々の酸が這入つてゐる。(3) : は dupunkto と云つてその用法は英獨に於けると同樣で日本語では「卽ち」を意味する。上文を例にとれば『これ等の小さい瓶の中には色々の酸が這入つてゐる。「卽ち」‥‥』

Via vino estas nur ia abomena acidaĵo.

〔註〕(1) nur 單に‥‥にすぎない (獨 nur。英の only)。abomena いやな (英 abominable)。acida 酢つぱい。acidaĵo 酢つぱいもの。(2) あなたの葡萄酒は一種のいやな酢つぱいものに過ぎない。

La acideco de tiu ĉi vinagro estas tre malforta.

〔註〕(1) eco は性質を表はす接尾語。acido 酸。acideco 酸性。tre 非常に(佛 très)。forta 强い(佛 fort)。(2) この醋酸の酸性は非常に弱い。

Mi manĝis bongustan ovaĵon.

〔註〕(1) manĝi たべる(佛 manger)。bona よい(佛 bon)。gusto 味(佛 goût。英 taste)。ovo 卵(英 ovarium 卵巢)。ovaĵo 卵から出來たもの=オムレツ。(2) 私はおいしいオムレツを食べました。

Tiu ĉi granda altaĵo ne estas natura monto.

〔註〕(1) granda 大きい(佛 grand)。alta 高い(英 altar=高い(alt)ところ(ar)=祭壇)。altaĵo 高いもの。naturo 自然(獨 Natur, 英 nature)。monto 山(佛 montagne, 英 mountain)。(2) この大きな高いものは自然の山ではない。

La alteco de tiu monto ne estas tre granda.

〔註〕(1) その山の高さは非常に大きくはない=その山は非常に高くはない。(2) aĵo は「もの」又は「こと」を意味し eco は性質を表はす。で altaĵo は「高いもの」alteco は「高さ」。

Kiam mi ien veturas, mi neniam prenas kun mi multon da pakaĵo.

〔註〕(1) kiam「いつ」(疑問の副詞),「時に」(時間の副詞)(英の when 獨の wenn に當る)。n は方向を表はす。ie ある所。ien ある所へ。veturi 行く(乘物にのつて)(獨の fahren に當る)。am は時を表はす。iam 或時。neniam 決して・・・・せない(英の never, 獨の niemals に當る)。tiam そのとき。kiam いつ。preni 取る(佛 prendre)。multa 多くの(英 much, multiplicate)。da「の」(分量を表はす前置詞)。paki 包む,荷造をする(英 pack, 獨 packen)。pakaĵo 荷物。(2) どこかへ旅行する時,私は決して澤山の荷物は持つて行きませぬ。(3) Mi neniam prenas kun mi multon da pakaĵo. 私は決して私と共に荷物の多くを取らない=荷物を澤山もつて行かない。この multo を multe と副詞にし Mi neniam prenas kun mi multe da pakaĵo. としてもその意味は變らない。

Ĉemizojn, kolumojn, manumojn kaj ceterajn similajn objektojn ni nomas tolaĵo, kvankam ili ne ĉiam estas faritaj el tolo.

〔註〕(1) ĉemizo シャツ (佛 chemise)。kolo くび (羅 kolum)。kolumo カラー。mano 手 (英 manuscript＝手 (manu) 記 (script))。manumo カフス (獨 Manschette)。cetera 他の殘りの (etc.＝et cetera。英の rest, 獨の übrig に當る)。simila 類似の (英 similar)。objekto もの (英 object)。nomo 名 (N. N. 某＝nomen nescio)。tolo 麻(佛 toille)。tolaĵo 日本語に適譯がない。强ひて譯せば「シャツ類」或は「洗濯するもの」とでも云ふか。獨逸語の Wäsche に相當するもの。kvankam「拘らず」「が併し」(佛 quoique。英の although, 獨の obgleich に當る)。fari 作る (佛 faire)。el「から」(獨の aus 英の from, out from に當る)。(2) シャツ，カラー，カフスその他これに類似したものはいつも麻で作られてはゐないが併しこれ等を tolaĵo (本來の意味は麻で出來たもの) と云ふ。(3) 獨逸語の nennen (名付ける) は何々を何々と名付けると云ふ時は雙方の何々を第四格にするがエス語では前の「何々を」だけを第四格にし「何々と」の何々は第一格にして第四格にはしない。で上文でも ni nomas tolaĵo. とあつて ni nomas tolaĵon. とは云はない。(4) um は特定の意味を持つてゐないが kolumo, manumo の kolo, mano に對するやうに或る關係はもつてゐる。この他 vento 風，ventumi 扇ぐ。gusto 味，gustumi 味ふ。これ等の場合でも矢張或る關係だけは相互の間に存在してゐる。(5) 受働は「esti＋受働分詞からなる形容詞」で表はされ，この場合では既に作られてゐるので分詞は過去分詞 farita となり主格の複數の爲めに j を加へ faritaj となつてゐる。(6) 何々から出來てゐると云ふ時はいつも el の前置詞を使ふ。例へば『この指輪は金で出來てゐる』は Tiu ĉi ringo estas el oro.『この花瓶は銀です』は Tiu ĉi vazo estas el arĝento.

Glaciaĵo estas dolĉa glaciigita frandaĵo.

〔註〕(1) glacio 氷 (英 glacial 氷の)。glaciaĵo アイスクリーム。dolĉa 甘い (英の sweet, 獨の süß に當る)。igi「にする」「さす」。glaciigi 氷にする。glaciigita 氷にせられた＝凍らされた。frandi 嗜む。frandaĵo 嗜好物。(2) アイスクリームはおいしい凍らした嗜好物である。(3) igi は英の let,ot

cause to be, 獨の lassen, zu etwas machen を意味する接尾語で例へば pura 清潔な。purigi 清潔にする。veni 來る。venigi 來さす。morti 死ぬ。mortigi 死なす＝殺す。

La riĉeco de tiu ĉi homo estas granda, sed lia malsaĝeco estas ankoraŭ pli granda.

〔註〕(1) riĉa 富んでゐる（英 rich)。riĉeco 富。homo 人間。sed 併し（英の but, 獨の aber に當る)。saĝa 賢い（佛 sage)。saĝeco 賢さ。ankoraŭ 尙ほ（佛 encore)。pli「より」。(2) この人間の富は大きいが併し彼の愚さは尙ほ一層大きい。

Li amas tiun ĉi knabinon pro ŝia beleco kaj boneco.

〔註〕(1) ami 可愛がる。ino は女性を表はす接尾語。knabo 男の子（獨 Knabe)。knabino 女の子。patro 父。patrino 母。frato 兄弟。fratino 姉妹。pro（何々の)ために(原因を示す。英の for the sake of, 獨の wegen 又は um-willen に當る)。bela 美しい（佛の bel。bel ami『美貌の友』)。beleco 美しさ。bona 良い（佛 bon)。boneco 善良。(2) 彼は美しいのと性質のいゝのでこの女の子を可愛がります。

Lia heroeco tre plaĉis al mi.

〔註〕(1) heroo 英雄（英 hero)。heroeco 男らしさ。plaĉi 氣に入る（英の please, 獨の gefallen に當る)。(2) 彼の男らしさは非常に私の氣に入りました。(3)『この繪はいかゞです』Kiel plaĉas al vi tiu ĉi pentraĵo?（この繪 (pentri 繪く, pentraĵo 畫かれたもの)は如何に (kiel) あなたに (al vi) 氣に入りますか)。『大變氣に入りました』。Ĝi tre plaĉas al mi.

La tuta supraĵo de la lago estis kovrita per naĝantaj folioj kaj diversaj aliaj kreskaĵoj.

〔註〕(1) tuta 全い。supra 上（英の upper, 獨の oben に當る) supraĵo 表面。lago 湖水（英 lake)。kovri 蔽ふ（英 cover)。per（何々)で（英の through, by mean of, 獨の mittelst, vermittelst, durch 等に相當する)。naĝi 泳ぐ，浮ぶ（佛 nager)。folio 葉（英 folio 頁數)。kreski 生長する。kreskaĵo 生長するもの＝植物。(2) 湖水の全面は浮んでゐる(＝漂流してゐる)葉と色々の他の植物とで蔽はられてゐた。(3) 蔽はられてゐたと云ふことは過

去の事實なので esti は過去の形 estis となり其過去に於て蔽ふと云ふ動作は既に完了してゐるので受働の過去分詞からなる形容詞 kovrita を使ひ La tuta supraĵo de la lago estis kovrita..... となつてゐる。若しその過去の或る時期に今まで研ぎすました鏡のやうな美しい表面に何一つ泛んでゐなかつた湖水に隣る谷間で一陣の龍卷が起り秋の木の葉が中天高く舞ひ上り今にもその葉が湖面を蔽はんとする時には La suprajo de la lago estis kovrota..... と分詞は未來分詞を使ひ，また，もし龍卷が消えて枯葉がパラパラと現に湖面に降りかゝつてゐた時は kovri する動作はその時には現に繼續してゐるので分詞は現在分詞 kovrata を使ひ La suprajo de la lago estis kovrata..... とする。この狀態が現在のことなれば esti は現在形 estas を使ひ分詞は kovri する動作が既に完了してゐるのか或は現に行はれてゐるのか或は將に行はれんとするかに從つて過去分詞 (kovrita), 現在分詞 (kovrata), 未來分詞 (kovrota) を estas の次に置く。例へば今し方，湖面が蔽はれた時は La suprajo estas kovrita.... 今現に蔽はれつゝある時は La suprajo estas kovrata..... 將に蔽はれんとしてゐれば La suprajo estas kovrota..... とする。未來の或る時期のことを話すときは esti は estos とし分詞は完了，繼續，將然のいづれかによつて過去，現在，未來分詞を使ふことは過去及び現在の場合と少しも異らない。例へば今，龍卷が起つたからグズグズしてゐては湖畔へ着く時分にはは湖面はもう一面に蔽はれてゐやうと云ふ時には La suprajo estos kovrita ..... となり，直ぐ出掛ければ湖畔に着く時には現に盛に木の葉が舞落ちてゐやうと云ふ時には La suprajo estos kovrata..... 今，龍卷が起りはじめたから直ぐ出掛ければ未だ木の葉は中天に舞上つてゐやうから將に木の葉の湖面に落ちて來やうとしてゐる所が見えるだらうなど云ふ時には La suprajo estos kovrota..... とする。この esti と受働分詞からなる形容詞の使ひ方は能働の場合と少しも違はない。(4) 受働を表はす文章でその行爲をする者の前には per でなく de の前置詞を使ふ。例へば『この原稿は私から書かれた＝この原稿は私が書いた』は Tiu ĉi manuskripto estas skribita de mi. で Tiu ĉi manuskripto estas skribita per mi. とは決して云はない。per は「何々を使つて」の意味で例へば『この原稿は萬年筆で私が書きました』は「萬年筆を使つて」の意味だので Tiu ĉi manuskripto

estas skribita **de** mi **per** fontoplumo. と云ふ。de を使つてある受働の文章を能働の文章に書かへる時には de の次にある所謂行爲者はその文章の主格になり受働文章の主格はその文章の目的格になる。例へば Tiu ĉi manuskripto estas skribita de mi. を能働文章にすれば Mi skribis tiun ĉi manuskripton. とすることが出來る。然るに per はこの際依然として per で決してその次に來る名詞は主格になり得ない。例へば Tiu ĉi manuskripto estas skribita de mi per fontoplumo. を能働文章にすれば Mi skribis tiun ĉi manuskripton per fontoplumo. で fontoplumo は決して主格にすることは出來ない。所が La tuta supraĵo de la lago estis kovrita **per** naĝantaj folioj kaj diversaj aliaj kreskaĵoj. となつて居り又，この文章を能働文章にしやうと思へば Naĝantaj folioj kaj diversaj aliaj kreskaĵoj kovris la tutan supraĵon de la lago. とすることが出來，上の說明と撞着する。これは Zamenhof 氏が不用意の裡に de と per の用法を混同せられたものではあるまいか。現に Zamenhof 氏はその後になり La tero estas kovrita **per** neĝo. は誤で「地面は雪で蔽はられてゐる」は La tero estas kovrita **de** neĝo. でなければならないと La Revuo 誌上で說明して居る。この neĝo が de を取るなら前の naĝantaj folioj 等も前置詞 de を取らればならない筈だ。(5) folioj はその時，現に naĝi して居るので **naĝantaj** (現在分詞) folioj となつて居る。

Mi vivas kun li en granda amikeco.

〔註〕(1) vivi 生きて行く，生活する (英 revive＝再び (re) 生きる (vive)＝復活する)。amiko 友人。amikeco 友愛。(2) 私は彼と大なる友愛に於て生活した＝私は彼と非常に親しく一所に暮した。

§23.

Patro kaj patrino kune estas nomataj gepatroj.

〔註〕(1) kun「と」(前置詞)。kune「一所にして」(副詞)。nomi 名づける。esti nomata 名づけられる。ge は兩性の總括を表はす接頭語。(2) 父と母とは一所にして兩親と名づけられる。(3) patro と patrino の總括名詞は男性形を複數にし之に ge の接頭語を加へ gepatroj とするやうに sinjoro (紳士), sinjorino (淑女)の總括名詞は gesinjoroj とする。(4) 獨逸語で Vater (父), Mutter (母)の總括名詞は Eltern (兩親)であり，この Eltern

は複數形で單數の形を持たない。この例に從つたのかエス語にも總括名詞はいつも複數形にして單數形を認めて居ない。何事も論理の上に立つエス語のことだからこんな例なんかに構はず gepatro, gepatroj の二形で總括名詞の單數形と複數形とを認めると面白かつたのに殘念なことをしたものだ。(5) 上の文章の主格は patro kaj patrino で複數であるから estas nomata でなく複數形 estas nomataj になつて居る。

Petro, Anno kaj Elizabeto estas miaj gefratoj.

〔註〕(1) Petro と Anno と Elizabeto は私の兄弟姉妹です。(2) 二つの名詞又は代名詞を竝べる時は patro kaj patrino のやうに kaj で結び二つ以上の時は Petro, Anno kaj Elizabeto のやうに最後だけ kaj で結びその前はいづれも , で切る。(3) gefratoj は frato と fratino の總括名詞。

Gesinjoroj N. hodiaŭ vespere venos al ni.

〔註〕(1) sinjoro N. (男の N さん) と sinjorino N. (女の N さん) は今晩私どもの所へ來られます。(2) エス語の字母は母音は a アー, i イー, u ウー, e エー, o オー と讀み父音は n (ノー no), m (モー mo), k (コー ko) のやうに o を加へて呼ぶ。

Mi gratulis telegrafe la junajn geedzojn.

〔註〕(1) gratuli 祝ふ (英 congratulate, 獨 gratulieren)。telegrafo 電報 (英 telegraph)。telegrafe=per telegrafo 電報で。edzo 夫。edzino 妻。geedzoj 夫妻。(2) 私は若い御夫婦を電報でお祝ひ申上げました。(3) 若し總括名詞に單複兩形を認めてあれば la junan geedzon, la junajn geedzojn で單複を區別することが出來都合がよかつた筈だ。

La gefianĉoj staris apud la altaro.

〔註〕(1) fianĉo 花婿。fianĉino 花嫁。gefianĉoj 花嫁花婿。apud そば。altaro 祭壇 (英 altar)。(2) 花嫁花婿は祭壇のそばに立つて居た。

La patro de mia edzino estas mia bopatro, mi estas lia bofilo, kaj mia patro estas la bopatro de mia edzino.

〔註〕(1) bo は結婚によつて生ずる親族關係を表はす接頭語。英語の father-in-law 等の in-law に當る。佛語の beau-père などの beau (ボー)

をそのまゝ採つたものらしい。filo 息子 (英 filial 子の)。 (2) 私の妻の父は私の舅で私はその婿，私の父は妻の舅である。

Ĉiuj parencoj de mia edzino estas miaj boparencoj, sekve ŝia frato estas mia bofrato, ŝia fratino estas mia bofratino; miaj frato kaj fratino (gefratoj) estas la bogefratoj de mia edzino. La edzino de mia nevo kaj la nevino de mia edzino estas miaj bonevinoj.

〔註〕 (1) ĉiu 各の。ĉiuj 總の。parenco 親戚 (佛 parent)。sekvi 從ふ。sekve 從つて。nevo 甥 (佛 neveu, 英 nephew, 獨 Neffe)。 (2) 私の妻の總の親戚のものは私の姻戚である。それで妻の兄弟は私の義兄弟で妻の姉妹は私の義理の姉妹であり私の兄弟と姉妹は妻の義理の兄弟姉妹である。私の甥の妻と私の妻の姪は私の義理の姪に當る。 (3) mia frato kaj mia fratino の代りに miaj frato kaj fratino と云ふことが出來る。これは物主代名詞の場合に限らない。形容詞の場合でも同じだ。例へば bela floro kaj bela birdo の代りに belaj floro kaj birdo. 若し bela floro kaj birdo で bela が單數形の場合にはその形容詞はその直ぐ後に來る名詞だけを形容する。で「鳥と美しい花」の意味になる。併しこの前の paragrafo にあつた Li amas tiun ĉi knabinon pro ŝia beleco kaj boneco. のやうに形容詞又は物主代名詞の次に來る名詞の抽象名詞である時は ŝiaj と複數形にせず ŝi のやうに單數形をとる。この用法に付ては私には意見がある。併し理論は兎も角，動かす可からざるエス語の基礎と認められてゐる本書に歴として この用法のある以上，この用法を正しいと認むる他，致し方がない。

Virino, kiu kuracas, estas kuracistino; edzino de kuracisto estas kuracistedzino.

〔註〕 (1) kuraci 治療する。kuracisto 治療する人＝醫師。 (2) 治療する婦人は kuracistino (女醫)で醫師の妻は kuracistedzino (醫師の妻)である。

La doktoredzino A. vizitis hodiaŭ la gedoktorojn P.

〔註〕 (1) ドクトルの細君 A は今日男のドクトル P (ポー)さんと女のドクトル P (ポー)さんとを訪問しました。 (2) doktoredzino ドクトルの妻。

妻自身はドクトルではない。gedoktoroj は doktoro (男のドクトル)と doktorino (女のドクトル)の總括名詞で la doktoro P. の妻君は doktorino である。

Li ne estas lavisto, li estas lavistinedzo.

〔註〕(1) lavi 洗濯する。洗ふ。lavisto 洗濯屋。lavistino 女の洗濯屋。(2) 彼は lavisto (洗濯屋)ではない。lavistinedzo (女の洗濯屋の亭主)だ。

La filoj, nepoj kaj pranepoj de reĝo estas reĝidoj.

〔註〕(1) filo 息子。nepo 孫。pranepo 曾孫。pra は獨逸語の ur に當る。ido は子又は子孫を意味する。Esperanto を改造した國際語に Ido と云ふものがある。Esperanto の派出語と云ふ意味であらう。Ido は Esperanto を基礎にしてゐるが語彙の選擇が餘りにラテン語に因はれ吾々日本人には非常に覺えにくい。この點から云へば改頁ではなく改惡としか思はれない。reĝo 王。reĝido 王の子孫。(2) 王子と王孫と王の曾孫は王の子孫だ。

La hebreoj estas Izraelidoj, ĉar ili devenas de Izraelo.

〔註〕(1) hebreo ヘブリュー人。Izraelo イスラエル。Izraelido イスラエルの子孫。ĉar 何々なる故に(英の for, 獨の weil, denn, da 等に相當し佛の car から取つたものらしい)。de「から」。veni 來る。deveni 由來する。(2) ヘブリュー人はイスラエルから出て居るのでイスラエルの子孫である。

Ĉevalido estas nematura ĉevalo, kokido — nematura koko, bovido — nematura bovo, birdido — nematura birdo.

〔註〕(1) ĉevalo 馬 (佛 cheval)。cevalido 仔馬。matura 成熟した。koko 鷄。kokido 鷄の雛。bovo 牛。bivido 仔牛。(2) 仔馬は成熟しない馬で鷄の雛は成熟しない鷄, 仔牛は成熟しない牛, 雛は成熟しない鳥である。

§24.

La ŝipanoj devas obei la ŝipestron.

〔註〕(1) ŝipo 船 (英 ship)。ano はそれに所屬する人を意味する。ŝipano 船員。devi「ねばならない」(佛 devoir。英の ought, must, 獨の müssen, sollen

に當る)。estro 長。ŝipestro 船長。obei 從ふ (英 obey)。obei la ŝipestron =obei al la ŝipestro. 船長に從ふ。(2) 船員は船長に從はなければならない。

Ĉiuj loĝantoj de regno estas regnanoj.

〔註〕(1) loĝi 住む(英 lodge)。loĝanto 住でゐる人=住民。regno 國。regnano 國に居る人。(2) 國の總ての住民は regnanoj (その國に住む人)である。

Urbanoj estas ordinare pli ruzaj, ol vilaĝanoj.

〔註〕(1) urbo 都會 (英 suburb 市外)。urbano 都會の人。ordinare 一般に (英 ordinary)。pli「より」。ruza ずるい (英 ruse)。vilaĝo 村落 (英 village)。vilaĝano 田舎の人。(2) 都會のものは一般に田舎の人よりもずるい。

La regnestro de nia lando estas bona kaj saĝa reĝo.

〔註〕(1) lando 國 (英 land)。saĝa 賢い (佛 sage)。(2) 吾々の國の國王は性質のよい賢い王様だ。

La Parizanoj estas gajaj homoj.

〔註〕(1) Parizo パリ。Parizano パリ市民。gaja 快活な (英 gay)。homo 人間。(2) パリの市民は快活な人間だ。

Nia provincestro estas severa, sed justa.

〔註〕(1) provinco 州 (英 province)。severa 嚴しい (英 severe)。sed 併しながら。justa 正しい (英 just)。(2) 吾々の州の長官は嚴しいが併し正義の人だ。

Nia urbo havas bonajn policanojn, sed ne sufiĉe energian policestron.

〔註〕(1) polico 警察 (英 police)。policano 警察官。sufiĉe 充分に (英 sufficiency)。energia 有力な (英 energetic)。policestro 警察の長官。(2) 吾吾の町にはいゝ警察官は居るが充分に有力な署長が居ない。

Luteranoj kaj Kalvinanoj estas kristanoj.

〔註〕(1) Lutero ルッテル。Luterano ルッテル派の人。Kalvino カルヴェン (Calvin)。Kalvinano Calvin 派の人。Kristo キリスト。kristano キリスト敎徒 (英 Christian)。(2) ルッテル派のものも Calvin 派の人々もキリスト

教徒だ。(3) 日本では Luther をルーテルと普通發音してゐるが之は大きな間違ひでルッテルと發音しなければならない。

Germanoj kaj francoj, kiuj loĝas en Rusujo, estas Rusujanoj, kvankam ili ne estas rusoj.

〔註〕(1) germano 獨逸人。franco フランス人。ruso ロシヤ人。Rusujo ロシヤ。Rusujano ロシヤに居る人。kvankam 何々に拘らず。(2) ロシヤに住つて居るドイツ人もフランス人も rusoj (ロシヤ人) ではないが Rusujanoj (ロシヤに住つてゐる人)だ。(3) Rusujo は國名になるので大文字であるのは不思議でないが Rusujano を大文字で書いてある理由は私には解らない。或は誤植であるまいか。尤もこの前の Kalvinanoj, Parizanoj, Izraelidoj いづれも小文字でよささうなものが皆な花文字になつてゐる。これ等を花文字で始めるやうなら kristanoj, franco, rusoj も花文字で始む可きものゝやうに思はれる。

Li estas nelerta kaj naiva provincano.

〔註〕(1) lerta 上手な。nelerta 上手でない。naiva ナイーブな (英 naive) (2) 彼は撲吶でナイーブな田舍の人だ。

La loĝantoj de unu regno estas samregnanoj, la loĝantoj de unu urbo estas samurbanoj, la konfesantoj de unu religio estas samreligianoj.

〔註〕(1) sama 同じい (英 same)。samregnano 同じ國の住民。konfesi 信仰する (英 confess)。konfesanto 信仰する人。religio 宗敎 (英 religion)。(2) 同一の國の住民は samregnanoj で同一の都會の市民は samurbanoj で同一の宗敎を信仰するものは samreligianoj である。

Nia regimentestro estas por siaj soldatoj kiel bona patro.

〔註〕(1) regimento 聯隊 (英 regiment)。regimentestro 聯隊長。por 對して。soldato 兵士 (獨 Soldat)。por siaj soldatoj 自分の兵士に對して＝部下の兵士に對して。kiel 如く。(2) 吾々の聯隊長は部下の兵士に對していゝ父親のやうです。

La botisto faras botojn kaj ŝuojn.

〔註〕(1) boto 長靴 (佛 botte, 英 boot)。botisto 靴屋。fari 作る。ŝuo 靴

獨 Schuh, 英 shoe)。(2) 靴屋は長靴と(普通の)靴をこしらへる。

La lignisto vendas lignon, kaj la lignaĵisto faras tablojn, seĝojn kaj aliajn lignajn objektojn.

〔註〕(1) ligno 材木 (英 ligneous 木製の)。lignisto 材木屋。vendi 賣る (佛 vendre)。lignaĵo 材木で作つたもの。lignaĵisto 指物屋。seĝo 椅子 (佛 chaise)。ligna 木の。objekto 物 (英 object)。(2) 材木屋は材木を賣り，指物屋はテーブルや椅子やその他の木で作つた物を拵へる。

Ŝteliston neniu lasas en sian domon.

〔註〕(1) ŝteli 盗む (獨 stehlen, 英 steal)。ŝtelisto 泥棒。neniu 何人も‥‥せない (英の nobody, 獨の niemand に當る)。lasi 這入らす (獨 lassen)。(2) 誰れも泥棒を自分の家の中へ這入らすものはない。

La kuraĝa maristo dronis en la maro.

〔註〕(1) kuraĝa 勇敢な (英 courage)。maro 海 (英 marine 海の)。maristo 海員。droni 溺れる (英 drown)。(2) あの勇敢な海員は海で溺死した。

Verkisto verkas librojn, kaj skribisto simple transskribas paperojn.

〔註〕(1) verki 著作する (獨 Werk 仕事。英 work)。verkisto 著作家。skribi 書く (英 scribe 筆耕)。skribisto 筆耕。simple 單に (英 simple)。trans 彼方へ (英 transport 彼方へ送る＝輸送する)。transskribi 謄寫する (英 transcribe)。(2) 著作家は書物を著し筆耕はたゞ紙へ謄寫するに過ぎない。

Ni havas diversajn servantojn : kuiriston, ĉambristinon, infanistinon kaj veturigiston.

〔註〕(1) kuiri 料理する (佛 faire cuire)。kuiristo 料理人。ĉambro 部屋。ĉambristo 部屋附の男。ĉambristino 部屋づきの女。infano 幼兒 (英 infant)。infanistino 娚母。veturi 乘つて行く(車馬に)。veturigi 乘つて行かす＝乘せて行く。veturigisto 馭者。(2) 吾々は料理人，部屋附の女，娚母，馭者のやうな色々の召使をつかつて居る。

La riĉulo havas multe da mono.

〔註〕(1) ulo は性質を有する人を表はす接尾語。riĉa 富んだ (英 rich)。riĉulo 富んだ人＝富豪。bela 美しい。belulo 美男。belulino 美人。mono

金錢 (英 money)。(2) この富豪は金を澤山持つて居ます。

Malsaĝulon ĉiu batas.

〔註〕(1) saĝa 賢い。malsaĝa 馬鹿な。malsaĝulo 馬鹿もの。ĉiu 各々のもの。bati 打つ (佛 battre, 英 beat)。 (2) 馬鹿ものを皆んなが打つて居ます。

Timulo timas eĉ sian propran ombron.

〔註〕(1) timi こわがる。timulo 臆病者。eĉ さへ。propra 自身の (佛 propre 英 proper)。ombro 影 (佛 ombre)。(2) 臆病者は自分自身の影にさへびくつく。

Li estas mensogisto kaj malnoblulo.

〔註〕(1) mensogi うそをつく (佛 mentir)。isto は職業，主義者を表はす他にいつも或る行爲を絶えず繰返す人を表はすにも使はれる。例へば mensogisto 「常にうそをつく人」。nobla 上品な。malnobla 野卑な。malnoblulo 野卑な男。(2) 彼れはうそつきで野卑な男だ。

Preĝu al la Sankta Virgulino.

〔註〕(1) preĝi 祈る (英 pray)。sankta 神聖な (英 sanctimonious)。virga 處女の (英 virginal)。virgulino 處女。Sankta Virgulino 聖マリア。(2) 聖母マリアに祈を捧げなさい。

§25.

Mi aĉetis por la infanoj tableton kaj kelke da seĝetoj.

〔註〕(1) aĉeti 買ふ (佛 acheter)。por 爲めに (佛 pour 又は en faveur de, 英の for, 獨の für に當る)。infano 小供。et は小さいもの又は程度の低いことを表はす接尾語。tablo テーブル。tableto 小さいテーブル。seĝo 椅子 (佛 chaise)。seĝeto 小さい椅子。(2) 私は小供の爲めに小さいテーブル一脚と小さい椅子を二三脚買ひました。(3) infano インファーノをインハーノ (inhano) と發音しないやう御注意。(4) Mi aĉetis kelke da seĝetoj.=Mi aĉetis kelkajn seĝetojn.

En nia lando sin ne trovas montoj, sed nur montetoj.

〔註〕(1) trovi sin「ある」(獨の sich befinden に當る)。monto 山。monteto 小山。(2) 私どもの國には山はありません只だ小山があるだけです。(3) l と r の發音を區別しないと lando (國，土地) と rando (緣) の區別が出來なくなる。

Tuj post la hejto la forno estis varmega, post unu horo ĝi estis jam nur varma, post du horoj ĝi estis nur iom varmeta, kaj post tri horoj ĝi estis jam tute malvarma.

〔註〕(1) tuj 直ぐ (佛 tout de suite, 英の immediate, 獨の bald, sogleich, gleich 等に當る副詞)。post 後 (英 posterior)。hejti 火をたく，暖かくする (獨 heizen)。forno ストーブ (佛 fourneau)。eg は大きいもの又は程度の高いことを表はし et と反對の意味をもつて居る接尾語。varma 暖かい。varmega 暑い。varmeta 少し暖かい。mal は反對を表すので varma 暖かい。malvarma 冷たい。unu 一。du 二。tri 三。horo 時間 (英 hour)。jam もう。iom いくらか。tute 全然。(2) 焚いた直ぐ後はストーブは暑かつたが一時間後にはもう暖かな位で二時間たつといくらか生暖かい位に過ぎず三時間後にはストーブはもうすつかり冷たくなつて居た。

En somero ni trovas malvarmeton en densaj arbaroj.

〔註〕(1) en somero 夏 (獨の im Sommer に當る)。malvarmo 冷たさ。malvarmeto 涼しさ。densa 繁つた (英 dense)。(2) 夏，われ々々は繁つた林の中で涼しさを見出す。＝夏，繁つた林の中へ行くと涼しい。(3) en somero＝somere。春 printempo (佛 printemps)。夏 somero (獨 Sommer, 英 summer)。秋 aŭtuno (佛 automne)。冬 vintro (英 winter)。

Li sidas apud la tablo kaj dormetas.

〔註〕(1) sidi 腰をかけて居る (英 sit, 獨 sitzen)。apud そば。dormi 眠る。dormeti うたゝねする。(2) 彼はテーブルのそばに腰をかけて居眠をしてゐます。(3) sidi は「腰かけてゐる」で「腰かける」は sidiĝi 又は sidigi sin (獨の sich setzen に當る)。(4) si と ŝi を區別して發音すること。

Mallarĝa vojeto kondukas tra tiu ĉi kampo al nia domo.

〔註〕(1) larĝa 廣い (佛 large)。mallarĝa 狹い。vojo 道。vojeto こみち。konduki 導く (英の conduct, 獨の führen に當る)。tra 通じて (佛 à travers に相當する前置詞)。 (2) 狹い小徑がこの野を貫抜けて私どもの家へついて居ます。(3)「この街は停車場の方へ行てゐます」Tiu ĉi strato kondukas al la stacidomo.

Sur lia vizaĝo mi vidis ĝojan rideton.

〔註〕(1) vizaĝo 顏 (佛 visage)。ĝoja 樂しさうだ (英 joyous)。ridi 笑ふ。rideti ほゝゑむ。 (2) 私は彼の顏に樂しさうなほゝゑみを見た。 (3) vi (ヴィ) を ビ (bi), ĝo (ヂョ) を ジョ (ĵo) と發音しないやう御注意。

Kun bruo oni malfermis la pordegon, kaj la kaleŝo enveturis en la korton.

〔註〕(1) kun「もつて」(前置詞)。bruo 騷々しい音 (英 bruit)。fermi 閉める。malfermi 開ける。pordo 戸。pordego 門。kaleŝo 馬車 (佛 calèche, 英 carriage)。enveturi 乘り入る。korto 中庭 (英 court)。 (2) 騷々しい音をもつて人は門をあけた(=騷々しい音をして門をあけた)そして馬車は中庭の中へ這入つた。

Tio ĉi estas jam ne simpla pluvo, sed pluvego.

〔註〕(1) tio それ。tio ĉi これ。simpla たゞの (英 simple)。pluvo 雨 (佛 pluie)。pluvego 大雨。 (2) これはもう只だの雨ではない大雨だ。 (3) ti (ティ。英獨の ti と同じだ) と ĉi (チィ。英の church の ch と同じだ) と ci (ツィ。獨の zi と同じ音) を區別するやう御注意。

Grandega hundo metis sur min sian antaŭan piedegon, kaj mi de teruro ne sciis, kion fari.

〔註〕(1) granda 大きい。grandego 素敵に大きい。hundo 犬 (獨 Hund)。antaŭ 前 (前置詞)。antaŭa 前の。pied 足 (佛 pied)。piedego 大きな足。de「の爲め」。teruro 恐怖 (佛 terreur, 英 terror)。scii 知る (英 science 知る(sci)こと(ence)=科學)。kio 何。kion 何を。fari なす (佛 faire)。de teruro 恐ろしくつて。kion fari 何をなすべきか=どうすればいゝか。 (2) 素敵に大きい犬が私の上にその大きな前足を置きましたので私は恐ろしくて，どうすればいゝのか分らなかつた。 (3) hu, fu は英獨の hu, fu と全く同じだ。日本のフはこの何れにも當らない。 (4) 上の文章の主格

は grandega hundo で antaŭa piedego はこの主格である犬のものだから ĝian antaŭan piedegon でなく再歸物主代名詞 sia を使ひ sian antaŭan piedegon となつて居る。

Antaŭ nia militistaro staris granda serio da pafilegoj.

〔註〕(1) serio 列 (英 series)。pafi 射擊する。ilo は道具を表はす接尾語。pafilo 射擊する道具=銃。これに ego の接尾語の加はつた pafilego は大砲。(2) 私どもの軍隊の前には大砲の大きな列が立つて居た(=大砲の長い砲列がしかれてあつた)。

Johanon kaj Marion iliaj gepatroj nomas Johanĉjo (aŭ Joĉjo) kaj Manjo (aŭ Marinjo).

〔註〕(1) 芳子を「よつちやん」みつ子を「みつちやん」と云ふやうにエス語にもこの「ちやん」に相當する接尾語がある。男のときは ĉjo (チョ), 女の時は njo (ニョ)。例へば Johano (男の名。ヨハネ)を Johanĉjo 又は Joĉjo, Mario (女の名。マリア)を Marinjo 又は Manjo と云ふ。この「ちやん」は日本語でも「おとうちやん」「おかあちやん」と普通名詞にもつけるやうにエス語でも patro (父), patrino (母) から paĉjo (おとうちやん), panjo (おかあちやん)を作ることが出來る。(2) Johano と Mario をその兩親は Johanĉjo (或は Joĉjo) Manjo (或は Marinjo) と呼びます。(3) この文章の主格は iliaj gepatroj で Johanon kaj Marion は目的格で主格ではない。それで iliaj gepatroj とあつて siaj gepatroj とはしない。併し若しこの文章を『Johano と Mario はその兩親に Johanĉjo, Manjo と呼ばれる』と受働の文章に書換へれば, この時には Johano と Mario が主格になり gepatroj はその主格の兩親を表はすので Johano kaj Mario estas nomataj de siaj (iliaj ではない) gepatroj Johanĉjo kaj Manjo. となる。

§26.

En la kota vetero mia vesto forte malpuriĝis; tial mi prenis broson kaj purigis la veston.

〔註〕(1) koto 汚物 (泥や埃のやうな) (獨 Kot 大便)。kota きたない。vetero 天氣 (獨 Wetter, 英 weather)。vesto 着物。forte 强く, ひどく。pura 清潔な。malpura 不潔な。iĝi 「・・・になる」。puriĝi きれいになる。

malpuriĝi きたなくなる。tial それ故に。preni とる（佛 prendre)。broso ブラッシュ（佛 brosse, 英 brush)。igi「‥‥にする」。purigi きれいにする。(2) 汚ない天氣で(＝泥や埃などでいやな天氣で)私の著物は酷く汚れましたので私はブラッシュを取つて著物をきれいにしました。

Li paliĝis de timo kaj poste li ruĝiĝis de honto.

〔註〕(1) pala 蒼白い（英 pale)。iĝi「‥‥になる」。paliĝi 蒼くなる。timo 恐れ。post 後(前置詞)。poste 後に（副詞)。ruĝa 赤い。ruĝiĝi 赤くなる。honto はにかみ。de「の爲めに」。(2) あの男は恐がつて(顏色が)眞蒼くなつたがそのあとで，きまりが悪くつて眞赤になつた。

Li fianĉiĝis kun fraŭlino Berto; post tri monatoj estos la edziĝo; la edziĝa soleno estos en la nova preĝejo, kaj la edziĝa festo estos en la domo de liaj estontaj bogepatroj.

〔註〕(1) fianĉo 許嫁。fianĉiĝi (男が)婚約する。fraŭlino 孃（獨 Fräulein)。女が許嫁になる時は fianĉiniĝi。edzo 夫。edziĝo (男の)結婚(夫になる)。女の方から云ふ時は edziniĝo (妻になる)。soleno 儀式（英 solemnity)。nova 新しい(佛 nouveau, 英 new)。preĝi 祈る（英 pray)。ejo は動作の行はれる場所を表はす。preĝejo 祈る所＝敎會。festo お祝ひ。esti ある。ant は現在分詞，int は過去分詞，ont は未來分詞を表はす語尾。estanta 現在の。estinta 過去の。estonta 未來の。bo は結婚によつて出來る親族關係を表はす接頭語。bogepatroj 舅姑。(2)彼は Berto 孃と婚約をしました。三ヶ月あとで結婚をし結婚の式は新しい敎會で行ひ結婚のお祝ひは未來の舅姑になる人の家で行ひます。

Tiu ĉi maljunulo tute malsaĝiĝis kaj infaniĝis.

〔註〕(1) juna 若い（獨 jung, 英 young)。maljuna 年取つた。ulo は性質を備へる人を表はす接尾語。junulo 若者。maljunulo 老人。saĝa 賢い（佛 sage)。malsaĝa 馬鹿な。malsaĝiĝi 馬鹿になる。infano 小供。infaniĝi 小供のやうになる。(2) この老人は全く馬鹿で小供のやうになつた。

Post infekta malsano oni ofte bruligas la vestojn de la malsanulo.

〔註〕(1) infekta 傳染さす (英 infect)。sano 健康。malsano 病氣。malsanulo 病人。bruli 燃える。bruligi 燃やす。(2) 傳染病の後には屢〻その病人の着物を燒きます。

Forigu vian fraton, ĉar li malhelpas al ni.

〔註〕(1) for 離なれて(副詞)。forigi 離れさす＝去らす。helpi 助ける (英 help)。malhelpi 邪魔する。(2) 君の兄弟は吾々の邪魔するから彼方へ行かして吳れ給へ。(3) Li malhelpas al ni.＝Li malhelpas nin.

Ŝi edziniĝis kun sia kuzo, kvankam ŝiaj gepatroj volis ŝin edzinigi kun alia persono.

〔註〕(1) edziniĝi 女が結婚する (edzino になる)。kuzo いとこ (英 cousin)。kvankam 「....に拘らず」。edzinigi 結婚さす(女を) (edzino にする)。男が edzo になる卽ち結婚するは edziĝi。男を edzo にする卽ち結婚さすは edzigi。persono 人 (英 person)。(2) 彼の女の兩親は他の人と結婚ささうと思つたが併し彼女は自分のいとこと結婚しました。(3) 何故 Ŝi edziĝis kun ŝia kuzo. が誤で Ŝi edziniĝis kun sia kuzo. でなければならないのか。(4) ŝi と si を區別して發音しないと sia kuzo と ŝia kuzo の區別をつけることが出來なくなる。(5) si＝si (英), ŝi＝shi (英)＝schi (獨)。

En la printempo la glacio kaj la neĝo fluidiĝas.

〔註〕(1) printempo 春 (佛 printemps)。glacio 氷 (英 glacial 氷の)。neĝo 雪 (佛 neige)。fluida 流動の。fluidiĝi 流動體になる (＝解ける)。fluidigi 解流動體にする (解かす)。(2) 春になると氷と雪が解ける。

Venigu la kuraciston, ĉar mi estas malsana.

〔註〕(1) veni 來る。venigi 來さす。(2) 私が病氣ですから醫者を呼んでください。

Li venigis al si el Berlino multajn librojn.

〔註〕(1) al si 自分に。(2) 彼は自分に Berlin から澤山の本を來らした (＝彼は Berlin から本を澤山取寄せた)。(3) multajn librojn＝multe da libroj＝multon da libroj. (4) Li venigis al **si**....の代りに Li venigis al **li**....とあれば甲の男は自分の所へ送らしたのでなく甲以外の或人の所へ本を送らしたことになる。

Mia onklo ne mortis per natura morto, sed li tamen ne mortigis sin mem kaj ankaŭ estis mortigita de neniu; unu tagon, promenante apud la reloj de fervojo, li falis sub la radojn de veturanta vagonaro kaj mortiĝis.

〔註〕(1) onklo をぢ (英 uncle, 獨 Onkel)。morti 死ぬ。natura 自然の (英 natural)。morto 死。sed....tamen だが併し (獨 aber doch)。igi 何々....さす。mortigi 死なす=殺す。mortigi sin 自分を殺す=自殺する。mem 自身 (佛 même)。tago 日 (獨 Tag)。時期を表はすに第四格の形をとることがある。unu tagon は unu tago の第四格形で「或る日」(獨の eines Tages に相當する)。promeni 散步する (英 promenade)。ant は現在分詞を表はす語尾。promenante 散步してゐて。relo レール (英 rail)。fero 鐵 (英 ferreous 鐵製の)。vojo 道 (佛 voie)。fali 落ちる，倒れる (英 fall)。sub 下 (前置詞)。rado 輪 (獨 Rad)。veturi 車行する。veturanta 車行しつゝある。vagono 車 (英 waggon)。aro は集まりを表はす接尾語。vagonaro 車の集まり=列車。iĝi は或る狀態になることを表はす接尾語。mortiĝi 死と云ふ狀態になる=死ぬ。morti と mortiĝi は意味の上から云へば同じと見ても差間ない。 (2) 私のをぢは自然の死によつて死んだのではない(=私のをぢは變死した)が併し自分自身を殺した(=自殺した)のでもなければ又，誰れに殺されたと云ふのでもない。或日，鐵道のレールのそばを散步して居る時，進行して居る列車の車輪の下に倒れて命をとられたのです。 (3) なぜ sub la radojn となつて sub la radoj となつて居ないでせう?

Mi ne pendigis mian ĉapon sur tiu ĉi arbeto; sed la vento forblovis de mia kapo la ĉapon, kaj ĝi, flugante, pendiĝis sur la branĉoj de la arbeto.

〔註〕(1) pendi かゝつて居る。pendigi かゝらす=かける。ĉapo 鍔のない帽子 (獨の Mütze)。鍔のある帽子は ĉapelo (獨 Hut, 英 hat)。eto は小さいことを表はす接尾語。arbo 樹。arbeto 灌木。sed しかし。vento 風 (佛 vent, 英 wind)。for は 英の forth, 獨の fort, weg に當り距離の遠かることを表はす副詞。blovi 吹く (英 blow)。forblovi 吹きとばす。de 「から」。

kapo 頭 (羅 caput。獨 Kopf。英 cap a pie 頭から足の爪先まで)。flugi 飛ぶ (獨 fliegen)。flugante 飛んで居るうちに。pendiĝi かゝつて居る (pendi) 狀態になる＝かゝる。branĉo 枝 (英 branch)。(2) 私は自分の帽子をこの灌木の上に引かけはしませんでした。風が私の頭から帽子を吹飛しそして帽子が飛んで居るうちに灌木の枝の上に引かゝつたのです。(3) Mi ne pendigis mian ĉapon sur tiu ĉi arbeto. の代りに Mi ne pendigis mian ĉapon sur tiun ĉi arbeton. Ĝi pendiĝis sur la branĉoj. の代りに Ĝi pendiĝis sur la branĉojn. とした方がよさそうに思はれる。併し §21 の Oni metis antaŭ mi manĝilaron. の場合と同じやうにこの場合でも帽子を arbeto の上に持つて行つて「そこで」pendigi する。或は帽子が branĉoj の上に轉がつて居るうちに「そこで」pendiĝi したと云ふ特別の意味を持たす積ならば格別である。

Sidigu vin (aŭ sidiĝu), sinjoro!

〔註〕(1) sidi 腰かけて居る。sidigi 腰をかけさす。sidigi sin 自分を腰かけさす＝腰をかける (獨の sich setzen に當る)。aŭ 或は。sidiĝi 腰かけて居る狀態になる＝腰をかける (＝sidigi sin)。三人稱の時には sidigu sin. 二人稱の時は sin の代りに vin を置き Sidigu vin となる。一人稱の時は Mi sidigas min (aŭ mi sidiĝas). Ni sidigas nin (aŭ ni sidiĝas)。(2) おかけください。(3)「どうか」はエス語では Mi petas (獨の bitte に當る) と云ふ。で Sidigu vin, sinjoro! の代りに Sidigu vin, mi petas! (獨の Bitte, setzen Sie sich! に當る) と云つてもいゝ。

La junulo aliĝis al nia militistaro kaj kuraĝe batalis kune kun ni kontraŭ niaj malamikoj.

〔註〕(1) juna 若い。junulo 若もの。al は「に」又は「へ」の意味を表はし接近，結合等を意味する前置詞。之に iĝi を附け aliĝi とすれば「加はる」。batali 戰ふ、(佛 combattre, 英 battalion 大隊)。kontraŭ 對(抗)して (佛 contre。獨 Kontraindication 禁忌)。(2) この(或はあの)若者は吾々の軍隊に加はり吾々と一所に敵に向つて奮鬪した。

§27.

En la daŭro de kelke da minutoj mi aŭdis du pafojn.

〔註〕(1) daŭro 繼續 (獨 dauern つゞく)。en la dauro 經過中＝間。aŭdi 聞く (英 audience きく (audi) もの (ence)＝きいて)。pafi 射擊する。pafo 射擊。(2) 二三分の間に二回銃撃を聞きました。

La pafado daŭris tre longe.

〔註〕(1) ad は動作の繼續を表はす接尾語。例へば pafo は個々の射撃で pafado は續いて行はれる射擊。(2) 射擊は非常に長くつゞきました。

Mi eksaltis de surprizo.

〔註〕(1) ek は瞬間の動作又は狀態 (例へば Ekbrilas. 稲光がした) 又は動作の始まることを表はす (例へば dormi 眠る。ekdormi 眠りはじめる)。salti 飛上る (佛 sauter)。eksalti 不意に飛上る。de 何々の爲めに。surprizo 驚き (英 surprise)。(2) 私はビックりして飛上つた。

Mi saltas tre lerte.

〔註〕私は非常にうまく飛び上がります。

Mi saltadis la tutan tagon de loko al loko.

〔註〕(1) salti 飛び上がる。saltadi とび廻る。目的格で時の繼續を表はすことがある la tutan tagon (終日)はこの一例。獨逸語にも同じ例がある。例へば den ganzen Tag (終日)。loko 場所 (英 local, 獨 lokal 局所の)。de 「から」。al 「へ」。de loko al loko 場所から場所へ＝あちこち。(2) 私は朝から晩まであつちこつち飛び廻つて居ました。

Lia hieraŭa parolo estis tre bela, sed la tro multa parolado lacigas lin.

〔註〕(1) hieraŭ 昨日 (佛 hier)。paroli 話す。parolo 話。tro あまり (佛 trop。英の too, 獨の zu 又は zu viel に當る)。multa 多い (英の much, many, 獨の viel に當る)。paroladi 話つゞける。laca 勞れた (佛 las)。lacigi 疲らす。laciĝi 疲れる。(2) 昨日の彼の話は素敵に良かつた。併し餘り澤山話しつゞけることが彼を疲らした (＝併し餘り澤山話しつゞけたのでく

たびれた)。(3) hieraŭ 昨日。hodiaŭ 今日 (獨 heute)。morgaŭ 明日(獨 morgen)。antaŭhieraŭ 一昨日。postmorgaŭ 明後日。

Kiam vi ekparolis, ni atendis aŭdi ion novan, sed baldaŭ ni vidis, ke ni trompiĝis.

〔註〕(1) kiam (英 when, 獨 wenn)に「いつ」と「時に」の二つの意味のあることは英獨語に於けると同じだ。paroli 話す。ekparoli 話し始める。atendi 待つ (佛 attendre)。io あるもの。io nova 新しいあるもの。獨の etwas Neues に當る。baldaŭ 間もなく (獨 bald)。ke「こと」(佛 que。英の that, 獨の daß に當る)。trompi だます (佛 tromper)。trompiĝi=trompigi sin 自分をだます=欺かれる。(2) あなたが話を始められた時に私は何か新しいことを聞くと期待して居ました(=何か新しいことを云はれると期待して居ました)併し間もなく私どもは思違をしてゐたことが分りました(=併し直ぐその期待は裏切られたことが分りました)。

Li kantas tre belan kanton.

〔註〕(1) kanti 歌ふ (佛 chanter)。(2) 彼は非常に美しい歌を歌ふ=彼の男は素敵にうまく歌つて居ます。

La kantado estas agrabla okupo.

〔註〕(1) ad は「こと」の意味を表はすことがある。kanti 歌ふ。kantado 歌ふこと。lerni 學ぶ。lernado 學ぶこと=學習。獨逸語で動詞をそのまゝ名詞にする場合, 例へば singen から das Singen, lernen から das Lernen を作る場合にはエス語ではこの ad を使ふ。agrabla 氣持のいゝ (英 ageeable)。okupo 仕事, こと (英 occupation)。(2) 歌ふことは氣持のいいものだ。

La diamanto havas belan brilon.

〔註〕(1) diamanto ダイヤモンド (英 diamond, 獨 Diamant)。(2) このダイヤは美しい光輝を持つて居る(=このダイヤは美しく光る)。

Du ekbriloj de fulmo trakuris tra la malluma ĉielo.

〔註〕(1) brilo 光輝。ekbrilo 瞬間的の輝=閃めき。fulmo 稲妻。tra 通して。kuri 走る (佛 courir)。luma 明るい (佛 lumière 光線)。malluma 暗

い。ĉielo 空(佛 ciel)。 (2) 稲妻の二つの閃めきが暗い空を通して貫き走つた(=稲妻が暗い空を通して二度閃めいた)。

La domo, en kiu oni lernas, estas lernejo, kaj la domo, en kiu oni preĝas, estas preĝejo.

〔註〕(1) ejo は或動作の行はれる場所或は或ものゝ在る場所を表はす接尾語。lerni 學ぶ。lernejo 學ぶ所=學校。preĝi 祈る。preĝejo 祈る所=教會。kiu (英の which, who に當る) は英獨と同じに疑問代名詞として用ゐれる場合(例へば Kiu kantas en la ĝardeno? 庭で誰れが歌つて居ますか) と關係代名詞として用ゐられる場合(例へば La domo, en kiu oni lernas, estas lernejo.) とある。en kiu は英語の in which に當る。 (2) 吾々がその中で學ぶ家は學校でその中で祈を捧げる所の家は教會である。

La kuiristo sidas en la kuirejo.

〔註〕(1) kuiri 料理する (佛 faire cuire)。kuiristo 料理を職業にする人=料理人。kuirejo 料理をする所=臺所。 (2) 料理人は臺所で腰をかけて居ます。

La kuracisto konsilis al mi iri en ŝvitbanejon.

〔註〕(1) kuraci 治療する。kuracisto 治療を業とする人=醫者。konsili 勸める, 忠告する (英 counsel, advice, 佛 conseiller)。iri 行く。ŝviti 汗をかく (獨 schwitzen)。bani 浴びる (佛 baigner)。banejo 浴びる所=浴場。ŝvitbanejo 蒸風呂。en ŝvitbanejo 蒸風呂で。en ŝvitbanejon 蒸風呂へ。(2) 醫者は蒸風呂へ行くやうに私に勸めました。 (3)「何々することを何何する」と云ふ場合には「何々すること」は動詞の不定法で表はす。例へばこゝの La kuracisto konsilis al mi **iri** en ŝvitbanejon. 又, この前の Kiam vi ekparolis, ni atendis **aŭdi** ion novan. の iri, aŭdi いづれも不定法である。

Magazeno, en kiu oni vendas cigarojn, aŭ ĉambro, en kiu oni tenas cigaron, estas cigarejo; skatoleto aŭ alia objekto, en kiu oni tenas cigarojn, estas cigarujo; tubeto, en kiun oni metas cigaron, kiam oni ĝin fumas, estas cigaringo.

〔註〕(1) magazeno 店 (佛 magasin)。vendi 賣る (佛 vendre)。cigaro 葉卷 (英 cigar)。teni 保つ (佛 tenir)。cigarejo 煙草屋又は煙草のある部室。skatolo 箱。skatoleto 小箱。ujo は容器を表はす接尾語。cigarujo 葉卷入れ。tubo 管 (英 tube)。tubeto 小管。meti 置く (佛 mettre)。fumi くすらす (英 fume)。ingo はパイプ，ペン軸のやうに煙草，ペン等を支へるに用ゐるものを表はす接尾語。cigaro 葉卷。cigaringo パイプ。plumo ペン。plumingo ペン軸。 (2) 葉卷を賣つて居る店或は葉卷を置いてある部屋は cigarejo (たばこや又はたばこ部屋) で葉卷を入れて置く小さい箱とか或はほかの入れものは cigarujo (たばこ入れ) と云ひ葉卷を喫む時に之を插込む小さい管を cigaringo (パイプ) と云ふ。

Skatolo, en kiu oni tenas plumojn, estas plumujo, kaj bastoneto, sur kiu oni tenas plumon por skribado, estas plumingo.

〔註〕(1) bastono 棒 (佛 bâton)。bastoneto 小さい棒。skribi 書く (獨 schreiben)。skribado 書くこと (獨の das Schreiben に當る)。 (2) ペンを入れて置く箱はペン入れで，字を書く爲めにペンをその上に保つ小さい棒はペン軸である。

En la kandelingo sidas brulanta kandelo.

〔註〕(1) kandelo 蠟燭 (英 candle)。kandelingo 燭臺。sidi すわつて居る。bruli 燃える (佛 brûler)。brulanta 燃えて居る。 (2) 燭臺の中に燃えて居る蠟燭が立つて居ます。

En la poŝo de mia pantalono mi portas monujon, kaj en la poŝo de mia surtuto mi portas paperujon; pli grandan paperujon mi portas sub la brako.

〔註〕(1) poŝo ポッケット (佛 poche)。pantalono ズボン (英 pantaloons)。porti 運ぶ (佛 porter。英の carry，獨の tragen に當る)。mono 錢 (英 money)。monujo 錢入。surtuto オーバー (英 over-coat)。papero 紙 (英 paper)。paperujo 紙入。brako 腕 (羅 Nervus brachialis 上膊神經)。 (2) 私はズボンのポッケットの中には錢入を，オーバーのポッケットには紙入を入れて置き，それよりも大きい紙入は腕に抱へて行く。

La rusoj loĝas en Rusujo kaj la germanoj en Germanujo.

〔註〕(1)容器と云ふ意味を廣めて國を表はす時にも ujo を用ゐる。例へば ruso ロシア人。Rusujo ロシア人の居る所＝ロシヤ。germano ドイツ人。Germanujo ドイツ人の居る所＝ドイツ。ujo はこの他に果樹を表はすことがある。例へば pomo 林檎。pomujo 林檎のある所＝林檎の樹。果樹は ujo の代りに arbo を加へ pomujo の代りに pomarbo と云つてもいゝ。

§28.

Ŝtalo estas fleksebla, sed fero ne estas fleksebla.

〔註〕(1) ŝtalo はがね（獨 Stahl, 英 steel）。fleksi まげる（佛 fléchir。英 reflect 後へまげる＝反射する）。ebl は英語の eatable, drinkable 等の able に相當し「何々することの出來る」の意味をもつ接尾語。fleksebla 曲げることの出來る。(2) 鋼は曲げることが出來るが鐵は曲げることが出來ない。

Vitro estas rompebla kaj travidebla.

〔註〕(1) vitro ガラス（英獨 in vitro ガラスの中＝試驗管內）。rompi わる（佛 rompre）。rompebla わることが出來る。travidebla 通して (tra) 見る (vidi) ことが出來る (ebla)＝透明な。(2) ガラスはわれるもので透明である。

Ne ĉiu kreskaĵo estas manĝebla.

〔註〕(1) 各々の植物は食べられるものではない（＝どの植物も食べられると云ふものではない）。(2) ne は打消すものゝ直ぐ前に置かれる。この文章では ĉiu kreskaĵo の前にあるので ĉiu ではないと云ふ意味になる。卽ち或る植物は食べられてもどの植物も（卽ち總ての植物は）食べられるものではないとの意。若し Ĉiu kreskaĵo ne estas manĝebla. とあれば「どの植物も食べられない」ことになる。

Via parolo estas tute nekomprenebla kaj viaj leteroj estas ĉiam skribitaj tute nelegeble.

〔註〕(1) tute 全然（副詞）。kompreni 理解する（佛 comprendre）。kompre-

nebla 理解することが出來る。nekomprenebla わからない。legi 讀む。legebla 讀むことが出來る。nelegebla 讀めない(形容詞)。nelegeble 讀めないやうに(副詞)。(2) あなたの話は丸でわからない。そしてあなたの手紙はいつも丸で讀めないやうに書かれてある(=書いてある)。(3) 動詞，形容詞又は他の副詞の意味を限定する言葉は總て副詞である。例へば Vi parolas (動詞) rapide (副詞)。あなたは早く(=早口に)話す。Via parolo estas tute (副詞) nekomprenebla (形容詞)。Viaj leteroj estas ĉiam skribitaj (形容詞) tute (副詞。これは次の nelegeble なる副詞の意味を限定する) nelegeble (副詞。これは skribitaj と云ふ形容詞の意義を限定する)。(4) viaj leteroj が複數なので estas skribitaj と skribitaj は複數になつて居る。若し單數なら Via letero estas skribita. となる。

Rakontu al mi vian malfeliĉon, ĉar eble mi povos helpi al vi.

〔註〕(1) rakonti 物語る (佛 raconter)。feliĉo 幸ひ。malfeliĉo 不幸。eble 恐らく。helpi 援助する，力になる。(2) 多分私はあなたのお力になることが出來ませうから，あなたの不仕合を私に話してください。(3) helpi al vi=helpi vin.

Li rakontis al mi historion tute nekredeblan.

〔註〕(1) historio 話，來歴 (英 history)。kredi 信ずる (英 credit 信用)。kredebla 信用の出來る。nekredebla 信じられない。(2) 彼は全然信じられない話を私にしました。(3) tute は histrio の形容詞 nekredebla の意味を限定して居るので副詞。

Ĉu vi amas vian patron? Kia demando! komprenéble, ke mi lin amas.

〔註〕(1) kia 何んと云ふ。demandi 問ふ (英 demand)。kompreni 理解する。kompreneble 理解することの出來る=勿論で。Kompreneble, ke.....は Estas kompreneble, ke.....の estas を略したものと見ればいゝ。獨逸語なれば Es ist selbstverständlich, daß.....と云ふ場合だが，この es に相當する不定代名詞はエス語にはない。主格のない文章の形容詞はエス語では副詞形をとる。この規則から komprenebla, ke.....でなく kompreneble, ke.....と e の語尾をとつてゐる。(2) あなたはお父さ

んがお好きですか。何と云ふお尋ねでせう！私が父を愛すると云ふことは分りきつたことです（＝無論，父は好きですよ）。

Mi kredeble ne povos veni al vi hodiaŭ, ĉar mi pensas, ke mi mem havos hodiaŭ gastojn.

〔註〕(1) kredi 信ずる。kredeble 信ずることの出來るやうに＝確かに，十中八九。pensi 考へる（佛 penser)。mem 自身（佛 même)。gasto 客（獨 Gast, 英 guest)。(2) 私の所へ今日お客がある樣に思はれますので今日は十中八九お訪ねすることは出來ますまい。(3) お客があるは gaston havi と云ふ。(4) 日本語で「何々がある」と云ふ場合にエス語では「何々をもつ」と云ふ場合が多い。例へば「牛には二本の角がある」をエス語では「牛は二本の角を持つ」Bovo havas du kornojn.「この机には曳出が二つある」は Tiu ĉi tablo havas du tirkestojn.「このテーブル掛にはしみがある」は La tablotuko havas makulojn.「あの男には嫌やな癖がある」は Li havas abomenan kutimon.

Li estas homo ne kredinda.

〔註〕(1) ind は「何々の價値ある」を意味する接尾語。kredi 信ずる。kredinda 信ずる價値のある。(2) あの男は信用するに足らない人間だ。(3) homo 人間。viro 男。

Via ago estas tre laŭdinda.

〔註〕(1) agi 行ふ（佛 agir)。laŭdi ほめる。laŭdinda ほめる價値がある。(2) 君の行は非常に賞讃せられる價値がある。

Tiu ĉi grava tago restos por mi ĉiam memorinda.

〔註〕(1) grava 大切な（佛 grave)。resti とゞまる（佛 rester)。por「とつては」。memori 記憶する（英 memorise)。memorinda 記憶する價値のある。(2) この大切な日は私にとつて何時までも記憶する價値のある日として殘る。

Lia edzino estas tre laborema kaj ŝparema, sed ŝi estas ankaŭ tre babilema kaj kriema.

〔註〕(1) labori 働く（英 labor)。em は性癖を表はす接尾語。laborema よく働く，勤勉な。ŝpari 儉約する（獨 sparen, 英 be sparing)。ŝparema よく儉約する。babili しやべる（佛 babiller)。babilema よくしやべる＝おし

やべりの。krii 叫ぶ (英 cry, 佛 crier)。kriema よく叫ぶ。(2) 彼の男の妻君は非常な勤勉家で儉約家だ。併しまた，非常なおしやべり屋でわめき屋だ。

Li estas tre ekkolerema kaj ekscitiĝas ofte ĉe la plej malgranda bagatelo; tamen li estas tre pardonema, li ne portas longe la koleron kaj li tute ne estas venĝema.

〔註〕(1) ek は瞬間的又は開始の意味を表はすに用ゐられる接尾語。koleri 怒る。ekkolori 怒り出す。ekkolerema 怒りつぽい。eksciti 昂奮さす (英 excite)。ekscitiĝi 昂奮する。ofte しばしば (英 often)。ĉe「で」「あたつて」(佛 chez。英の at, 獨の bei に相當する前置詞)。bagatelo つまらない事 (佛 bagatelle)。plej 最も (英の most に當る)。エス語では比較級は pli, 最上級は la plej を形容詞の前に置く。la plej malgranda bagatelo 最も小さい瑣事＝ホンのつまらないこと。tamen 併し (英の however, nevertheless 獨の doch, jedoch 等に當る)。pardoni 恕す (英 pardon)。pardonema よく恕す＝寛大な。la koleron longe porti 長く怒を持運ぶ＝長く怒つて居る。venĝi 復仇する (英 vengeance)。venĝema かたきを取りたがる。(2) 彼は非常に怒りつぽくてホンの詰らない事でよく昂奮する。併し彼は非常に寛容で長く怒つて居るやうな事もなく丸で仕返するなど云ふ考をもつて居ない。

Li estas tre kredema: eĉ la plej nekredeblajn aferojn, kiujn rakontas al li la plej nekredindaj homoj, li tuj kredas.

〔註〕(1) eĉ「さへ」「でも」。kredema 信じ易い。kredebla 信ずることの出來る。kredinda 信ずる價値のある。afero 事柄 (英 affair)。tuj すぐ。(2) 彼は人の云ふことを非常に信ずるたちで最も不信用の人間が彼に物語る最も信ずべからざる事柄でも彼はすぐ信じてしまふ。

Centimo, pfenigo kaj kopeko estas moneroj.

〔註〕(1) centimo センティーム。(centime フランスの貨幣)。pfenigo プェンニッヒ (Pfennig。ドイツの貨幣)。kopeko コペック (copeck ロシヤの貨幣)。ero は個々のものを表はす接尾語。mono 金。monero 貨幣。(2) centimo,

pfenigo, kopeko は貨幣である。

Sablero enfalis en mian okulon.

〔註〕(1) sablo 砂 (佛 sable)。sablero 砂の個々のもの＝砂粒。enfali 中へ這入る。okulo 眼 (英 oculist 眼科醫)。 (2) 砂粒が私の眼の中へ這入りました。

Li estas tre purema, kaj eĉ unu polveron vi ne trovos sur lia vesto.

〔註〕(1) pura 清潔な。purema 潔癖な。polvo 埃。polvero ごみ。 (2) 彼の人は非常な潔癖家です。それであなたは彼の人の着物にごみの一つも見出すことは出來ますまい。

Unu fajrero estas sufiĉa, por eksplodigi pulvon.

〔註〕(1) fajro 火 (英 fire)。fajrero 火の子。por 爲めに。eksplodi 爆發する (英 explode)。eksplodigi 爆發さす。pulvo 火藥 (獨 Pulver)。「何々する爲め」と云ふ時には por の次に不定法を置く。 (2) 一つの火の子は火藥を爆發さすに充分だ。

§29.

Ni ĉiuj kunvenis, por priparoli tre gravan aferon; sed ni ne povis atingi ian rezultaton, kaj ni disiris.

〔註〕(1) ĉiu 各々のもの。ĉiuj 總てのもの。kun「と」(前置詞)。veni 來る。kunveni 集合する。pri 就いて(前置詞)。priparoli 協議する。por の次には priparoli と不定法になつて居る。atingi 得る，達する (英 attain)。ia ある種の。rezultato 結果 (獨 Resultat, 英 result)。dis は分散を意味する接頭語。英語の disjoin (分離する), disperse (分散する) などの dis に相當する。iri 行く。disiri バラバラに行く＝解散する。 (2) 吾々總てのものは非常に重大な事件を協議する爲めに集まつたが併し何等の結果ももたらす事が出來ないで解散した。

Malfeliĉo ofte kunigas la homojn, kaj feliĉo ofte disigas ilin.

〔註〕(1) ofte しばしば，よく。kun「と共に」。kunigi 共にさす＝團結さ

す。dis 分散を表はす接頭語。disigi チリヂリにさす。(2) 不幸はよく人人を團結し幸福はよくこれ等の人々を離散する。

Mi disŝiris la leteron kaj disĵetis ĝian pecetojn en ĉiujn angulojn de la ĉambro.

〔註〕(1) ŝiri 引裂く (佛 déchirer)。disŝiri ズダズダに引裂く。ĵeti 投げる (英 interjection 間投詞)。disĵeti 投散らす。peco 片 (英 piece)。peceto 小片。angulo 隅 (英 angle)。(2) 私は手紙をズダズダに引裂きその小さい切れ々々を部屋の隅々へ投散らした。

Li donis al mi monon, sed mi ĝin tuj redonis al li.

〔註〕(1) doni 與へる (佛 donner)。re は「後へ」(獨の zurück) 又は「再び」(獨の wieder) を意味する接頭語。redoni 返す (獨の zurückgeben に當る)。(2) 彼は私に金を呉れましたが私はその金を直ぐ彼に返しました。

Mi foriras, sed atendu min, ĉar mi baldaŭ revenos.

〔註〕(1) for 遠ざかることを意味する副詞。英語の forth, 獨逸語の fort 又は weg に當る。foriri 行つてしまふ。veni 來る。reveni 戻つて來る (獨の zurückkommen に當る)。(2) 私は出掛けますが併し間もなく歸つて來ますから待つてゐてください。

La suno rebrilas en la klara akvo de la rivero.

〔註〕(1) suno 太陽 (英 sun)。brili 輝く。rebrili 反射する。(2) 太陽が川の澄んだ水に反射して居る。

Mi diris al la reĝo : via reĝa moŝto, pardonu min !

〔註〕(1) moŝto 尊稱,(陛下,閣下等にあたる)。reĝa moŝto 天皇陛下。(2)「陛下よ,おゆるしくださいませ」と私は王に申上げました。

El la tri leteroj unu estis adresita : al Lia Episkopa Moŝto, Sinjoro N.; la dua : al Lia Graía Moŝto, Sinjoro P.; la tria : la Lia Moŝto, Sinjoro D.

〔註〕(1) el 中で。adresi 宛名をかく (英 address)。estis adresita 宛名が書かれてあつた。al「へ」。episkopo 僧正 (佛 évêque, 英 bishop)。Lia Episkopa Moŝto 僧正猊下。英語で His majesty 獨逸語で Seine Majestät などゝ云ふと同じ流儀で Lia を使つたらしい。そして敬意を表する爲め

にいづれも花文字で書いてある。Lia Grafa Môsto 伯爵閣下。(2) この三通の手紙の中で一通には Al Lia Episkopa Moŝto, Sinjoro N. と宛名を書き第二の手紙には al Lia Grafa Moŝto, Sinjoro P. 第三の手紙には al Lia Moŝto, Sinjoro D. と宛名が書いてあつた。

La sufikso «um» ne havas difinitan signifon, kaj tial la (tre malmultajn) vortojn kun «um» oni devas lerni, kiel simplajn vortojn. Ekzemple: plenumi, kolumo, manumo.

〔註〕(1) sufikso 接尾語 (英 suffix)。difini 一定する (英 define)。difinita 一定せられた。signifo 意味 (英 signify)。tial これ故に。kiel として (獨の als に當る)。Tial la vortojn kun «um» oni devas lerni, kiel simplajn vortojn. これ故に um のついて居る語を吾々は單純な語として學ばなければならない。simpla vorto とは語根 (例へば plen) に um を加へた構成語でなく plenumi と云ふ單純な語として との意味。ekzemplo 例 (佛 exemple, 英 example)。ekzemple 例へば (ekzempl に e の語尾をつけ副詞にしたもの)。plena 十分な (佛 plein)。plenumi 充たす。kolo 頸。kolumo カラー。mano 手。manumo カウス。(2) um と云ふ接尾語は一定の意味を持つて居ない。それで um のついて居る語 (數は非常に少ない) は例へば plenumi (充す), kolumo (カラー), manumo (カウス) のやうに單純な語として覺えないといけない。

Mi volonte plenumis lian deziron.

〔註〕(1) volonte 進んで (英 voluntary)。deziro 願ひ (英 desire)。(2) 私は進んで彼の願をかなへてやつた。

En malbona vetero oni povas facile malvarmumi.

〔註〕facile 容易に (佛 facile)。varma 暖かい。malvarma 寒い。malvarmumi 風邪をひく。um は一定の意味は持つて居ないが語根の意味と何等かの關係をもつて居る。(2) 惡い天氣の時は風邪をひき易い。

§30.

La artikolo „la" estas uzata tiam, kiam ni parolas pri personoj aŭ objektoj konataj. Ĝia uzado

estas tia sama kiel en la aliaj lingvoj. La personoj, kiuj ne komprenas la uzadon de la artikolo (ekzemple rusoj aŭ poloj, kiuj ne scias alian lingvon krom sia propra), povas en la unua tempo tute ne uzi la artikolon, ĉar ĝi estas oportuna sed ne necesa. Anstataŭ „la" oni povas ankaŭ diri „l'" (sed nur post prepozicio, kiu finiĝas per vokalo).

〔註〕(1) artikolo 冠詞 (獨 Artikel。英佛 article)。estas uzata (用ゐられる)は uzas (用ゐる)又は estas uzanta (用ゐつゝある)の受働形。tiam, kiam こう々々する時 (kiam) その時に (tiam)。koni 知る (佛 connaitre, 英 know, 獨 kennen)。konata 知られて居る。uzado 使用。tia そのやうな(英の such, 獨の solch に當る)。tia sama kiel のやうに (kiel) そのやうに同じ (tia sama (uzado)) (＝於けると同じ(使用))。polo ポオランド人。scii 知る (英 know, 獨 wissen。英 science 知る (sci) こと (ence)＝科學)。rusoj, kiuj ne scias alian lingvon krom sia propra. 自分の (sia。主格 kiuj の物主代名詞だので ilia でなく再歸代名詞 sia) 固有の(國語) (sia propra (lingvo)。krom と云ふ前置詞があるので sian propran と第四格形はとらず第一格形 sia propra となつて居る) 以外 (krom。英の except, 獨の außer に當る前置詞)他の國語を知らない所の (kiuj は關係代名詞。英の who に當る)ロシヤ人。en la unua tempo はじめの中は。oportuna 便利な (英 opportune)。necesa 必要な (英 necessary)。nur 單に (獨 nur, 英 only)。fini 終へる (佛 finir)。finiĝi 終はる。vokalo 母音 (獨 Vokal)。(2) 冠詞 la は既知の人又は事物に就て話す際に使はれ，この使用(方法)は他の國語に於けると同樣である。冠詞の使用(方法)の分らない人(例へば自國語以外の外國語を知らないロシヤ人とかポーランド人のやうな)は初めの間は冠詞を全然使はなくともいゝ。元來冠詞は便利なものではあるが無くてはならないものではないから。la の代りに l' と云つてもいゝ。併しこれは母音で終つて居る前置詞の後に限る。

Vortoj kunmetitaj estas kreataj per simpla kunligado de vortoj; oni prenas ordinare la purajn radikojn, sed, se la bonsoneco aŭ la klareco postulas, oni

povas ankaŭ preni la tutan vorton, t.e. la radikon kune kun ĝia gramatika finiĝo. Ekzemploj : skribtablo aŭ skribotablo (= tablo, sur kiu oni skribas); internacia (= kiu estas inter diversaj nacioj); tutmonda (= de la tuta mondo) ; unutaga (= kiu daŭras unu tagon) ; unuataga (= kiu estas en la unua tago) ; vaporŝipo (= ŝipo, kiu sin movas per vaporo) ; matenmanĝi, tagmanĝi, vespermanĝi ; abonpago (= pago por la abono),

〔註〕 (1) kunmetita 一所に (kun) 置かれた (meti せられた)。 vorto kunmetita 組立語。 estas kreata (作られる)は kreas (作る)又は estas kreanta (作つて居る)の受働形。 ligi 結合する。 per simpla kunligado 單なる結合によつて。 pura 純粹の。 radiko 語根 (英 radix)。 la purajn radikojn 「純粹の語根を」とは「語尾を加へない語根だけを」の意。 se la bonsoneco aŭ la klareco postulas, 若し口調 (bona よい。 sono 音。 eco は性質を表はし獨逸語の heit, keit, schaft 等の語尾に當る。 bonsoneco 好音 = 口調)又は明瞭 (klara ハツキリした。 これに eco がついたもの)が要求する (postuli) 時には (se)。= 口調をよくする爲め又は文章の意味を明瞭にする爲め必要な場合には。 gramatiko 文法 (獨 Grammatik, 英 gramatic 文法上の)。 finiĝo 語尾。 nacio 國 (英 nation)。 kiu estas inter diversaj nacioj 色々の國の間にある所のもの (kiu)= 國際的の。 mondo 世界 (佛 monde)。 kiu daŭras unu tagon. 一日(時の繼續を表はすので unu tagon と第四格形をとつて居る)續く所のもの (kiu)。 movi 動かす (英 movement 運動)。 movi sin 自分を動かす = 動く。 aboni 豫約する (獨 abonnieren)。 pagi 支拂ふ (英 pay)。 (2) 組立語は單に語を結びつけることによつて作られる。(この際)通常語根だけを取るが併し口調(をよくし)又は(文章の意味を)明瞭にする必要のある場合には語の全體卽ちその語の語根と文法上の語尾を(合せ)取ることも出來る。例へばその上で skribi (書く) tablo (机)を skribtablo 又は skribotablo と云ひ色々の nacioj (國) の inter (間)にある所のものを internacia (國際的の)と云ひ unu tagon (一日)つゞくことを unutaga (一日の), en la unua tago (最初の日)にあることを unua-

taga (初日の), vaporo (蒸氣)で動く ŝipo (船)を vaporŝipo, その他 matenmanĝi (朝 (mateno) たべる (manĝi) = 朝飯をたべる), tagmanĝi (晝 (tago) たべる (manĝi) = 晝食する), vespermanĝi (晩 (vespero) たべる (manĝi)= 夕食をする)又は abono (豫約)の爲めの pago (拂込)を abonpago (豫約拂込)。

§31.

Ĉiuj prepozicioj per si mem postulas ĉiam nur la nominativon. Se ni iam post prepozicio uzas la akuzativon, la akuzativo tie dependas ne de la prepozicio, sed de aliaj kaŭzoj. Ekzemple: por esprimi direkton, ni aldonas al la vorto la finon „n"; sekve: tie (= en tiu loko), tien (= al tiu loko); tiel same ni ankaŭ diras, „la birdo flugis en la ĝardenon, sur la tablon," kaj la vortoj „ĝardenon," „tablon" staras tie ĉi en akuzativo ne ĉar la prepozicioj „en" kaj „sur" tion ĉi postulas, sed nur ĉar ni volis esprimi direkton, t.e. montri, ke la birdo sin ne trovis antaŭe en la ĝardeno aŭ sur la tablo kaj tie flugis, sed ke ĝi de alia loko flugis al la ĝardeno, al la tablo (ni volas montri, ke la ĝardeno kaj tablo ne estis la loko de la flugado, sed nur la celo de la flugado); en tiaj okazoj ni uzus la finiĝon „n" tute egale ĉu ia prepozicio starus aŭ ne.

〔註〕 (1) prepozicio 前置詞 (英 preposition)。 per si mem それ自身によつて = 前置詞として。「自分が前置詞である爲めに」の意味なれば pro si mem のやうに思はれるが pro はこゝで使つてない。「自分自身で」の意味なれば de si mem とあるべきだ。所が de を使はないで「何々を用ゐて」を表はす per の前置詞が使つてある。この per の使用は注意する價値がある。nominativo 第一格 (英 nominative)。iam 或時。akuzativo 第四格

(英 accusative)。La akuzativo tie dependas ne de la prepozicio。第四格はこの所では前置詞による (de....dependi 何々による)ものではない＝前置詞の爲めではない。dependi は de (から)と pendi (かゝる)から出來たものと考へることが出來る。英の depend, 獨の abhängen に當る。kaŭzo 原因 (英 cause)。esprimi 言現はす (佛 exprimer)。direkto 方向 (英 direct)。al「へ」。doni 與へる。aldoni 加へる。fino = finiĝo 語尾。sekvi 從ふ。sekve 從つて。tiel このやうに。same 同じやうに。en akuzativo stari 第四格に立つ＝第四格の形をとる。antaŭ 前 (前置詞)。antaŭe その前 (副詞)。celo 目的。okazo 場合 (英 occasion)。En tiaj okazoj ni uzus la finiĝon „n" tute egale ĉu ia prepozicio starus aŭ ne. このやうな (tia) 場合に吾々は或種の (ia) 前置詞があらう (starus は stari (立つてゐる) の條件法)があるまい (ne) が (ĉu 獨逸語の ob に當る)(そんな事には)全然平氣で (tute egale) n の語尾を使へばいゝ。こう云ふ場合獨逸語なら In solchen Fällen gebrauche man die Endung „n" ganz egal, ob irgendeine Präposition steht oder nicht. と云つて uzi は uzu (命令法)とし starus は staras (直接法)とする所だ。エス文でも En tiaj okazoj ni uzu la finiĝon „n" tute egale ĉu ia prepozicio staras aŭ ne. でもよささうだ。然るにこのエス文を見るといづれも條件法を使つてある。(2) 總ての前置詞は前置詞としては常に第一格だけを支配する。若し前置詞の次に第四格を置く場合はそこの第四格は前置詞の爲めではなく別の理由による。例へばエス語で方向を言現はす爲めには言葉に語尾 n を加へる。それで tie (こゝで), tien (こゝへ)。これと同様に又 la birdo flugis en la ĝardenon, sur la tablon. と云ふことがある。そして ĝardenon, tablon はこの所では第四格になつて居る。併しこれは前置詞の en と sur が第四格を要求する爲めではなく唯方向を言現はさんとした爲めで卽ち鳥はその前には庭の中にもテーブルの上にも居なく又そこに飛んでも居ないで他の場所から庭又はテーブルの方へ飛んで來たことを言現はしたい爲めである。(更に語をかへて云へば)庭もテーブルも鳥の飛んでゐる場所ではなくその飛行の目的(の場所)に過ぎない事を(之によつて)現はさうとして居る。こう云ふ場合には或る前置詞があらうが有るまいが，そんな事に全くかまわず n の語尾を使へばいゝ。

§32.

Se ni bezonas uzi prepozicion kaj la senco ne montras al ni, kian prepozicion uzi, tiam ni povas uzi la komunan prepozicion „je.“ Sed estas bone uzadi la vorton „je“ kiel eble pli malofte. Anstataŭ la vorto „je“ ni povas ankaŭ uzi akuzativon sen prepozicio. El la dirita regulo sekvas, ke se ni pri ia verbo ne scias, ĉu ĝi postulas post si la akuzativon (t.e. ĉu ĝi estas aktiva) aŭ ne, ni povas ĉiam uzi la akuzativon. Ekzemple, ni povas diri „obei al la patro“ kaj „obei la patron“ (anstataŭ „obei je la patro“). Sed ni ne uzas la akuzativon tiam, kiam la klareco de la senco tion ĉi malpermesas; ekzemple: ni povas diri „pardoni al la malamiko“ kaj „pardoni la malamikon,“ sed ni devas diri ĉiam „pardoni al la malamiko lian kulpon.“

〔註〕 (1) bezoni 要する (佛 besoin 必要)。senco 意味 (英 sense)。kia どの種の。Se la senco ne montras al ni, kian prepozicion uzi, 若し意味が吾々にどの種の前置詞を用ゆべきか (uzi) を示さない時には。この不定法 (uzi) の用ひ方は §25. にあつた Grandega hundo metis sur min sian antaŭan piedegon, kaj mi de teruro ne sciis, kion fari. の不定法 fari の場合と全然同じだ。komuna 共通の (佛 commun, 英 common)。Sed estas bone uzadi la vorton „je“ kiel eble pli malofte. 併し je と云ふ言葉をなるべく (kiel eble) より多く稀に (pli malofte) 使ふのが (uzadi) (＝なるべく使はないのが) いゝ (bone)。この文章の主格は動詞の不定法 uzadi と見ることが出來るのでこの意味を限定する bon は副詞形 bone になつてゐる。El la dirita regulo sekvas, ke・・・・この云はれた (dirita) 規則 (regulo。獨 Regel。英 regular 規則的の) から (el) これ々々のことが (ke・・・・) 結果する ＝ 上記の規則から次のことを云ふことが出來る。verbo 動詞 (英 verb)。permesi 許す (英 permit)。malpermesi 禁ずる。kulpo 罪。
(2) 前置詞を使ふ必要があつて，しかも，その意味の上からどの前置詞を

使ふ可きか分らない時には je と云ふ共通の前置詞を使つて差閊がない。併し je と云ふ言葉はなるべく多く使はない方がいゝ。又この je と云ふ語の代りに前置詞をつけない第四格を用ゐてもいゝ。この規則から次のことを云ふことが出來る。若し或る動詞に就てその動詞がその後に第四格を要求する(卽ち他動詞である)かどうか分らない時にはいつでも第四格形を使つてよろしい。例へば obei je la patro の代りに obei al la patro と云つても obei la patron と云つてもいゝ。併し意味の明瞭がこれを禁ずる時には(＝併し第四格を使つて意味が不明瞭になる場合には)第四格形は使はない。例へば pardoni al la malamiko とも pardoni la malamikon とも云ふことは出來るが pardoni la malamikon lian kulpon とは云はないで必ず pardoni al la malamiko lian kulpon と云はないといけない。

§33.

Ia, ial, iam, ie, iel, ies, io, iom, iu.— La montritajn naŭ vortojn ni konsilas bone ellerni, ĉar el ili ĉiu povas jam fari al si grandan serion da aliaj pronomoj kaj adverboj. Se ni aldonas al ili la literon „ k,“ ni ricevas vortojn demandajn aŭ rilatajn: kia, kial, kiam, kie, kiel, kies, kio, kiom, kiu. Se ni aldonas la literon „ t,“ ni ricevas vortojn montrajn: tia, tial, tiam, tie, tiel, ties, tio, tiom, tiu. Aldonante la literon „ ĉ,“ ni ricevas vortojn komunajn: ĉia, ĉial, ĉiam, ĉie, ĉiel, ĉies, ĉio, ĉiom, ĉiu. Aldonante la prefikson „ nen,“ ni ricevas vortojn neajn: nenia, nenial, neniam, nenie, neniel, nenies, nenio, neniom, neniu.

〔註〕 (1) a は種類, al は理由, am' は時, e は場所, el は方法, es は所有, o は物, om は分量, u は人又は物を意味し i は不定の意味をもつてゐる。この事は旣に一度說明した。ia 或種の。ial 或わけで。iam 或時。ie 或る所で。iel ある方法で。ies ある人(又は物)の。io 或物。iom 或る分量。iu 或る人(又は物)。La montritajn naŭ vortojn ni konsilas bone ellerni。吾々はこの示された (montri せられた)九の言葉をよく (bone。

ellerni の意味を限定するので副詞)覺え込むことを (ellerni) おすゝめする (konsilas)。ĉar el ili ĉiu povas jam fari al si grandan serion da aliaj pronomoj kaj adverboj。各々の人はこれ等から (el) もう (jam) 自分に (al si) 他の代名詞と副詞の大きなシリーズを作ることが出來るから＝この九の語さへ覺えれば之れからもう澤山の他の代名詞と副詞を作ることが出來るから。adverbo 副詞 (英 adverb)。litero 字母 (英 literal 文字の)。ricevi 受取る，得る (英 receive)。rilato 關係 (英 relation)。prefikso 接頭語 (英 prefix)。(2) ia, ial, iam, ie, iel, ies, io, iom, iu. この九の語をよく覺込まれんことをおすゝめする。この語さへ知つて居れば澤山の他の代名詞と副詞を自分で作ることが出來る。これ等の語に k と云ふ字母を加へると kia, kial, kiam, kie, kiel, kies, kio, kiom, kiu のやうな疑問或は關係詞が出來，t を加へれば tia, tial, tiam, tie, tiel, ties, tio, tiom, tiu の指示を表はす語が出來，ĉ の字母を加へると ĉia, ĉial, ĉiam, ĉie, ĉiel, ĉies, ĉio, ĉiom, ĉiu の一般を現はす語が出來，nen と云ふ接頭語を加へると nenia, nenial, neniam, nenie, neniel, nenies, nenio, neniom, neniu の否定詞を作ることが出來る。

Aldonante al la vortoj montraj la vorton „ ĉi," ni ricevas montran pli proksiman; ekzemple: tiu (pli malproksima), tiu ĉi (aŭ ĉi tiu) (pli proksima); tie (malproksime), tie ĉi aŭ ĉi tie (proksime). Aldonante al la demandaj la vorton „ ajn," ni ricevas vortojn sendiferencajn: kia ajn, kial ajn, kiam ajn, kie ajn, kiel ajn, kies ajn, kio ajn, kiom ajn, kiu ajn. Ekster tio el la diritaj vortoj ni povas ankoraŭ fari aliajn vortojn, per helpo de gramatikaj finiĝoj kaj aliaj vortoj (sufiksoj); ekzemple: tiama, ĉiama, kioma, tiea, ĉi-tiea, tieulo, tiamulo k.t.p. (= kaj tiel plu)

〔註〕 (1) proksima 近い (英 proximate)。ajn「でも」。diferenco 差違 (英 difference)。sen ない。sendiferenca 無差別の。kia ajn どんなものでも。kial ajn どんなわけでも。kiam ajn いつでも。kie ajn どこでも。kiel ajn どんな方法でも。kies ajn だれ(どれ)のでも。kio ajn 何でも。kiom ajn

いくらでも。kiu ajn だれ(何)でも。ekster は內外の「外」, krom はこれこれ以外の「外」を表はし前者は獨逸語の außerhalb, 後者は außer の前置詞に當る場合が多い。併しこの所では ekster と krom を全く同樣に使つてある。ekster tio = krom tio この他。tiam その時。tiama その時の。ĉiam いつも。ĉiama 總ての時の。kiom いくら。kioma いくらかの。tie そこ。tiea そこの。ĉi tie こゝ。ĉi-tiea こゝの。tieulo そこの人。tiamulo その時代の人。kaj tiel plu 英の and so forth, 獨の und so weiter に當る。(2) 指示を表はす語に ĉi と云ふ語を加へるとより近くを指示する語が出來る。例へば tiu (より遠い。「その人」「その物」) tiu ĉi (或は ĉi tiu) (より近い。「この人」「この物」)。tie (遠く。「そこ」) tie ĉi 或は ĉi tie (近く。「ここ」)。疑問を表はす語に ajn と云ふ語をつけると kia ajn, kial ajn, kiam ajn, kie ajn, kiel ajn, kies ajn, kio ajn, kiom ajn, kiu ajn のやうな無差別を表はす語が出來る。この他，文法上の語尾とその他の語(接尾語)の助をかりて前の語から tiama, ĉiama, kioma, tiea, ĉi-tiea, tieulo, tiamulo 等のやうな違つた語を作ることも出來る。

§34.

La feino

Unu vidvino havis du filinojn. La pli maljuna estis tiel sama al la patrino per sia karaktero kaj vizaĝo, ke ĉiu, kiu ŝin vidis, povis pensi, ke li vidas la patrinon ; ili ambaŭ estis tiel malagrablaj kaj tiel fieraj, ke oni ne povis vivi kun ili. La pli juna filino, kiu estis la plena portreto de sia patro laŭ sia boneco kaj honesteco, estis krom tio unu el la plej belaj knabinoj, kiujn oni povis trovi.

〔註〕 (1) feo 魔 (獨 Fee, 英 fairy)。feino 魔女。vidvo やもめ (英 widower)。filo 息子。la pli maljuna filino より年とつた娘 (＝年上の娘)。tiel ···, ke 英の so····, that 獨の so····, daß に相當する。simila 似てゐる (英 similar)。karaktero 性格 (英 character)。vizaĝo 顏 (佛 visage)。per sia karaktero kaj visaĝo その性格と顏とで。sia は karaktero と vizaĝo

の雙方へ掛つて居るので本來ならば siaj karaktero kaj vizaĝo とすべき所だが karaktero が抽象名詞の爲め siaj とせずに單數形 sia となつて居る。ambaŭ 雙方 (英語の both, 獨逸語の beide に當る副詞)。agrabla 氣持がいゝ (英 agreeable)。fiera 傲慢な (佛 fier)。la pli juna filino 年下の娘。plena 全き。充分な (佛 plein)。portreto 肖像 (英 portrait)。la plena portreto de sia patro その父の全き肖像＝父親丸寫し＝父親そのまゝ。laŭ よつて (英の according to, 獨の nach, gemäß に當る前置詞)。bona よい。boneco 善良。honesta 正直な。honesteco 正直さ。unu el la plej belaj knabinoj, kiujn oni povis trovi. 世人が見出すことの出來た最も美しい少女の中の一人。(2) 一人の後家さんに二人の娘があつた。年上の娘はその性質と顔貌がお母さんそつくりでこの娘を見た人は誰れでもその娘をお母さんと思ふほどだつた。この二人の親子は人づきが惡るくそれに傲慢ちきで誰れもこの二人と一所にはトテも住んで居られなかつた位であつた。年下の娘は人よしで正直のところが父親そのまゝで，それに世の中で見出すことの出來た最も美しい少女の中の一人であつた。

Ĉar ĉiu amas ordinare personon, kiu estas simila al li, tial tiu ĉi patrino varmege amis sian pli maljunan filinon, kaj en tiu sama tempo ŝi havis teruran malamon kontraŭ la pli juna. Ŝi devigis ŝin manĝi en la kuirejo kaj laboradi senĉese. Inter aliaj aferoj tiu ĉi malfeliĉa infano devis du fojojn en ĉiu tago iri ĉerpi akvon en tre malproksima loko kaj alporti domen plenan grandan kruĉon.

〔註〕 (1) amo 愛。malamo 嫌惡。devi ればならない。devigi よぎなくする。ĉesi やめる (佛 cesser, 英 cease)。senĉese やめずに。inter 中で (英 international 國際の)。afero 事件，仕事 (英 affair)。inter aliaj aferoj 他の色々な仕事の中で。ĉerpi 汲む。Tiu ĉi malfeliĉa infano devis du fojojn en ĉiu tago iri ĉerpi akvon en tre malproksima loko. この不幸な小供は毎日二度(回數を表はすには du fojojn のやうに第四格を用ゐる)非常に遠い所で (en tre malproksima loko) 水を汲む爲めに行かないといけなかつた。domo 家。dome 家で。domen 家へ。kruĉo 水甕 (獨 Krug, 佛

cruche)。(2) 自分に似てゐるものを愛するのは人情なのでこの母親もその年上の娘を非常に可愛がり同時に年下の娘を恐ろしく憎んだ。そしてこの年下の娘には臺所で食事をさせそして續けざまに仕事をさせた。色々な仕事の中でこの不幸な小供は毎日二度大變遠い所へ水を汲みに行き水の一杯這入つて居る大きな水甕を自分の家へ運んで來ないといけなかつた。

En unu tago, kiam ŝi estis apud tiu fonto, venis al ŝi malriĉa virino, kiu petis ŝin, ke ŝi donu al ŝi trinki. "Tre volonte, mia bona," diris la bela knabino. Kaj ŝi tuj lavis sian kruĉon kaj ĉerpis akvon en la plej pura loko de la fonto kaj alportis al la virino, ĉiam subtenante la kruĉon, por ke la virino povu trinki pli oportune. Kiam la bona virino trankviligis sian soifon, ŝi diris al la knabino "Vi estas tiel bela, tiel bona kaj tiel honesta, ke mi devas fari al vi donacon" (ĉar tio ĉi estis feino, kiu prenis sur sin la formon de malriĉa vilaĝa virino, por vidi, kiel granda estos la ĝentileco de tiu ĉi juna knabino). "Mi faras al vi donacon," daŭrigis la feino, "ke ĉe ĉiu vorto, kiun vi diros, el via buŝo eliros aŭ floro aŭ multekosta ŝtono."

〔註〕 (1) fonto 泉 (英 fountain)。Virino petis ŝin, ke ŝi donu al ŝi trinki. 女は娘が (ŝi) 彼女 (ŝi = virino) に飲むべく (trinki) 與へん (donu は doni の命令法) ことを (ke) 娘に (ŝin) 願つた = 癈女は娘に向つて娘が自分に對し飲む爲めに(水を)與へんことを願つた。命令法は命令の他に希望, 依賴, 慫慂等を現はすことは旣に說明した。donu の命令法になつてゐるのは peti のある爲め。volonte よろこんで (英 voluntary)。mia bona の次には sinjorino の略してあるものと見ればいゝ。subteni 支へる。por ke の次に來る動詞は必ず命令形。この規則から por ke la virino povu trinki となつてゐる。oportune 具合よく (英 opportunely)。副詞の比較級も形容詞の時と同樣 pli で現はす。pli oportune より具合よく。trankvila 靜かな。trankviligi 靜かにする = 靜める。soifo 渴 (佛 soif)。sian soifon

trankviligi 自分の渇を靜める(醫する)。donaco 贈物。feino, kiu prenis sur sin la formon de malriĉa vilaĝa virino, por vidi, kiel granda estos la ĝentileco de tiu ĉi juna knabino. この若い女の子の親切さが如何に (kiel 英語の how に當る)大きいのかを (kiel) 見る爲めに (por vidi) 貧しい村の女の形を自分の上に取つた(＝貧しい村の女に化けた)所の (kiu は feino の關係代名詞)魔女。daŭri つゞく。daŭrigi つゞかす＝つゞける(＝話をつゞける)。ĉe ĉiu vorto, kiun vi diros 各々の言葉その言葉を (kiun は vorto の關係代名詞)お前が云ふ所の各々の言葉の際に (ĉe)＝これからお前の話す一言毎に。el「から」。eliri 出て行く (獨の hinausgehen に當る)。en「へ」。eniri 這入る (獨の hineingehen に當る)。elirejo 出口。enirejo 入口。aŭ....aŭ 或は....或は (獨の entweder....oder に當る)。kosta 値のある。multe は kosta (形容詞)の意味を限定するので副詞，それで multekosta となつて居る。(2) 或る日のこと娘がその泉の傍に居た時に貧しい女が娘のところへ來て水を飲まして吳れと願つた。『サアサお安いことで』とこの美しい娘は云つて直ぐ自分の水甕を洗ひ泉の一等綺麗な所の水を汲みとりその女の所へ持つて行き，その水甕を手に持あげて水の飲みよいやうにしてやつて居た。この人のよい女が喉の乾きを醫した時にこの娘に云ふのには『お前さんはホントに美しくそれに心立もよく正直な子だ。私はお前さんに贈物をせないでは居られない』(何故こんなことを云つたかと云ふに，これはこの若い娘がどれ程親切だかを見やうと思つて貧しい村の女の姿に化けて來た魔女であつたからだ)『私はお前さんがこれから一言云へばその一言ごとに花かそれとも非常に値のある寶石がお前さんの口から出て來るやうな贈物をしやう』と云つた。

Kiam tiu ĉi bela knabino venis domen, ŝia patrino insultis ŝin, kial ŝi revenis tiel malfrue de la fonto. "Pardonu al mi, patrino," diris la malfeliĉa knabino, "ke mi restis tiel longe." Kaj kiam ŝi parolis tiujn ĉi vortojn, elsaltis el ŝia buŝo tri rozoj, tri perloj kaj tri grandaj diamantoj. "Kion mi vidas!" diris ŝia patrino kun grandega miro. "Ŝajnas al mi, ke el ŝia buŝo elsaltas perloj kaj diamantoj! De kio tio

ĉi venas, mia filino?" (Tio ĉi estas la unua fojo, ke ŝi nomis ŝin sia filino). La malfeliĉa infano rakontis al ŝi naive ĉion, kio okazis al ŝi, kaj, dum ŝi parolis, elfalis el ŝia buŝo multego da diamantoj. "Se estas tiel," diris la patrino, mi devas tien sendi mian filinon. Marinjo, rigardu, kio eliras el la buŝo de via fratino, kiam ŝi parolas; ĉu ne estus al vi agrable havi tian saman kapablon? Vi devas nur iri al la fonto ĉerpi akvon; kaj kiam malriĉa virino petos de vi trinki, vi donos ĝin al ŝi ĝentile."

［註］ (1) domo 家。dome 家で，家の中。これに方向を示す n の語尾を加へて domen とすれば「家へ」。dome は獨の zuhaus, domen は nachhaus に當る。insulti 非難する (英 insult)。kial「なぜ」。reveni 歸つて來る。Pardonu al mi.＝Pardonu min. tiel こんなに。resti とゞまる。salti 跳ねる。elsalti とび出る。perlo 眞珠 (獨 perle。英 pearl)。Kion mi vidas! 「何を私は見るだらう」ビツクリして自分の眼を疑つて云ふ言葉。Ŝajnas al mi, ke....。かく〳〵のことが私に思はれる＝私にはかく〳〵のやうに思はれる。De kio tio ĉi venas? これは何から來るのか＝一體これはどうしたわけだ? Tio ĉi estas la unua fojo, ke ŝi nomis ŝin sia filino. 彼女が (ŝi) 娘を (ŝin) 自分の娘と (sia filino) 呼んだことは (ke) これが (tio ĉi) はじめてだ。multo 多く。multego 非常に多く。se estas tiel, この文章には英の it, 獨の es のやうな不定代名詞に當る主格が略されてある「若しこう云ふことなら」。tie そこ。tien そこへ。Marinjo, rigardu, kio eliras el la buŝo de via fratino. マーちやん (Mario に njo の加はつたもの)妹の口から何が出るかをご覽! Ĉu ne estus al vi agrable havi tian saman kapablon? こんな (tia) 同じ力を持つのは (havi 不定法) お前にとつて愉快では (agrable) ないだらう (ne estus) か (ĉu)。この文章の主格は havi (tian saman kapablon) である。この主格 havi (動詞)の意味を限定する品詞は副詞である。agrable (副詞) となつて agrabla (形容詞) となつて居ないのはこの爲めである。Vi devas nur iri al la fonto ĉerpi akvon. お前は水を汲みにあの泉の所へ何はともかく (nur) 行かないといけない。

Kiam malriĉa virino petos de vi trinki, vi donos ĝin al ŝi ĝentile. 貧しい女がお前から飲むべく願つた時はお前はその女に親切にそれを(ĝin)與へるのだ。こゝの ĝi は trinki の代名詞になつて居る。それで vi donos ĝin al ŝi ĝentile = vi donos trinki al ŝi ĝentile。(2) この美しい娘が家へ歸つて來た時に，その母親はこんなに遲く泉からなぜ歸つて來たのかと娘をどなりつけた。するとこの不幸な娘は Pardonu al mi, patrino, ke mi restis tiel longe. (こんなに長く居ましたの(は惡うございました)お母さん，ごめんください)娘がこう云ひますと薔薇が三つ眞珠が三つ大きなダイヤが三つその娘の口から飛び出しました。すると母親は『オヤこの子の口から眞珠とダイヤが飛び出してるやうだ。娘よ，一體これはどうしたわけだ』と非常にびつくりして云つた。(この母親がこの子を「娘」と呼んだことはこれが始めてだ)。この不幸な娘は自分に起つたことを皆んな有のまゝ母親に話して聞かせた。そして娘が話して居る間非常に澤山のダイヤがその口から飛び出した。そこで母親が云ふのには『こう云ふとだと私の姉娘をそこへやらずには置かれない。マーちやん御覽! 妹の話をする時にその口から出て來るものを。お前こんな妹のやうな力が持てればうれしいのではないのか。お前は水汲みにあの泉へ行きさへすればいゝ。そして貧しい女が水を飲ませよと云つたら親切に水を飲ましてやるのだよ』

"Estus tre bele," respondis la filino malĝentile, "ke mi iru al la fonto!"—"Mi volas ke vi tien iru," diris la patrino, "kaj iru tuj!" La filino iris, sed ĉiam murmurante. Ŝi prenis la plej belan arĝentan vazon, kiu estis en la loĝejo. Apenaŭ ŝi venis al la fonto, ŝi vidis unu sinjorinon, tre riĉe vestitan, kiu eliris el la arbaro kaj petis de ŝi trinki (tio ĉi estis tiu sama feino, kiu prenis sur sin la formon kaj la vestojn de princino, por vidi, kiel granda estos la malboneco de tiu ĉi knabino). "Ĉu mi venis tien ĉi," diris al ŝi la malĝentila kaj fiera knabino, "por doni al vi trinki? certe, mi alportis arĝentan vazon speciale por tio, por doni trinki al

tiu ĉi sinjorino! Mia opinio estas: prenu mem akvon, se vi volas trinki," — "Vi tute ne estas ĝentila," diris la feino sen kolero. "Bone, ĉar vi estas tiel servema, mi faras al vi donacon, ke ĉe ĉiu vorto, kiun vi parolos, eliris el via buŝo aŭ serpento aŭ rano."

〔註〕 (1) Estus tre bele, ke mi iru al la fonto. 私が泉へ行かないといけないと云ふ事は非常にいゝことでせう。これは獨逸語の Es wäre sehr schön, daß….に當る。es に當る不定代名詞の主格がないので bela とせず副詞形 bele になつて居る。estus tre bele はこの所では無論反語でせう。Mi volas ke vi tien iru. 私はお前があすこへ行くことを欲する。この文章には ke の前に , がない。iru とあるは volas と云ふ動詞のある爲め。murmuri ブスゝ云ふ (英 murmur)。apenaŭ 何々するや否や。vesto 着物。vesti 着せる。vestita 着せられた。arbo 樹。arbaro 林。princo 皇子 (英 prince)。certe いかにも。speciale 特に (英 specifically)。por tio, por doni trinki al tiu ĉi sinjorino. この爲め卽ちこの女の方に飲ましてやる爲めに。opinio 意見 (英 opinion)。mem 自身に。sen kolero 怒ることなしに。bone よろしい。servi 仕へる。servema よく仕へる。serpento 蛇 (英 serpent)。rano 蟇 (英 rana) (2)『泉へ行けつて本統に結構なことでせう』と娘は無作法に答へた。『是非, お出で, 直ぐ子』と母親に云はれ娘は行くにはいつたが絶えずブスゝ云つて居た。娘は家の中にある一等美しい銀の花瓶を取出し泉の所に着くか着かないかに早や非常に立派に着飾つた一人の淑女の姿が目にいつた。この淑女はその林から出て來てこの娘に水を求めた。(これは, この娘がどれほど心が惡いのかを見る爲に皇女の姿に化け皇女の着物をつけた前と同じ魔女であつた)。 するとこの無作法な傲慢ちきな女の子の云ふのには『私はあなたに水を上げにこゝへ來たのでせうか。如何にも私はこの人に水をやる爲めに特に銀の花瓶を持つて來るには來た。私の思ふ所を云ふとこうです。あなたが飲みたければ自分で水をお汲みなさい』この時魔女は腹を立てずにこう云つた。『お前さんは本統に親切氣のない人だ。よろしい。お前さんがそんなに人の爲めに盡されるからお前さんの一言ごとに口から蛇と蟇が出るやうな贈物をお前さ

んに差上げやう」。

Apenaŭ ŝia patrino ŝin rimarkis, ŝi kriis al ŝi: «Nu, mia filino?» — «Jes, patrino», respondis al ŝi la malĝentilulino, elĵetante unu serpenton kaj unu ranon.— «Ho, ĉielo!» ekkriis la patrino, «kion mi vidas? Ŝia fratino en ĉio estas kulpa; mi pagos al ŝi por tio ĉi!» Kaj ŝi tuj kuris bati ŝin. La malfeliĉa infano forkuris kaj kaŝis sin en la plej proksima arbaro. La filo de la reĝo, kiu revenis de ĉaso, ŝin renkontis; kaj, vidante, ke ŝi estas tiel bela, li demandis ŝin, kion ŝi faras tie ĉi tute sola kaj pro kio ŝi ploras.— «Ho ve, sinjoro, mia patrino forpelis min el la domo».

〔註〕 (1) rimarki 注視する (英 remark)。nu オヽ (佛の eh bien, 英の well, 獨の na, nun 等に當る間投詞)。ĝentila 親切な，叮嚀な。malĝentila 無作法な。malĝentilulo 無作法な男。malĝentilulino 無雜法な女。elĵeti 投げ出す。ho オヤ。驚きを表はす間投詞。ĉielo 天。Ho, ĉielo! は Ho, ĉielo gardu min! (オヤ，天よ我を守れ)の略と見ればいゝ。Ho, ĉielo! の代りに Ho, Dio! 又は Ho, Dio gardu min! と云つても同じだ。krii 叫ぶ。ekkrii 叫び出す。Ŝia fratino en ĉio estas kulpa; mi pagos al ŝi por tio ĉi! この娘の妹が總ての點に (en ĉio) 責任がある。私はこのことに對してあの妹に代價を拂つてやる = これは皆んな妹娘のせいだ。この仕返しをあの娘にしてやる。Ŝi kuris bati ŝin. 母親は妹娘を打ちに走つて行つた。forkuri 走り去る。kaŝi 隱す (佛 cacher)。kaŝi sin 自分を隱す = 隱くれる。ĉaso 獵 (佛 chasse)。vidante, ke ŝi estas tiel bela. 彼女がそんなに美しいのを見ながら。この文章の動詞は過去の estis である可きだが estas の現在形が使はれてゐる。過去の事實を讀者の眼前に躍如せしめんとする場合に過去形をさけ現在形を用ゐることはエス語に限らず日本語その他英佛獨の諸國語でもよく見る記述法で普通，歷史現在と云はれてゐる修辭上の一形式である。plori 泣く (佛 pleurer)。ve 悲しみを表はす間投詞。獨の wehe に當る。(2) 姉を見るや否や母親は「オヽ娘だつたか」と聲

をかけた。Jes, patrino (ハイおつかさん) とこの無作法な娘は一匹の蛇と一匹の蟇を口から出し乍ら返事をしました。すると母親は『オヤ大變だ。とんでもない事になつた。これは皆んな妹のせいだ。仕返せずには置かない』とわめいて直ぐ妹を打擲しに走つて行つた。不幸な小供はにげて行つて直ぐ最寄の林の中へ身を隱した。獵から歸つて來た皇子がこの娘に出逢ひこの娘が非常に美しいのを見てこゝで獨りで何をして居るのか又，どうしたわけで泣いて居るのかと尋ねた。すると『アヽ，あなたさま。私は母に家から追出されましたのでございます』と娘は答へた。

La reĝido, kiu vidis, ke el ŝia buŝo eliris kelke da perloj kaj kelke da diamantoj, petis ŝin, ke ŝi diru al li, de kie tio ĉi venas. Ŝi rakontis al li sian tutan aventuron. La reĝido konsideris, ke tia kapablo havas pli grandan indon, ol ĉio, kion oni povus doni dote al alia fraŭlino, forkondukis ŝin al la palaco de sia patro, la reĝo, kie li edziĝis je ŝi. Sed pri ŝia fratino ni povas diri, ke ŝi fariĝis tiel malaminda, ke ŝia propra patrino ŝin forpetis de si; kaj la malfeliĉa knabino, multe kurinte kaj trovinte neniun, kiu volus ŝin akcepti, baldaŭ mortis en angulo de arbaro.

〔註〕 (1) La reĝido petis ŝin, ke ŝi diru al li, de kie tio ĉi venas. 皇子はどう云ふ理由でこう云ふ事になつたのかを彼に云ふやうにと娘に願つた。paĝo 121 (cent-dudek-unua と順序數にして讀む)の終に De kio tio ĉi venas, mia filino? とあつた所を見ると，こゝの de kie は de kio としても差閊ない筈だ。De kie tio ĉi venas? は獨逸語の Woher kommt das? (一體どうしたわけだ)の woher (どこから)に相當する。peti の爲めに diru と命令法になつて居る。この文章でも de kio tio ĉi venis. となく venas とおるところにご注意。aventuro 事變 (佛 aventure, 英 adventure)。konsideri 考察した (英 consider)。indo 價値。doto 持參金 (英 dot)。dote 持參金として。kie li edziĝis je ŝi こゝで彼は彼女と (je) 結婚した。edzo 夫。edziĝi 夫になる。edzino 妻。edziniĝi 妻になる。la reĝo は sia patro の同格

(apposition)。Sed pri ŝia fratino ni povas diri, ke ŝi fariĝis tiel malaminda, ke ŝia propra patrino ŝin forpelis de si. 併し彼女の姉に就ては彼女自身の母親がその姉娘を自分の所から追出した程も (tiel, ke····) 姉娘はそんなに惡く々々しく (malaminda) なつたと云ふことを (ke) 吾々は云ふことが出來る。Ni povas diri, ke····; kaj la malfeliĉa knabino, multe kurinte kaj trovinte neniun, kiu volus ŝin akcepti, baldaŭ mortis en angulo de arbaro. そしてこの不幸な娘は大層驅つてそして彼女を受取 (akcepti 家へ引とる)らうとする何人をも見出さなくつて間もなく森の一隅で死んだと云ふことを (ke) 云ふことが出來る。 (2) この娘の口からいくつかの眞珠とダイヤが出て來たのを見た皇子はどうした理由でこんな事があるか聞かして吳れよと賴んだ。そこで娘は今までの恐しい來歷を皆んな皇子に話してしまつた。すると皇子は他の娘に持參金として世の人が與へることの出來る總てのものよりも娘のもつてゐるやうな力は遙かに大きな價値があると考へ自分の父である王樣の宮殿に娘をつれて行き，そこでこの娘と結婚した。併しこの娘の姉に就ては次のやうなことを物語ることが出來る。あの姉娘はにくゝ々しくなり自分の母親にさへ追出され隨分驅廻つて見たが誰れも面倒みて吳れやうと云ふ人にもぶつからず間もなく森の一隅で死んでしまつた。

§35.

Plena gramatiko de Esperanto

A. Alfabeto

Aa, Bb, Cc, Ĉĉ, Dd, Ee, Ff, Gg, Ĝĝ, Hh, Ĥĥ, Ii, Jj, Ĵĵ, Kk, Ll, Mm, Nn, Oo, Pp, Rr, Ss, Ŝŝ, Tt, Uu, Uŭ, Vv, Zz.

Rimarko. Presejoj, kiuj ne posedas la literojn ĉ, ĝ, ĥ, ĵ, ŝ, ŭ, povas anstataŭ ili uzi ch, gh, hh, jh, sh, u.

〔譯〕 エスペラント全文法。

A. 字母。

備考。ĉ, ĝ, ĥ, ĵ, ŝ, ŭ の活字のない印刷所はこの代りに ch, gh, hh, jh, sh, u を代用しても差間ない。

Aa, Bb, Cc, Ĉĉ, Dd, Ee, Ff,
Gg, Ĝĝ, Hh, Ĥĥ, Ii, Jj, Ĵĵ,
Kk, Ll, Mm, Nn, Oo, Pp, Rr,
Ss, Ŝŝ, Tt, Uu, Ŭŭ, Vv, Zz

B. Reguloj

1) Artikolo nedifinita ne ekzistas; ekzistas nur artikolo difinita *la*, egala por ĉiuj seksoj, kazoj kaj nombroj.

Rimarko. La uzado de la artikolo estas tia sama, kiel en la aliaj lingvoj. La personoj, por kiuj la uzado de la artikolo prezentas malfacilaĵon, povas en la unua tempo tute ĝin ne uzi.

B. 規則。

一 不定冠詞はない。たゞ總ての性數格に對し一樣な定冠詞 la があるだけだ。

備考。冠詞の使用は他の國語に於けると同樣である。冠詞の使ひ方に困る人は初めの中は全然冠詞を使はなくともいゝ。

2) La substantivoj havas la finiĝon *o*. Por la formado de la multenombro oni aldonas la finiĝon *j*. Kazoj ekzistas nur du: nominativo kaj akuzativo; la lasta estas ricevata el la nominativo per la aldono de la finiĝo *n*. La ceteraj kazoj estas esprimataj per helpo de prepozicio (la genitivo per *de*, la dativo per *al*, la ablativo per *per* aŭ aliaj prepozicioj laŭ la senco).

二 名詞は o の語尾に終り複數は j の語尾を加へて作る。格は第一格と第四格の二格しかなく第四格は第一格に n の語尾を加へて作る。この

他の格は前置詞によつて現はす(第二格は de, 第三格は al, 奪格は意味により per 或は他の前置詞を使ふ)。

3) La adjektivo finiĝas per *a*. Kazoj kaj nombroj kiel ĉe la substantivo. La komparativo estas farata per la vorto *pli*, la superlativo per *plej*; ĉe la komparativo oni uzas la konjunkcion *ol*.

三 形容詞は a の語尾で終る。格と數は名詞の場合と同樣。比較級は pli, 最上級は plej で表はし比較級の場合には接續詞 ol を使ふ。

4) La numeraloj fundamentaj (ne estas deklinaciataj) estas: *unu, du, tri, kvar, kvin, ses, sep, ok, naŭ, dek, cent, mil*. La dekoj kaj centoj estas formataj per simpla kunigo de la numeraloj. Por la signado de numeraloj ordaj oni aldonas la finiĝon de la adjektivo; por la multoblaj — la sufikson *obl*, por la nombronaj — *on*, por la kolektaj — *op*, por la disdividaj — la vorton *po*. Krom tio povas esti uzataj numeraloj substantivaj kaj adverbaj.

四 原數は unu, du, tri, kvar, kvin, ses, sep, ok, naŭ, dek, cent, mil で變化しない。十位と百位は單に數字を寄合せて作る。順序數を表はすには形容詞の語尾を加へ倍數を表はすには接尾語 obl, 分數を表はすには on, 集合數は op, 分割數は po を加へて表はす。この他，數詞は名詞的又は副詞的に用ゐられることもある。

5) pronomoj personaj: *mi, vi, li, ŝi, ĝi* (pri objekto aŭ besto), *si, ni, vi, ili, oni*; la pronomoj posedaj estas formataj per la aldono de la finiĝo adjektiva. La deklinacio estas kiel ĉe la substantivoj.

五 人稱代名詞は mi, vi, li, ŝi, ĝi (この ĝi は物又は動物に使ふ), si, ni, vi, ili, oni で物主代名詞は之に形容詞の語尾を加へて作る。代名詞の變化は名詞の場合と同じだ。

6) La verbo ne estas ŝanĝata laŭ personoj nek nombroj. Formoj de la verbo: la tempo estanta

akceptas la finiĝon *-as;* la tempo estinta *-is;* la tempo estonta *-os;* la modo kondiĉa *-us;* la modo ordona *-u;* la modo sendifina *-i.* Participoj (kun senco adjektiva aŭ adverba): aktiva estanta *-ant;* aktiva estinta *-int;* aktiva estonta *-ont;* pasiva estanta *-at;* pasiva estinta *-it;* pasiva estonta *-ot.* Ĉiuj formoj de la pasivo estas formataj per helpo de responda formo de la verbo *esti* kaj participo pasiva de la bezonata verbo; la prepozicio ĉe la pasivo estas *de.*

六 動詞は人稱と數によつて形を變じない。動詞の形は現在は as, 過去は is, 未來は os, 條件法は us, 命令法は u, 不定法は i の語尾をとる。分詞は形容詞又は副詞の意味をもつて居て能働の現在は ant, 過去は int, 未來は ont, 受働の現在は at, 過去は it, 未來は ot の語尾をとる。受働形は動詞 esti の適應する形と所要の動詞の受働分詞とで作りこの際, 前置詞は de を用ゐる。

7) La adverboj finiĝas per *e;* gradoj de komparado kiel ĉe la adjektivoj.

七 副詞は e の語尾に終る、比較の度を表はす方法は形容詞の場合と同樣である

8) Ĉiuj prepozicioj per si mem postulas la nominativon.

八 總ての前置詞はそれ自身としては第一格を支配する。

9) Ĉiu vorto estas legata, kiel ĝi estas skribita.

九 語は何れも書いてあるやうに讀む。

10) La akcento estas ĉiam sur la antaŭlasta silabo.

一〇 アクセントはいつも終から二番目の綴にある。

11) Vortoj kunmetitaj estas formataj per simpla kunigo de la vortoj (la ĉefa vorto staras en la fino); la gramatikaj finiĝoj estas rigardataj ankaŭ kiel memstaraj vortoj.

一一 組立語は單にそを寄合せて作りこの際，主要なる語は終に置かれる。文法上の語尾は獨立した語とも見られる。

12) Ĉe alia nea vorto la vorto *ne* estas forlasata.

一二 ne 以外の否定詞の場合には ne を捨てる。

13) Por montri direkton, la vortoj ricevas la finiĝon de la akuzativo.

一三 方向を示す爲めには第四格の語尾をつける。

14) Ĉiu prepozicio havas difinitan kaj konstantan signifon; sed se ni devas uzi ian prepozicion kaj la rekta senco ne montras al ni, kian nome prepozicion ni devas preni, tiam ni uzas la prepozicion *je*, kiu memstaran signifon ne havas. Anstataŭ la prepozicio *je* oni povas ankaŭ uzi la akuzativon sen prepozicio.

一四 前置詞は何れも一定不變の意味を持つて居る。併し若し或る前置詞を使ふ必要があり乍ら直接の意味から考へて特にどの前置詞を用ゐるのか分らない時には獨立した意味のない je と云ふ前置詞を使用する。又，この je の代りに前置詞をつけないで第四格を使つてもいゝ。

15) La tiel nomataj vortoj fremdaj, t. e. tiuj, kiujn la plimulto de la lingvoj prenis el unu fonto, estas uzataj en la lingvo Esperanto sen ŝanĝo, ricevante nur la ortografion de tiu ĉi lingvo; sed ĉe diversaj vortoj de unu radiko estas pli bone uzi senŝanĝe nur la vorton fundamentan kaj la ceterajn formi el tiu ĉi lasta laŭ la reguloj de la lingvo Esperanto.

一五 所謂外國語卽ち多くの國語が一の語根から採用して居る語はただエスペラントの正字法に從つて書替へられるだけでその儘エス語として使はれる。併し一つの語根から出て居る種々の語のある場合には基本になる語だけをそのまゝ用ゐ他の語はこの語をエスペラントの規則に從つて作つた方がいゝ。

16) La fina vokalo de la substantivo kaj de la

artikolo povas esti forlasata kaj anstataŭata de apostrofo.

一六　名詞と冠詞の終にある母音は省いてアポストロフをその代りにつけてもいゝ。

大正十五年七月二十八日印刷
大正十五年八月　一　日發行

定價　金壹圓　（郵稅六錢）

著　者　村田正太

東京市本郷區向岡彌生町三
發行者　瀧口正

東京市本郷區駒込林町一七二
印刷者　柴山則常

東京市本郷區駒込林町一七二
印刷所　合資會社杏林舍

東京市本郷區向岡彌生町三
發行所　醫事新聞社
振替東京三五八五番

東京市本郷區龍岡町
賣捌所　吐鳳堂書店
振替東京四一八番